

**2021年度  
授業の自己評価報告書**

**奥羽大学 歯学部**

## 2021年度 授業の自己評価報告書科目一覧

学年	授 業 科 目	科 目 責 任 者	頁
1	基礎物理学	荒 木 威	1
1	物理学実験	菊 地 尚 志	2
1	基礎化学	斎 藤 昇太郎	3
1	化学実験	阿 部 匡 聡	4
1	基礎生物学	今 井 元	5
1	生物学実験	今 井 元	6
1	統計数学	菊 地 尚 志	7
1	情報リテラシー I	古 山 昭	8
1	英語 I	長 峯 英 樹	9
1	歯科医療概論	大 野 敬	10
1	基礎歯学概論 I	安 部 仁 晴	11
1	歯科医療人間学 I	中 川 敏 浩	12
1	日本語リテラシー	本 多 真 史	13
1	経営学	長 峯 英 樹	14
1	郡山学 / 福島学	安 藤 勝	15
1	英語基礎	長 峯 英 樹	16
2	物理学	菊 地 尚 志	17
2	化学	阿 部 匡 聡	18
2	情報リテラシー II	宇佐美 晶 信	19
2	英語 II	長 峯 英 樹	20
2	基礎歯学概論 II	遊 佐 淳 子	21
2	生物学	前 田 豊 信	22
2	読解力向上演習	本 多 真 史	23
2	口腔解剖学	宇佐美 晶 信	24
2	口腔解剖学実習	宇佐美 晶 信	25
2	解剖学	宇佐美 晶 信	26
2	解剖学実習	宇佐美 晶 信	27
2	口腔組織学	安 部 仁 晴	28
2	口腔組織学実習	安 部 仁 晴	29
2	口腔生理学 I	川 合 宏 仁	30
2	口腔生理学実習	川 合 宏 仁	31
2	口腔生化学 I	加 藤 靖 正	32
2	口腔感染免疫学 I	清 浦 有 祐	33
2	歯科薬理学 I	鈴 木 礼 子	34
2	公衆衛生学	小 林 美 智代	35
3	歯科医療管理学	大 橋 明 石	36
3	歯科医療人間学 III	清 野 晃 孝	37
3	社会歯科学	南 健 太郎	38
3	口腔生理学 II	川 合 宏 仁	39
3	口腔生化学 II	加 藤 靖 正	40
3	口腔生化学実習	加 藤 靖 正	41
3	口腔感染免疫学 II	清 浦 有 祐	42
3	口腔感染免疫学実習	清 浦 有 祐	43
3	歯科薬理学 II	柴 田 達 也	44
3	歯科薬理学実習	鈴 木 礼 子	45
3	口腔衛生学	廣 瀬 公 治	46
3	口腔衛生学実習	廣 瀬 公 治	47
3	保存修復学 I	山 田 嘉 重	48
3	冠橋義歯補綴学 I	羽 鳥 弘 毅	49
3	有床義歯補綴学 I	山 森 徹 雄	50
3	有床義歯補綴学 I 実習	山 森 徹 雄	51
3	口腔外科学 I	金 秀 樹	52
3	歯科放射線学 I	原 田 卓 哉	53

学年	授 業 科 目	科 目 責 任 者	頁
3	高 齡 者 歯 科 学 I	鈴 木 史 彦	54
3	災 害 歯 科 医 学	板 橋 仁	55
3	総 合 臨 床 医 学	馬 場 優	56
3	口 腔 内 科 学	高 田 訓	57
4	保 存 修 復 学 II	山 田 嘉 重	58
4	保 存 修 復 学 実 習	山 田 嘉 重	59
4	歯 内 療 法 学	木 村 裕 一	60
4	歯 内 療 法 学 実 習	木 村 裕 一	61
4	歯 周 病 学	高 橋 慶 壯	62
4	歯 周 病 学 実 習	高 橋 慶 壯	63
4	冠 橋 義 歯 補 綴 学 II	羽 鳥 弘 毅	64
4	冠 橋 義 歯 補 綴 学 実 習	羽 鳥 弘 毅	65
4	有 床 義 歯 補 綴 学 II	山 森 徹 雄	66
4	有 床 義 歯 補 綴 学 II 実 習	山 森 徹 雄	67
4	口 腔 外 科 学 II	川 原 一 郎	68
4	口 腔 外 科 学 III	高 田 訓	69
4	歯 科 矯 正 学	福 井 和 徳	70
4	歯 科 矯 正 学 実 習	福 井 和 徳	71
4	歯 科 放 射 線 学 II	原 田 卓 哉	72
4	歯 科 麻 醉 学	山 崎 信 也	73
4	小 児 歯 科 学	島 村 和 宏	74
4	小 児 歯 科 学 実 習	島 村 和 宏	75
4	高 齡 者 歯 科 学 II	鈴 木 史 彦	76
4	障 害 者 歯 科 学	佐 々 木 重 夫	77
4	臨 床 総 合 演 習	清 野 晃 孝	78
4	口 腔 イ ン プ ラ ン ト 学	山 森 徹 雄	79
4	口 腔 イ ン プ ラ ン ト 学 実 習	山 森 徹 雄	80
6	口 腔 組 織 学	安 部 仁 晴	81
6	口 腔 感 染 免 疫 学	清 浦 有 祐	82
6	歯 科 薬 理 学	鈴 木 礼 子	83
6	口 腔 生 理 学	川 合 宏 仁	84
6	口 腔 生 化 学	加 藤 靖 正	85
6	保 存 修 復 学	山 田 嘉 重	86
6	歯 内 療 法 学	木 村 裕 一	87
6	歯 周 病 学	高 橋 慶 壯	88
6	冠 橋 義 歯 補 綴 学	羽 鳥 弘 毅	89
6	有 床 義 歯 補 綴 学	山 森 徹 雄	90
6	口 腔 イ ン プ ラ ン ト 学	山 森 徹 雄	91
6	歯 科 矯 正 学	福 井 和 徳	92
6	小 児 歯 科 学	島 村 和 宏	93
6	歯 科 放 射 線 学	原 田 卓 哉	94
6	総 合 臨 床 医 学	馬 場 優	95
6	歯 科 麻 醉 学	山 崎 信 也	96
6	高 齡 者 歯 科 学	鈴 木 史 彦	97
6	障 害 者 歯 科 学	佐 々 木 重 夫	98
6	公 衆 衛 生 学 ・ 口 腔 衛 生 学	廣 瀬 公 治	99
6	社 会 歯 科 学	南 健 太 郎	100
6	口 腔 外 科 学	高 田 訓	101
6	口 腔 内 科 学	高 田 訓	102
6	災 害 歯 科 医 学	板 橋 仁	103
6	歯 科 医 療 管 理 学	大 橋 明 石	104

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	基礎物理学	第1学年
科目責任者(記載者)	荒木威	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯科医師を目指す学生にとって重要となる「力、エネルギー、熱、電磁波、放射線」に注力し授業を進めている。基本的な知識を習得させるとともに、演習問題を通じて問題文を読み解く力、論理的な思考に基づき解法を立案する力、正しい手順と計算を経て正答を導く力を養うことを目標としている。

### 2) 自己点検・評価

授業内容に関しては学生に概ね受け入れられたようであるが、「歯科医師として必要である」という点はあまり伝わらなかったようである。学生から「なぜ物理学を履修する必要があるのか」と問われることがあった。

### 3) 改善方策

歯科医師国家試験の過去問題を例に挙げながら物理学の必要性を強調する。物理学の知識が必要となる問題(材料学、放射線に関する問題など)をピックアップする。また、問題を解く上で「現状説明」で挙げた3つの力がいかに必要であるか解説する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

プロジェクターを用いた講義形式の授業の後、その内容に沿った演習を実施している。演習の時間を確保するため、講義で用いるスライドは事前に配布し板書はほぼ行っていない。演習問題の題材にできるだけ医療、人体、健康に関するものを取り上げ、学生が興味を持ちやすいようにしている。演習中は教員への質問や学生同士の議論を推奨している。

### 2) 自己点検・評価

講義、演習と続く形式は好評であった。配布資料(スライド)と演習問題の内容の評判も上々であった。板書とノート取りの時間を無くし効率化を図れた一方、板書による説明を望む声もあった。演習中に、物理が得意な学生が苦手な学生を教える場面が多くあった。一方で、早く解き終わってしまい雑談を始めてしまう学生もいた。

### 3) 改善方策

板書による授業は時間的な制約のため困難である。代わりに復習用の資料を充実させる。考え方や途中計算を詳しくまとめた資料を作成し公開する。高校で物理学を履修していた学生とそうでない学生が混在しているため、演習問題を終えるまでにかかる時間にどうしても差ができてしまう。早く解き終わってしまった学生用に発展問題(必ずしも解けなくてもよい)を用意しておく。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

授業毎に行う演習、中間試験、定期試験の点数をもとに、演習20%、中間試験40%、定期試験40%の割合で評価している。進級基準に満たなかった学生には、学年末に再試験を実施している。

### 2) 自己点検・評価

特に問題はなかった。不満の声も聞かれなかった。

### 3) 改善方策

次年度も同様の評価方法と基準を維持する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	物理学実験	第1学年
科目責任者(記載者)	菊地尚志	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

物理学が記述する事柄が現実の自然現象を表現することを理解するために、様々な実験を実施する。その経験を通して、将来歯科医師として直面する問題を理性的に判断し、合理的に解決できる能力を養う。自分の判断、解決を理路整然と文章にまとめ、他者へ説明する能力も養う。1) 自然現象を説明する。2) 機器を正しく取り扱う。3) 誤差を含む数値を処理する。4) 報告書を分かりやすく書く。

### 2) 自己点検・評価

基礎物理学の授業内容と関連付けて実験の説明もしている。統計数学で学んだ技術も実験で応用している。

### 3) 改善方策

到達目標については現状でいいと考えている。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

実験を実施する前に担当する実験について教科書で予習し安全に実験を進める。実験での測定値が妥当なものであるか確認しながら慎重に実験を進める。実験結果を、他者に分かり易く伝えることを意識して報告書にまとめさせる。

### 2) 自己点検・評価

物理学は本学の学生にとって最も苦手な科目の一つであるが、その苦手意識を持たない様に指導できていると考えている。授業評価のアンケート結果も全体平均と比べて高い。

### 3) 改善方策

とかく記憶が中心の勉強方法をとる本学学生にとって実験実習し、さらにそれをレポートにまとめる過程は「覚える」だけから「考えて分かる」までの経験をする上で大切だ。来年度はその点を今まで以上に強調して教育を行う。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

毎回の実験を、出席し実験を行なったとき45%、提出された報告書の内容によってさらに加点して、45%から最大100%で評価する。半期分全体の成績の総和で合否を決める。

### 2) 自己点検・評価

課題の未提出者を除いてはほぼ全員が合格点を取った。その点では適切な評価基準になっていると考えられる。

### 3) 改善方策

配点について疑問を呈する意見があったのでその点は明確にして行く。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	基礎化学	第1学年
科目責任者(記載者)	斎藤昇太郎	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

高等学校レベルの化学的知識を理解・習得し、さらに基礎科目・臨床科目の理解・習得に必要な知識を得ることにある。化学に苦手意識のある学生にとって困難すぎる到達目標とならないよう、高等学校の初等レベルの内容を到達目標の一部とし、また、既習者にとって平易すぎる到達目標とならないよう、大学の一般レベルの内容をも到達目標の一部としている。これによって講義内容のバランスを確保している。

### 2) 自己点検・評価

シラバスに記載した7個の到達目標は定期試験の解答や概ね毎週化している課題の提出状況から、学生のレベルに応じて、講義内容を調整した。多くの学生において達成されているものと考えられる。

### 3) 改善方策

到達目標の5) IUPAC命名法に従って、構造式から有機化合物名を記述できる。および、6) IUPAC命名法を理解し、有機化合物名から構造式を記述できる。については、暗記内容が多く、学生にとってはつまらないと感じる要素が多いが、連動科目において重要な要素であるため、講義内容の重要性がより伝わるよう学生に説明する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

学生にはシラバスを参照しながら予習するように指導し、主に板書により教科書の内容を中心に説明、配布する課題によって復習できるようにしている。

### 2) 自己点検・評価

配布課題によって週ごとに学生の理解状況を把握しつつ、学生誤解答にはすべて修正を加えることで、双方向性を確保した。これについては、学生からも評価を得ている。また、化学を苦手とする学生向けに自由参加の少人数制補講を実施することで個々に理解が足りない部分を聞き取り、解説した。

### 3) 改善方策

板書量が多く、筆記が追い付かないという意見が毎年あるため、毎年板書内容を見直し、できる限り削減に努めている。一方で、教科書の内容が分かりにくい・難しいという意見もあり、これを補足するためには解説が必要であるため、視覚的な配布資料を増やす。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験を75点、提出課題を25点満点とし、100点満点としている。

### 2) 自己点検・評価

課題点は、解答内容が不良である場合には追加して課すことで無理のない範囲で、ほとんどの学生が20点以上を獲得できるように努めている。評価方法に問題はないと考えている。

### 3) 改善方策

現状を維持する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	化学実験	第1学年
科目責任者(記載者)	阿部匡聡	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

基本的な化合物について、構造・性質・反応を理解するとともに、物質の濃度を測定するしくみを理解するため、①教本に示された手順通りに、実験を行うこと ②実験器具を正しく取り扱い、精密測容器具の目盛りを正確に読み取ること ③行った実験の過程で進行した反応を説明すること ④得られた測定データや観察結果を正確に記録し、正確なレポートを作成すること、を到達目標としている。

### 2) 自己点検・評価

目標としては、適切であると考えている。

### 3) 改善方策

修正・変更は特にしない。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

始めに、その回の実験内容の重要事項と実験操作上の注意事項を説明し、その後、個人で、あるいは3~4人のグループで実験を進めていく。正確で安全な実験操作が行われているか、常にチェックし、適宜、指導を行う。結果を正確に記録させるとともに、結果のもつ意味を考えるよう導く。

### 2) 自己点検・評価

試薬類・機器の配置、実験進行の流れ、指導法は、適切であると考えている。

### 3) 改善方策

実験の進行が極端に遅い学生がいる場合、作業を効率的に進められるよう誘導する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

レポート 73%、演習 15%、出席状況・受講態度 12% により評価した。

### 2) 自己点検・評価

評価法としては、適切であると考えている。

### 3) 改善方策

評価法の修正・変更は特にしない。欠席すると、その回のレポートの得点を放棄することになるので、安易に欠席しないよう、その点の周知徹底を図る。

# 2021度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	基礎生物学	第1学年
科目責任者(記載者)	今井 元	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

一般目標は、「歯学部的基础科目で修得する学習項目」を理解し、「動物の体制(構造と機能)」について「個体の階層性(細胞→組織→器官→器官系)」の順に系統的に修得し、「その成り立ち」について理解することである。到達目標は、1. 細胞 2. 組織 3. 器官 4. 器官系の基本構造と機能、5. 刺激の受容と反応 6. 体内環境の調節と恒常性の維持、7. 系統発生と個体発生 及び 多様性を説明できることである。

### 2) 自己点検・評価

成績上位4/5(85%)の学生は、①「歯学部的基础科目で修得すべき学習項目」②「個体の階層性」③「細胞・組織の構造と機能」、④「器官・器官系における刺激の受容と反応・体内環境の調節」⑤「系統発生と個体発生及び多様性」などを系統的に説明できるようになった。成績下位の1/5(15%)の学生は、1年生のうちに上記①～⑤の人体の構造の全体像とその機能の概要を系統的に理解する重要性を認識していないように思われる。学生からは、用語(プリント)の間違えが多いとの指摘があった。

### 3) 改善方策

現在も『生物学で用いる用語』と『CBT用語や大学で使用する用語』との違いは、その都度、説明しているが、来年度は、『用語』との違いについて、もっと強調して説明することとする。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

履修方法は、学習効果ピラミッドに準じて行なっている。  
具体的には、「細胞の構造」・「脊椎動物の組織」・「刺激の受容と反応」・「体内環境の維持」・「生物の個体発生と系統発生」・「生態と行動」についての講義を聴講・理解し、各講義に対する課題(問題形式)について討議した後、課題の解答をサブノートにまとめ、教え合うことによって長期記憶を形成する。

### 2) 自己点検・評価

学生からは、以下の指摘があった。  
1) 説明が理解できない学生に対して不平等である。  
2) サブノートを廃止した方が良い。

### 3) 改善方策

1) に対しては、質問の機会をもっと増やして対応する。  
2) に対しては、サブノートだけは試験に持ち込み可であり、最終評価は基本的に試験で評価されるので、やるのもやらないのも、学生の自由であることを説明する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

前期・後期の中間試験と定期試験(計4区分)で評価している。すなわち、  
第1区分: 前期中間「細胞の構造・脊椎動物の組織」(細胞と四大組織)/第2区分: 前期定期「刺激の受容と反応(神経系と内分泌系)」/  
第3区分: 後期中間「体内環境の維持(各器官系の調節)」/第4区分: 後期定期「生物の個体発生と系統発生」「生態と行動」を行い、  
各区分で試験を得上に評価し、最終評価は各平均値とする。

### 2) 自己点検・評価

1人、不合格者を出してしまった。

### 3) 改善方策

来年は、全員合格させられるように、さらに努力したい。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	生物学実験	第1学年
科目責任者(記載者)	今井 元	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

本科目においては、動物愛護の精神(3R)を学んだ上で、植物、動物、微生物を材料とした顕微鏡観察から生命体の基本構造(細胞・オルガネラ・組織・細胞分裂)を把握する。また、カエルを用いた肉眼解剖により、個体(脊椎動物)における各器官の構造と配列など基本的体制、発生過程を把握する。また、これらの実験を通して、実験の心構え、ルール、レポート作成法を修得することにより、科学論文の構成を学ぶ。

### 2) 自己点検・評価

ほとんどの学生に、1)動物愛護の精神(3R)の理解・心構え 2)顕微鏡・解剖器具の使用法 3)化学染色法などの試料作成法 4)細胞構造・細胞分裂・胚発生の過程 5)器官と各器官系の分類 6)実験結果のまとめ方(レポートの作成法)などを修得させることができた。しかし、一部の学生は、『提出が遅れる、訂正後の再提出ができない』など、実習の心構えとレポートの重要性について理解させられなかった。

### 3) 改善方策

『提出が遅れる、訂正後の再提出ができない』などの学生に対して、実習試験を行い対処する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

ガイダンスにおいて、動物愛護の精神を強調した上で、扱う生物の基礎知識・実験の目的・手順・関連する基礎医学的知識を説明する。

顕微鏡と実験器具との適正な使用法を学んだ上で、様々な細胞やオルガネラ構造などを詳細に観察し、スケッチする実習を行う。また、カエルの解剖を行い、各器官の構成や配列などを詳細に観察し、スケッチする実習を行う。実験に関するレポート作成し、論文の読み方や作成法の基礎を学ぶ。

### 2) 自己点検・評価

学生からは、以下の2点について指摘があった。

- 1) 教科書を指定し、教科書を読めば、試験で点数がとれるようにしてほしい。
- 2) サブノートの分量が多い。

### 3) 改善方策

1) 教科書(得意になる解剖と整理)は指定しているが、プリントの出典(歯科衛生士教本・アメリカ大学生物学)をもっと良く説明する。

2) サブノートはやるのもやらないのも、学生の自由である。ただし、サブノートを丁寧に作成できる学生ほど、定期試験だけでなく、総合試験の成績も良く、2年以降も留年確率が下がるので、書いて覚えることの重要性を、根気よく説明していく。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

レポート点で100%評価する。評価は、40点満点のレポートを12回提出し、最低点から2回分を削除し、全10回で評価する。提出期限に遅れた場合は4点/1日が減ぜられる。未提出+無断欠席がN回の場合、Nが1で90点満点、2で80点満点、3で70点満点となる。評価の計算式は、 $\text{評価点} = \{ (12\text{回} - N\text{回}) \text{の総点} - \text{最低2回削除} \} \times 2.5 \div 10\text{回}$ 。これで基準点に達しない学生には、課題の提出で加点している。

### 2) 自己点検・評価

不合格者はいなかった。

### 3) 改善方策

レポートの提出遅延に関しては、2年以降を考えると、実習試験などを設定し、厳しく対処する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	統計数理学	第1学年
科目責任者(記載者)	菊地尚志	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

統計学の方法を理解して、歯科医師として客観的、合理的な判断力を養う。そのために1) 統計資料を整理する。2) 統計料を計算する。3) 様々な確率分布を説明する。4) 統計的推定ができる。5) 統計的検定ができるようにする。

### 2) 自己点検・評価

歯科医師として将来用いる数学は主に統計学であろうと考えられる。国試でも扱われる内容なのでそれを強調して授業を行っている。授業評価の結果からは概ね学生には授業内容は伝わったと考えられる。

### 3) 改善方策

目標に関しては現状でいいと考える。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

それで板書を中心に授業を行う。授業をよく聞きノートをきちんと取って、さらに自分で主体的に「手を動かす」ことで理解を深めてられるように進める。

### 2) 自己点検・評価

統計数理学の授業を担当する様になり、数年が経つ。少しずつ改善して全体としての論理が通じるようになってきたと考えている。また統計学の手法を身につけさせる上で授業時間での説明だけでは不十分である。この点に関して改善方策でのべる。

### 3) 改善方策

統計学の手法を身につけるためには、授業を聞いているだけでは不十分で実際自分の手で計算などを行う必要がある。これを限られた授業時間内に行うのは難しい。宿題として提出させたり、科目選択ゼミを演習に使ったりする。ときどき説明が冗長になることがあったのでその点を改善していく。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

前期と後期のそれぞれの定期試験で成績を決定する。必要のある場合レポートなどの課題を課して、最大30%の範囲でその結果を成績に加える。

### 2) 自己点検・評価

数学が苦手な学生の多い中でプレテストも行って大分の学生が再試験なしで合格点をとっている。平均点も80点近くになっているので概ね現状でいいと考えている。

### 3) 改善方策

評価方法は現状維持でいいと考える。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	情報リテラシーI	第 1学年
科目責任者(記載者)	古山 昭	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

CBTに対応できるよう、情報処理機器やソフトの扱いに習熟する。メールの作法やネットリテラシーについて学ぶ。

### 2) 自己点検・評価

科目の目標は概ね達成できている。

### 3) 改善方策

学生対応を一層、丁寧に行う。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

講義と演習は教室でおこなうが、毎週の予習・復習をGoogle Classroomを用いて行っている。

### 2) 自己点検・評価

概ね問題なく実行できている。

### 3) 改善方策

学生対応を、一層丁寧に行う。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

前期と後期に試験(20%×2)、単元別まとめ課題(8%×5)、宿題(予習課題)20%で評価を行う。

### 2) 自己点検・評価

試験についての情報は丁寧に提示しているつもりだが、それでも不安を感じる学生がいる。

### 3) 改善方策

学生の試験内容についての理解を助けるよう、丁寧に対応していく。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	英語 I	第 1 学年
科目責任者(記載者)	長峯 英樹	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

本講義は「英語基礎」で学んだテーマについて、①テキスト以外の資料を読むことを理解を深めること、②大手メディアや海外の時事ニュースに慣れること（とくにボリュームとスピード）、③グループで調査し、英語で発表すること、を目標としている。③に関しては、新型コロナウイルス感染防止の観点から割愛した。

### 2) 自己点検・評価

テキスト以外の資料を読み、理解を深める点については、全般的によくできたと思う。しかし、②の時事ニュースに慣れるといった目標の達成は、一部の学生を除き、あまり達成できなかった。英語学習の習慣化の必要性を理解してもらうことはできて、実際に行動に移してもらうような指導力が不十分であることを痛感している。

### 3) 改善方策

今後、会話力の強化を視野に入れた場合、英文理解のスピード向上が必要であり、そのためには英語学習の習慣化が不可欠である。やはりある程度の強制力をもった学習機会が必要であると思う。全学生を対象にすることは困難であるが、希望者を対象にしたオンラインTOEIC勉強会を今後も継続し、参加者の数を増やしていくことで全体のレベルを向上させることも一つの方法だと考える。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

「英語基礎」で学んだ知識をもとに、ライティングやスピーキングといった発信力の向上を目的とした講義内容である。本年度もグループプレゼンテーションを割愛したため、ライティングを中心とした指導となった。

### 2) 自己点検・評価

英文のライティングに関しては「英訳」ではなく、基本構文やパターンを覚え、文法事項に注意しながら、自分の文章にしていくことが一番効果的な方法である。しかし、「丸暗記は役に立たない」といった考えが根強い学生も少なくない。暗記を基本とした方法の有効性をいかに理解して実践してもらえかが課題である。

### 3) 改善方策

スピーキングやライティングは講義内容の理解だけでは上達が望めないスキルである。各学生の自宅学習に任せるよりも、基本構文を確実に覚えてもらうように、授業内で自習時間を確保する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験(80%)、課題提出(20%)により評価。試験としては、単なる知識を問うのではなく、あるテーマについて自分で調べて、基本構文とパラグラフの構成をしっかり意識しながら英文を構成できているかを問う内容とした。

### 2) 自己点検・評価

今後も改善し続ける必要はあるが、試験および評価の方向性としては間違っていないと思う。

### 3) 改善方策

学生の自主性に任せるだけでなく、授業内で重要語句や構文を最低でも10回書いてもらうなど、ある程度の強制力をもつような課題を出す。その有効性を実感してもらうには継続していくしかないと考えている。

## 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科医療概論	第1学年
科目責任者(記載者)	大野 敬	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯学部学生としての心構えと目標を設定するために、歯科医師の使命と魅力、歯科医学教育内容と必要な学習態度および学修方法、歯科医師として求められる基本的な資質、歯科医師と社会の関わりを理解させるために授業をおこなっている。

#### 2) 自己点検・評価

学生の授業態度、学生による授業評価から到達目標は達成できたと考える。

#### 3) 改善方策

歯学部1年生における意識向上のためには、歯科医療概論の教育目標と意義をさらに明確にした授業内容にする必要がある。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

教員の作成したプリントと投影視覚素材を使用して授業を行っている。プリントは穴埋め形式で必要事項は板書し説明を加え理解しやすく工夫している。板書は大きく、説明はゆっくりと丁寧にはっきりとした口調を心がけて授業を行っている。

#### 2) 自己点検・評価

学生による授業評価から教育方法を大幅に変更する問題はないと考える。

#### 3) 改善方策

専門用語は使用せず、より理解しやすい平易な言葉で授業を行う。授業内容で疑問点があれば直ちに質問できるよう時間的にゆとりを持たせる。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

授業内容について形成的評価（小論文の評価）を行い、形成的評価の総和を形成的評価の回数で割り、65点以上を合格とした。

#### 2) 自己点検・評価

歯科医療概論は100%の合格率であり問題ない。

#### 3) 改善方策

現在の評価方法で良いと判断し、次年度も同様の評価方法で成績評価を行う。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	基礎歯学概論 I	第 1 学年
科目責任者(記載者)	安部 仁晴	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

一般目標を『病態を解析するための基礎となる第2学年時の前期履修科目となる専門基礎科目を中心に、その知識を習得する。』として、各科目における最重要項目に焦点をあて、基本的な知識の習得を心がけた。口腔解剖学、口腔組織学、口腔生理学および口腔感染免疫学の各分野より、講義内容に沿った到達目標を設定し、複数の教員で分担して講義を行った。

### 2) 自己点検・評価

次年度に履修する教科で構成したが、重要項目を解りやすく説明することで、一定の知識を習得し、次年度以降の基盤をつくることができた。また、歯科医療との関連性や国家試験の問題例を提示することで、学生の授業評価にもあるように『歯学部らしい勉強ができた』『歯科医療の知識が全くない状態でも理解できた』などの意見につながったものとする。

### 3) 改善方策

集計項目のすべてで平均を上回っており、到達目標と講義内容は、次年度も概ね変更する点はないと考える。しかし、科目間で達成度に差がみられるため、1コマで講義する内容、重要事項を量的に限定する必要性があり、具体的には1コマで選択肢問題で5問作成できる量とすることを各担当者に周知徹底する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

口腔解剖学、口腔組織学、口腔生理学および口腔感染免疫学の各分野、各担当者により教育方法は異なる。講義内容のプリントを作成、スライドまたは板書による重要事項の解説、問題演習と多岐にわたっていた。

### 2) 自己点検・評価

教育方法を単一化しなかったことで、各担当者により様々なバリエーションが生まれ、学生の授業評価にもあるように『先生ごとに形式が異なっていて面白かった』『全教員がわかりやすく懇切丁寧に授業していた』などの意見につながったものとする。前年度に比べ『授業前に予習を行った』の項目が改善された。

### 3) 改善方策

次年度に履修する教科で構成されているため教本を指定していない。予習する手段として、授業資料の事前配布や授業資料提示システムに事前に講義プリント等の資料をアップロードしていただくよう担当者に進言する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

成績評価は、前後期の定期試験のみで評価した。

### 2) 自己点検・評価

定期試験と追再試験で、ほぼ全ての学生は合格基準に達していた。しかし、合格基準に達しなかった学生も1名いた。

### 3) 改善方策

定期試験と追再試験で、ほぼ全ての学生は合格基準に達していたため、評価方法を変更する必要性はないと考える。しかし、追再試験を実施する前に、フィードバックする時間を設け、習熟度を向上させたい。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科医療人間学 I	第 1 学年
科目責任者(記載者)	中川敏浩	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

一般目標である『基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度, 知識および技能を修得する』ことを最重要として、複数の教員で分担し行った。

### 2) 自己点検・評価

講義毎に重要項目についての留意させながら、一般的コミュニケーションのみならず、医療現場との関連させていけるような感覚が身に付くよう心掛けた。

初めはとまどうような場面もみられたが、進めるにつれて学生の意識も高まり、授業評価アンケートでは高い満足度が示された。

### 3) 改善方策

一般の講義とは趣が異なる本科目では、言語学習的な領域では従来型の学習法で問題なく行えていると考える。  
一方、コミュニケーションを育成してゆくことでのグループセッションや自己表現パフォーマンスを高めることなどでは苦手あるいは不慣れた学生も少ないものの、医療人間学は3年生までの継続科目でもあることから性急にではなく少し長い目で、育てるという意識で接してゆきたい。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

教員からの講義授業だけではなく、挨拶から始まり、自己表現、対人対応状況などをビデオ撮影して客観的にも自覚・向上をめざす。将来の患者対応を見据え、要点をまとめ伝える力、傾聴能力を高め相手の主張、ポイントをつかむことができるよう模擬会話なども行っている。

### 2) 自己点検・評価

学生からの授業アンケートからは高い満足度が得られたと評価された。  
コミュニケーションということに主眼をおく本科目の特殊性から、一部、学生においても積極的な者、消極的な者と温度差がみられた。

### 3) 改善方策

学生個人個人とより深く接することで各人のよい人間性を伸ばし育てるようにしたい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

筆記試験  
自己表現のビデオ撮影

### 2) 自己点検・評価

ほぼ全ての学生は合格基準に達していた。

### 3) 改善方策

授業は全体で行っているが、コミュニケーション能力には個人差が大きく、不十分と思われる学生に対しては個々に時間外も利用し対応してゆきたい。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	日本語リテラシー	第1学年
科目責任者(記載者)	本多真史	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

大学生や社会人になると、身近な人だけでなく、面識のない人にも自分の考えを伝える機会が増える。特に、医療関係の仕事では、情報や意見を相手に正確、かつ、わかりやすく伝えることが必要とされる。これを踏まえ、本講義では文章を正確に読み・書き、他者の意見をきちんと理解し、自らの考えを整理し、それを正しく・わかりやすく伝えることができる日本語運用能力を培うことを目指している。

### 2) 自己点検・評価

到達目標の1)として、「医療人となるための『読む、聞く、話す、書く、考える』の基礎力を身につける」ことをシラバスに記載している。「学生による授業評価アンケート」の項目2「授業はシラバスに沿って系統だって行われたか」の結果を参照すると、受講生の多くが「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」のどちらかに回答しており、本講義において掲げた目標は達成できたと言える。

### 3) 改善方策

到達目標と授業内容は一致しており、変更の必要はないと考える。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

『大学生のための日本語表現トレーニング・スキルアップ編』を使用して講義しつつ、演習形式を取り入れた。また知識の定着には欠かせない「学ぶ>練習する>使ってみる>振り返る」という効果的な一連の動作を実践するよう働きかけた。加えて、講義・演習とも、聴覚的な効果をねらい、パワーポイントで作成した資料をプロジェクターを使用してスクリーンに映した。

### 2) 自己点検・評価

授業評価アンケートでは、ほぼ全ての項目で平均値を上回り、良好な評価を得た。自由記述では「とてもわかりやすく、楽しい授業だった」「レジュメが見やすく、復習しやすかった」「聞き取りやすい声で、丁寧に講義なさっていた」との意見があった。

### 3) 改善方策

授業評価アンケートでは、ほぼ全ての項目で平均値を上回っていることから、現行の教育方法でよいと考える。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験(70%)、ワークシート・レポートの提出状況およびその内容(30%)として、総合的に評価した。課題は採点后に返却し、次回の授業で解説を行った。

### 2) 自己点検・評価

合格率は100%であり、成績評価に関して問題ないと考える。

### 3) 改善方策

授業評価アンケートでも特に指摘はなく、現行で問題ないと考えている。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	経営学	第1学年
科目責任者(記載者)	長峯 英樹	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

企業経営に興味を持ってもらうことが第一の目標である。具体的には、①基礎的な分析フレームワークの理解、②ビジネスモデルの概要理解、③論理的考察の基礎習得、④将来の経営イメージの構築、の4点である。多様な業界の事例を学ぶことにより、歯科業界にいかに応用できるかについて考察する。

### 2) 自己点検・評価

興味深い企業事例を紹介でき、授業外でも質問や参考図書などの問い合わせが多く寄せられるなど、多くの学生の好奇心を高めることができたと思う。時間が限られているため、マーケティングや組織管理といった各分野を掘り下げることはできなかったが、歯科業界にも応用できそうな事例を数多く紹介することができた。一方で、なぜ医療業界に特化せず、他業種から学ぶ必要があるのか理解できない学生もいた。

### 3) 改善方策

インドのアラビンド眼科がマクドナルドから、メイヨークリニックがトヨタから学んだように、医療機関が他業種から学んだイノベーションの事例を数多く紹介し、学生の関心をさらに高めたい。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

理論や分析フレームワークを学び、いくつかの事例に応用してみることで、様々な視点が存在することを学ぶ。単なる講義形式に終始することなく、各設定テーマに関する分析と議論を行い、自分の考察をまとめるように課題提出などで促す。

### 2) 自己点検・評価

学生による授業評価によると、気軽に質問できる雰囲気を提供する努力が不足していたようである。また、知的好奇心をもっと刺激できるように授業内容を改善していく余地があると思う。

### 3) 改善方策

本学部には、歯科クリニックの経営者として活躍する将来像をもつ学生が多い。普段、英語には苦手意識が強い学生達からも経営学に関しては数多くの興味深いアイデアや問題提起があった。ただ、それらは授業外に寄せられることから、できれば授業内で活発に意見交換できるような工夫をしたい。グループワークやプレゼンテーションはもちろん、通常の授業でも発言を活発化させる機会を設けたい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験(80%)、課題提出およびグループ発表(20%)により評価。知識を問うよりも、学んだ内容をもとに将来の経営イメージを論述してもらう試験内容とした。

### 2) 自己点検・評価

出題の方向性としては間違っていないと思う。一方で、授業で学んだビジネスモデルやフレームワークを意識できていない学生も数名いたため、この点に関する指示が不十分であったと思う。

### 3) 改善方策

授業で学んだ内容を意識した経営イメージができていないか、最終講義時に確認する時間を確保したい。

## 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	郡山学/福島学	第 1 学年
科目責任者(記載者)	安藤勝	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

郡山、福島県を中心とした歴史、文化、地理、人物などについて講義と映像により、より具体的に説明をした。この地域の理解にはある程度到達できた。

#### 2) 自己点検・評価

この科目のねらいがどこにあるか、理解していない学生がいる。足元をよく見ることの大切さを説明する必要がある。

#### 3) 改善方策

どんなテーマが効果的なのか、授業の全体構成を再検討する。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

映像を多く用いて具体的、具象的に説明をした。

#### 2) 自己点検・評価

5人の外部講師が参加していることが、学生に新鮮さを与え、授業のマンネリを防ぐ効果があり、好評であった。

#### 3) 改善方策

60分授業では説明不足になる。70~80分は欲しい。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

概して良好である。

#### 2) 自己点検・評価

学生はもっと質問してほしい。授業担当者も質問しやすい説明をする。

#### 3) 改善方策

レポートの書き方、発表の仕方、図書館の使い方などを指導する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	英語基礎	第1学年
科目責任者(記載者)	長峯 英樹	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

当科目の到達目標は、英文の理解スピードと精度を向上させ、自分の意見を述べるために役立つ表現を習得することである。そのために、国内外の社会問題に関する英文を題材に、(1)基礎英文法の復習、(2)語彙・構文、時事表現の増強、(3)テーマに関する多様な意見とそれぞれの根拠の理解、(4)英語で発信するための基礎スキルの習得、の4つを具体的な目標とした。

### 2) 自己点検・評価

入学時の各学生の能力格差も確かにあるものの、大多数の学生の英語力(とくに基礎文法力)向上に貢献できたのではないかと思う。一方で、(1)から(3)に偏重してしまったことから、(4)の英語による発信スキルの向上については、十分な時間が確保できなかった。

### 3) 改善方策

英文法に関してであるが、例年、「英文法不要派」が一定数存在する。こうした考えをもつ学生たちに基礎的な英文法を習得することの有用性をいかに理解してもらい学習行動につなげてもらえるかが、今後も課題である。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

学生全員に順番で英文の音読とサイトトランスレーションをしてもらい、頻出語彙や時事表現、基礎文法を解説しながら、様々な社会テーマに対する自分の意見を論理的に表現するための重要表現を覚えてもらう。学生間の英語能力格差にいかに対処するかが毎年の課題である。

### 2) 自己点検・評価

全般的に英語に対する苦手意識の軽減に役に立てたのではないかと思う。一方で、学生間の能力や意欲の格差も大きく、一方通行的な講義では対処が難しいことも痛感している。授業時間内に自主学習の時間をできるだけ確保し、個々の質問に対応する形式をとった。それでも、学生の授業評価から質問のしやすさと予習と復習の時間確保という点で改善の余地がまだまだあると認識している。

### 3) 改善方策

「解説は講義で、復習は自宅で」という学習を学生に期待するよりも、解説・質疑応答と復習もできるだけ講義内で行うようにしたい。具体的には、2つのテーマごとに、解説(60分+60分)⇒授業内での復習と疑問点解消(60分)⇒確認テスト前復習(40分)⇒確認テスト、というパターンを確立したい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

確認テストと定期試験(80%)、課題提出(20%)により評価。

### 2) 自己点検・評価

講義で解説したテーマ2つごとに確認テストを実施。後期から、テスト前に40分間の自習時間を設けたことで多くの学生に成績の改善が認められた。一方で、数名の学生はテストが多すぎると感じている。

### 3) 改善方策

学んだ知識やスキルをテストという形で確認するプロセスの重要性を理解してもらいながら、上記の取り組みパターンを継続していきたい。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	物理学	第2学年
科目責任者(記載者)	菊地尚志	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

物理学の基礎的な内容の歯科医学への応用を理解する。そのために1) クーロンの法則で表される原子核と電子の静電気力の効果を理解する、2) 電磁波の発生と物質との相互作用を説明する、3) 物質の弾性を分子・原子間力で説明する、4) 陽子・中性子・電子と呼ばれる基本粒子の性質を説明し、放射線との相互作用を理解する。

### 2) 自己点検・評価

到達目標は具体的には、歯科理工学と歯科放射線学で基礎として必要とされる物理学の内容をしっかりと伝えることにある。その点はそれら二つの科目に関してバランスよく授業できている。

### 3) 改善方策

目標についての改善は考えていない。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

板書を中心に授業を行う。これにより学生がノートをしっかり取りながら能動的に授業に参加することを目論んでいる。ノートの内容を理解している事が「評価」になることを伝えて復習の仕方を教える。

### 2) 自己点検・評価

学生による授業評価のアンケートを見ると、全体平均よりも推しなべて数値が低い。2年生の科目で1年から上がってきた一般選抜学生、特待生と編入生、留年生の四つの異なる背景の学生たちへ一つの授業で対応するためどうしてもそうになってしまうと判断している。

### 3) 改善方策

具体的な改善のためには、授業評価のアンケートで記名式にしてどの背景の学生が何を言っているかを明らかにする必要を感じている。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

前期終了後、定期試験を実施し、不合格だった学生には再試験を行なった。

### 2) 自己点検・評価

概ねこの評価方法で十分に公平な評価が下せた。

### 3) 改善方策

成績評価方法については現状でいいと考えている。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	化学	第2学年
科目責任者(記載者)	阿部匡聡	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

基本的な有機化合物の構造・性質・反応についての知識・概念を習得するため、①官能基の種類により化合物を分類し、各化合物の性質・反応を説明すること ②異性体について説明し、構造式で示すこと ③置換反応、付加反応、脱離反応、酸化還元反応、ラジカル反応を説明し、反応式を記述すること ④芳香族化合物の性質・反応について、脂肪族化合物との違いを示し、説明すること、を到達目標としている。

### 2) 自己点検・評価

目標としては、適切であると考えている。

### 3) 改善方策

修正・変更は特にしない。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

講義93%, 演習7%で、資料として、教科書と、教科書の内容を補充するためのプリントを用いた。適宜、レポート提出を課した。

### 2) 自己点検・評価

授業内容の質を維持しつつ、より平易な解説を行うよう努めてきた。適宜課した、レポート提出、問題演習は、授業内容の理解向上、復習、問題への対応力強化に有効であった。

### 3) 改善方策

口頭試問による双方向的要素の導入機会を一層増やし、一定の緊張感と、能動的に考える姿勢を持たせる。授業でとったノートを有効に活用して、復習するよう、意識づけをする。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験(100%)により総括的評価を行った。レポートにより形成的評価を行った。

### 2) 自己点検・評価

評価法としては、適切であると考えている。

### 3) 改善方策

定期試験では、選択式問題と記述式問題の配分比が、最適なものとなるよう、配慮する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	情報リテラシーⅡ	第2学年
科目責任者(記載者)	宇佐美晶信	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯科基礎医学の知識をより深く習得するために、コンピュータを用いて問題作成し、相互にブラッシュアップを行うとともに、教員からの問題解説をおこなっている。

### 2) 自己点検・評価

学生による授業アンケートでは「3. 授業の前に予習を行いましたか」の項目で「そうは思わない」が29.1%であった。

### 3) 改善方策

予習の時間を増やすためにも、教員からの問題解説の講義資料を事前にポータルサイトに提示するようにしたい。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

問題作成、ブラッシュアップ、問題解説の3回を1つのセッションとしている。「問題作成」は教員より出された課題についてグループごとに学生個人で問題を作成し、「ブラッシュアップ」は他グループの作成した問題について行っている。「問題解説」として作成した問題に対して最終的に教員からの解説を行っている。

### 2) 自己点検・評価

各セッションにおける指導は担当教員にお任せしてあるので、セッションごとに微妙な差異が生じている。

### 3) 改善方策

初回講義時に、セッションの概要についてしっかり説明していきたい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

3コマごとに小テストをおこない合計が65点以上を合格としている。

### 2) 自己点検・評価

学生のブラッシュアップ問題に対する教員からの解説を行った後にテストをおこなっているので理解を深められていると考えるので現状の評価を続けていきたい。

### 3) 改善方策

答えだけを覚えるような小テストではなく、学習した範囲内で自力で答えを導き出して解答するような小テストを実施していきたい。テストを行う回の講義を欠席すると20%の評価がなくなる点を早い時期から周知したい。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	英語Ⅱ	第2学年
科目責任者(記載者)	長峯 英樹	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

本科目の到達目標は、①歯科医療分野の英語表現への慣れ、②基礎文法の復習、③英文を「訳せる」だけで満足せず、知識を英語で「吸収できる」スキルの習得、④英語によるグループ・プレゼンテーションの経験、⑤自分の意見を英語と日本語の両言語で論理的に発信するスキルの習得、の5つである。このなかで、④と⑤に関する目標については、新型コロナ感染防止の観点から割愛した。

### 2) 自己点検・評価

「読む」「聞く」「話す」「書く」といった4スキルのなかでも、しっかり「読む」ために語彙力と読解力の強化を強く望む学生が多く、そうした学生に対してはかなり貢献できたのではないかと思う。一方で、英語学習に対するニーズも意欲も多様であるため、学習方法も含め、柔軟にアドバイスする必要があると感じた。

### 3) 改善方策

大多数の学生が、国家試験を意識した英語授業を強く希望しているため、歯科医療分野の語彙力や読解力強化に特化することも検討すべきと感じた。また、将来的に有用かどうかについても強く意識していることから、WHOやMayo Clinicといった海外医療機関のHPなども教材として積極的に講義に取り入れていく必要がある。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

①テキストの英文を通して、基礎文法力・読解力の向上を図りつつ、専門用語や頻出語彙表現を習得する。②語彙力の強化については、各語彙の基本的な接頭辞や接尾辞を意識して覚える。③学んだ語彙や表現を使って英語でのグループプレゼンテーションを経験する。以上の3つを方法として示した。①と②に関しては網羅的ではなく、必要な事項に特化した。③のプレゼンテーションは新型コロナ感染拡大の観点から割愛した。

### 2) 自己点検・評価

文法力と語彙力、そして読解力の基礎については、学習範囲を限定し、重要ポイントを明示したことから、大部分の学生に集中的かつ効率的に学んでもらうことができた。その一方、語彙力強化には「書いて覚える」というプロセスが不可欠であるが、強い拒否感を示す学生が複数名いた。また、「解説は講義で、予習や復習は自宅で」という方法の限界を痛感した。

### 3) 改善方策

国家試験合格が第一の目標である学生にとって、出題数の少ない英語に貴重な自宅学習の時間を割くのは困難であるかも知れない。また、効果的な英語学習方法がわからないといった学生も少なくない。そのため、出席中に各学生が主体的に学ぶ時間を確保し、必要に応じて学習方法を提案するというやり方の必要性を感じた。具体的には、講義60分、自主学习100分、確認テスト20分の時間配分で授業内に覚えてもらう方法である。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

確認テストおよび定期試験(80%)と語彙力強化を目的とした課題提出(20%)による成績評価。

### 2) 自己点検・評価

確認テストや定期試験の範囲と出題意図をはっきりと明示したことから、大多数の学生は取り組みやすかったのではと思う。一方、英語学習に対する意欲の高くない学生は出題範囲やポイントを全く理解していないこともあった。確認テストの点数が65点を下回る学生への対処方法としては、好むと好まざるにかかわらず、「書いて覚える」ことの重要性を理解してもらい、実際に書いてもらう課題を継続的に与えていく必要がある。

### 3) 改善方策

基準点(65点)を下回る学生に対しては、定期試験を除き、再試を行うよりも、覚える必要がある重要語彙表現を語尾や接頭辞の意味を強く意識しながら、何度も書いてもらうことを継続するしかないと考えている。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	基礎歯学概論Ⅱ	第2学年
科目責任者(記載者)	遊佐淳子	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

専門基礎科目(口腔衛生学、口腔生化学、生体材料・歯科材料学、口腔病理学)を中心に、履修前に予備知識として知っておくべき概論や要点について講義している。

### 2) 自己点検・評価

歯科医師として身につけなければならない知識を習得する上で、専門基礎科目は特に重要となるため、履修前に予備知識として講義することは妥当と考える。授業評価において様々な教科を学べ、概論であったがそれぞれの科目により多くの関心を持つことができたとの意見があり、有意義な講義であったと思われる。

### 3) 改善方策

各講義担当者が概論であることを認識し、予備知識や要点を講義する。専門基礎科目として歯科薬理学講義も行う。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

講義主体でスライド投影、プリント、板書により適宜進めている。

### 2) 自己点検・評価

授業評価においてスライドが見やすく、良く理解することができたという意見があり、スライド投影による講義は有用であった。また、初めて聞く単語が多く、単語だけでもプリントが欲しいとの意見もあり、プリント配布を検討する必要がある。

### 3) 改善方策

複数の科目担当の講義であるため、講義スタイルがそれぞれ異なるが、学生にわかりやすいスライド作成やプリント配布を再確認する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験で評価し、65点以上で合格とする。試験問題は多肢選択方式である。

### 2) 自己点検・評価

試験問題の出題範囲は講義した内容であり、定期試験で65点以上で合格とするのは妥当である。

### 3) 改善方策

各科目の授業内容から出題されることを学生に周知する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	生物学	第2学年
科目責任者(記載者)	前田豊信	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯科医療を行う上で必要不可欠な生物学の知識の修得と、遺伝子工学の現状を理解することで生命倫理について考えることを目標としている。そのために、①細胞の構造と機能、②代謝、③細胞間情報伝達、④中心命題と例外などを到達目標としている。

### 2) 自己点検・評価

生命倫理観の涵養には時間がかかるため、六年間一貫教育課程において遅くとも二学年前期に設けるべき課題であり、また遺伝子工学と並列して教える内容であるため、生物学に組み込むことは正しいと考える。しかし、知識の習得の後に予定するため、生命倫理への考察を行う時間が短くなってしまいう傾向にある。この点を改善項目として挙げる。

### 3) 改善方策

講義内容の一部変更とブラッシュアップを行い、生命倫理への考察を行う時間を確保する予定である。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

配布資料を中心に講義を行い、重要な項目に対しては、知識の定着と理解を深めるために問題演習を用意している。

### 2) 自己点検・評価

配付資料量が多くなり学生が資料整理がしにくい、問題を考える時間が少ない、後半の時間配分が悪い点が問題としてある。

### 3) 改善方策

予習・復習がしやすいようにwebページを作成し、学生が自習出来る資料として、開講中に公開する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

客観形式問題の定期試験のみを実施して、65点以上を合格と判断している。その結果、92%の学生を65点以上と評価(単位付与)し、平均は82点(うち満点7名)とした。

### 2) 自己点検・評価

六年間一貫教育の中の教養科目として位置づけられる当該科目を考えると、評価方法は現状と照らし合わせると妥当であると考えられる。

### 3) 改善方策

## 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	読解力向上演習	第2学年
科目責任者(記載者)	本多真史	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯科医師国家試験問題を解く際に必要な「筋道を立てる」という基本姿勢、論理的な思考、記号読解など基盤を確立するため、「問題文を読み、理解し、思考して問題を解く」という一連の行為が円滑にいくような能力を修得することを目標としている。授業内容は、これに沿う形で行われている。

#### 2) 自己点検・評価

目標と授業内容は合致している。また、受講生全員(休学者を除く)が合格したことから、科目の目標は達成されたと考える。

#### 3) 改善方策

到達目標と授業内容は一致しており、変更の必要はないと考える。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

講義では、資料(A4冊子6枚程度を毎回配布)をもとに「参加型・実践形式」で展開した。受講者が問題文を読み(インプット)、理解し、思考して(プロセッシング)、まとめる(アウトプット)という一連の行為が円滑に行うことができるようになるための機会を設けた。受講者が問題を解いた後、教員がそれについて解説を行った。また、パワーポイントで作成した資料を毎回ユニパにあげ、復習しやすい環境を整えた。

#### 2) 自己点検・評価

授業評価アンケートでは、「好奇心が刺激されたり、興味が高まったりしたか」の評価が低かった。アンケートでは、受講生の自己判断により、「この科目は必要ない」との声も聞かれる。その認識を打ち壊すことができなかったことに加え、学生の知識欲に応えられなかったと思われる。

#### 3) 改善方策

受講生の関心により近い内容を盛り込むようにする。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

形成的評価の結果のみで評価した。

#### 2) 自己点検・評価

上記III1)にみる評価の結果、本講義の合格率は100%であった。これは、受講生の取り組み姿勢、担当者の教育方法、成績の評価方法がうまく機能している証左と考えられる。

#### 3) 改善方策

改善は必要ないと考えている。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔解剖学	第2学年
科目責任者(記載者)	宇佐美晶信	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

ヒトの歯の形態、歯列咬合および口腔周囲の解剖学的構造について知識を獲得するための講義をおこなっている。

### 2) 自己点検・評価

学生による授業評価アンケートでほとんどの項目で平均よりも高い結果が得られている。プリントの穴埋めで授業に集中できないとの指摘があった。

### 3) 改善方策

予習の重要性を説明して、プリントの穴埋めが事前にできるように資料を提示していきたい。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

口腔解剖学分野作成のプリントに従い講義をおこなっている。また毎回の授業前に小テストをおこない前回の範囲の知識の定着を確認している。

### 2) 自己点検・評価

「考えさせる問題がたくさんあったので、考える習慣がついた」といった意見があった。

### 3) 改善方策

今後も質問の方法に工夫をしていきたいと考える。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

前期後期の各定期試験の平均が65点を超えたものを合格としている。小テスト分は各期の定期試験結果に加点している。

### 2) 自己点検・評価

小テスト結果を加点しているので、学習習慣の修得にも効果があると考えます。

### 3) 改善方策

小テストの実施は日々の学習習慣の獲得の意味でも実施しているが、小テストの勉強をしてこない学生が多くなって平均得点が低下してきた。今後は成績評価の中に加えていきたい。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔解剖学実習	第2学年
科目責任者(記載者)	宇佐美晶信	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯や骨の形態を理解するために、前半は歯の形態を2次的に理解するためのスケッチと3次的に把握するための石膏彫刻をおこない、後半は頭蓋骨と体幹、四肢を含む全身の骨学実習をおこなっている。

### 2) 自己点検・評価

第2学年の前期唯一の実習であるので、他との比較もないためコメントが少ないと考える。

### 3) 改善方策

座学の進捗状況との連携を注意していきたい。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

歯の形態を理解するために前半7回にスケッチおよび石膏彫刻をおこなっている。骨学実習では骨標本の各部位の確認をおこなっている。

### 2) 自己点検・評価

全項目で、評価点は全体よりも高い結果であった。

### 3) 改善方策

専門科目最初の実習として、苦手意識などを生じさせないようにしたい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

歯の解剖における彫刻と骨学実習における該当箇所の「口腔顎顔面解剖ノート」の提出物と態度点で評価した。

### 2) 自己点検・評価

評価基準についての説明をおこなっているため、成績評価に関して否定的な意見はみられなかった。

### 3) 改善方策

欠席が多い学生に対する配慮を検討していきたい。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	解剖学	第2学年
科目責任者(記載者)	宇佐美晶信	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

人体の正常な形態と構造に関する知識を講義している。

### 2) 自己点検・評価

学生による授業評価アンケートのすべての項目で平均よりも高い結果が得られている。

### 3) 改善方策

時代の変化に合わせて、講義の内容や形式を適応していくようにしたい。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

口腔解剖学分野作成のプリントに従い講義をおこなっている。また、毎回の授業前に小テストをおこない前回範囲の知識の定着を確認している。

### 2) 自己点検・評価

「プリントが使いづらい」というコメントがあった。

### 3) 改善方策

「プリントが使いづらい」というコメントがあったので、真摯に対応していきたい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

前期、後期の定期試験の平均で65点を超えたものを合格としている。小テスト分は各期の定期試験結果に加点している。

### 2) 自己点検・評価

学生による授業評価アンケートに「ミニテストがあり、勉強する習慣がついた」とあり、当科目の評価方法は学生の学習習慣確立に貢献したと考える。

### 3) 改善方策

現在の評価方法を継続していきたい。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	解剖学実習	第2学年
科目責任者(記載者)	宇佐美晶信	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

人体を用いた解剖実習により解剖学の講義で学んだ知識を深めるだけではなく「医の倫理」や「死者への尊厳」を修得めざしている。

### 2) 自己点検・評価

学生アンケートでは全項目で平均よりも高い結果が得られている。良かった点で「説明が分かり易かった」とのコメントがあった。

### 3) 改善方策

解剖学の知識だけでなく、ルールやマナーについても理解してもらえる実習を今後も維持していく。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

特に頭頸部を中心とした人体解剖実習をおこなっている。

### 2) 自己点検・評価

改善して欲しい点として、「やっている人とやっていない人がいるのですごい不平等に感じる」という記述がみられた。

### 3) 改善方策

負担の偏りについては、次年度は実習班の編成でできる限り対応していきたいと思う。やる気のない学生に対して、やる気を出させる工夫については、これまでも考えてきたが、これからも考え続けていきたい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

各回の実習内容を次回の小テストを80%、各班が実習期間中に1回行う発表と態度点を各10%として評価を行い、総計が65点以上のものを合格としている

### 2) 自己点検・評価

否定的なコメントはみられなかった。

### 3) 改善方策

現状維持を前提として、必要な改良点が見いだされた場合には対応していく。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔組織学	第2学年
科目責任者(記載者)	安部 仁晴	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

一般目標を『疾病を治療対象とした基礎知識を得るために、細胞と組織、人体諸器官、さらに歯と歯周組織をはじめ口腔諸器官の正常構造と微細構造を機能と結びつけ、それらの発生過程、加齢変化を理解する。』として、4つの到達目標を設定し、基本的な知識の習得と他の基礎系科目や臨床系科目と結びつけることが出来るような思考の修得を心がけ、複数の教員で分担して講義を行った。

### 2) 自己点検・評価

集計項目の多くは平均を上回っており、到達目標と講義内容は、次年度も概ね変更する点はないと考える。しかし、成績評価や総合試験の結果から、到達目標に合致した講義内容であるか考える必要がある。

### 3) 改善方策

集計項目の多くは平均を上回っており、到達目標と講義内容は、次年度も概ね変更する点はないと考える。しかし、講義担当者間で、コアカリや国家試験基準に沿った到達目標の内容であるか、到達目標に合致した講義内容となっているか、話し合い精査する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

教員によって細かな教育法は異なるが、基本的に配布資料(講義プリント)の作成、予習と復習のために授業資料提示システムを使い資料をアップロードすることを講義担当者に統一していただいた。また、教育内容では、形態学を理解しやすくするために、写真や模式図を数多く取り入れて講義するよう心がけた。

### 2) 自己点検・評価

集計項目の多くは平均を上回っており、『わかりやすい』や『理解できた』との意見が多かったことから、教育方法は、次年度も概ね変更する点はないと考える。しかし、予習した学生の割合が少ない傾向にあり、質問のしやすさについてもやや低い傾向にあったことは今後修正したい。

### 3) 改善方策

予習する手段として、講義資料を授業資料提示システムに事前にアップロードしていたが、学生に周知されていない可能性があるため、講義の早い段階でアナウンスを数回行いたい。また、質問のしやすさについては、オフィスアワーや休み時間等、効率の良い方法を模索したい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

講義時間数に応じて、前期中間試験、前期定期試験、後期中間試験、後期定期試験の4回の記述試験を設定した。各試験では、不合格者と希望者に対して、再試験を1回行った。この4回の試験の平均をもって成績評価とした。

### 2) 自己点検・評価

上記の成績評価方法で、多くの学生が合格基準に達しており、平均点も75点以上であった。しかし、合格基準に達しなかった学生も15%いた。この15%の学生に対する対処は考える必要がある。

### 3) 改善方策

上記の成績評価方法で、多くの学生が合格基準に達しており、平均点も高かったことから、次年度も変更する必要はないと考える。しかし、合格基準に達しなかった学生に向けて、試験のフィードバックのみならず、再度、重要事項を説明する機会を設ける。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔組織学実習	第2学年
科目責任者(記載者)	安部 仁晴	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

一般目標を『人体と口腔諸器官における特徴と機能を理解するために、光学顕微鏡を用いて、細胞、組織の正常構造、歯と歯周組織をはじめとする口腔諸器官の正常微細構造、それらの発生過程の知識を修得する。』として、6つの到達目標を設定し、基本的な知識の習得と他の基礎系科目や臨床系科目と結びつけることが出来るような思考の修得を心がけ、複数の教員で分担して実習を行った。

### 2) 自己点検・評価

集計項目の多くは平均を上回っており、到達目標と実習内容は、次年度も概ね変更する点はないと考える。しかし、成績評価や総合試験の結果から、到達目標に合致した実習内容であるか考える必要がある。

### 3) 改善方策

集計項目の多くは平均を上回っており、到達目標と実習内容は、次年度も概ね変更する点はないと考える。しかし、担当インストラクター間で、コアカリや国家試験基準に沿った到達目標の内容であるか、到達目標に合致した講義内容となっているか、話し合い精査する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

実習開始時に、その日の課題の説明(標本の顕鏡ポイント、講義内容の復習と実習内容の関連性等)を行い、学生全員が当日の課題に取り組みやすくなるようにした。また、学生を少人数のグループに分け、各グループに担当インストラクターを配置することで、学生一人ひとりにきめ細やかな指導が出来るようにした。

### 2) 自己点検・評価

集計項目の多くは平均を上回っており『理解できた』との意見もあり、教育方法は、次年度も概ね変更する点はないと考える。しかし、担当インストラクター間の評価基準を指摘する意見があったことは今後修正したい。

### 3) 改善方策

3名の担当インストラクター間で、実習内容とリクワイアメントの判定基準を明確にすり合わせる。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

実習内容から一般組織学と口腔組織学に分け、記述式の試験を行った。各試験では、不合格者と希望者に対して、再試験を1回行った。この2回の試験の平均点(80%)と実習課題の終了状況をリクワイアメント票(20%)とし、合わせて成績評価とした。

### 2) 自己点検・評価

上記の成績評価方法で、多くの学生が合格基準に達しており、平均点も85点以上であった。しかし、合格基準に達しなかった学生も10%いた。この10%の学生に対する対処は、考える必要がある。

### 3) 改善方策

上記の成績評価方法で、多くの学生が合格基準に達しており、平均点も高かったことから、次年度も変更する必要はないと考える。しかし、合格基準に達しなかった学生に向けて、試験のフィードバックのみならず、再度、重要事項を説明する機会を設ける。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔生理学 I	第 2 学年
科目責任者(記載者)	川合宏仁	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

顎、顔面、口腔領域を含めた生命現象の基本的な機能について全般的に理解させることを目標とした。授業への参加意識の高い学生には興味を深める内容の授業が提供できた。一方で、学習意欲や学力の極端に低い学生にとっては難解であった。生理学的な現象を説明できることが到達目標であるが、教えるだけでなく、学生が説明できるかどうかを確認・評価する方策は途上である。

### 2) 自己点検・評価

感覚、内分泌など項目ごとに教科書によって基本事項を説明し、全般的な内容説明は効果的であった。しかし、学習項目が多いので、既習事項を学生に確実に定着させることについては課題が残った。学生が講義の理解度をチェックできる工夫をしているが、説明できるかどうかを点検・評価するには不十分であったと感じている。

### 3) 改善方策

基本的事項を学習させることでより深い内容理解につなげるようにする。講義中に関連事項も上げることで効率的に学習の視野を広げる。ルーブリック等を利用して、学生が自ら何を学習アウトカムすることが問題解決に必要であるかを認識し、理解するよう務めることを促進したい。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

基本的な生理学的な機能についての全般的な理解させるため、できるだけ教科書に沿って授業を進めた。理解を深めるため、補助的なプリントを講義ごとに配布した。多くの学生で、理解の助けとなったが、一部の学生においては、かえって講義を聞かなくなる学生も見られ。加えて、講義と講義中のチェック問題、Google Classroomを利用した小テストにより、講義内容について来れるように工夫をしている。

### 2) 自己点検・評価

効率的に授業内容を理解させるために、補助教材としてプリントを配布することで、学生の板書の負担を減らし、より効率的に内容を理解させた。一方で、プリントすら目を通さないような学生も少数いた。講義前に、学生の講義への注意力が散漫であることが、講義内容の理解を低下させているかもしれない。

### 3) 改善方策

コロナ禍で積極的に双方向性の授業ができなかったが、講義中の学生への質問を意識的に増やし、少しでも授業に参加させるようにする。講義前にも小テストを行うことで、講義への興味や注意を換気する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

15回に1回の客観的試験による評価で、前期1回と後期2回の試験の平均点で、65点に達していること、さらに各試験の点数が65点に達していることが合格基準である。学生の学習意欲を促進する目的で、講義後に出題した文章問題を記述問題として出題している。

### 2) 自己点検・評価

年間で3回の試験を行い、各試験の不合格者に再試験を課しているため、成績不良者への配慮としても十分と考える。

### 3) 改善方策

国試までの後追い調査も行っている。その結果、口腔生理学 I の試験結果と相関性もあるので、今後も分析を続けていく予定である。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔生理学実習	第2学年
科目責任者(記載者)	川合宏仁	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

生理学の諸機能について測定・説明ができる。

### 2) 自己点検・評価

最近の国試問題で、実習内容から出題される傾向があるため、実習内容を国試に結び付けて意識しながら教えたほうが良い。

### 3) 改善方策

国家試験の出題基準等を精査する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

後期に、毎週水曜日に、実習を1日3時間、15週、実習を行う。実習後、内容についての座学を行う。

### 2) 自己点検・評価

実習を対面方式で出来た点は、良かったと考える。

### 3) 改善方策

自宅学習で作成したレポートの評価を学生に開示することによって、何が足りないかを教える仕組み作りが必要かと思う。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

実習課題の6項目について、各々の項目で、実技点、レポート点、知識点(実習試験)の合計点を出し、平均点を割り出して合否を判定する。

### 2) 自己点検・評価

実習に出席し、実習を自分で行うことが必要な仕組みになっているので、問題ないと思う。

### 3) 改善方策

現在のところ、特に問題はないが、レポート提出と2回の実習試験が重なり、この点に関して、単純化できる方法を模索している。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔生化学 I	第 2 学年
科目責任者(記載者)	加藤靖正	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

生体を構成する成分や機能について、個々の理解と相互作用について理解する。疾患の成因についても理解を深める。下記項目について説明できるようになることを到達目標とする。

- ・生体を構成している主な物質の分子構造と機能について説明できる。
- ・遺伝情報の保存と発現
- ・代謝における酵素の働き
- ・糖代謝と脂肪酸代謝によるエネルギー産生機序
- ・糖新生性、脂質合成の機序
- ・代謝の破たんと疾病の成り立ち

### 2) 自己点検・評価

64.3%の学生が予習しておらず、授業中に理解を深めることは困難であるにもかかわらず、42.8%の学生が復習していない結果となった。知的好奇心については、59%が肯定的に評価していたが、全体平均を下回っている結果となった。科目の平均は2.84(全体平均3.33)であった。

### 3) 改善方策

個別意見として3年の範囲との関連性の低さを指摘した意見があり、講義ではその都度説明していると思うが伝えきれていないのかもしれない。また、知的好奇心が刺激されなかった学生は約4割おり、興味がなければ学習意欲は上がらないので、具体例を多用して知的好奇心の向上に努める。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

パワーポイント主体で練習問題を提示した教員2名と板書主体の教員1名で分担した。

### 2) 自己点検・評価

パワーポイント主体の講義は概ね好評で、板書主体の講義については、批判的な意見が散見された。知的好奇心を増加させるように話していることが、学生にとっては教員の自己満足と解釈されたことは改善が必要である。

### 3) 改善方策

資料提示に関しては、毎年バージョンアップする。板書については、内容の厳選、レイアウトの工夫に務める。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

五肢選択問題による本試験で65点以上を合格とした。

### 2) 自己点検・評価

正答率30%未満の問題については、正答した学生は採点対象とし、誤答した学生に対しては、総問題数に含まない措置を講じて採点をしている。

### 3) 改善方策

特に問題点は見いだせないなので、今後も継続していく。

# 2021年度 授業の自己評価票

授業科目・対象学年	口腔感染免疫学 I	第 2 学年
科目責任者(記載者)	清浦有祐	

調査実施年月 2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

到達目標は「1)微生物の種類とその特性を説明する。2)病原微生物の病原性を理解する。3)滅菌、消毒及び化学療法について説明する。4)微生物感染に対するヒトの免疫応答を理解するである。目標を実行するために、授業は学生が興味と関心を持ち、理解しやすいように丁寧に進めた。

### 2) 自己点検・評価

2021年度の成績から考えて、この科目の到達目標を達成させることができたと考えられる。しかし、合格点に達しなかった学生がいることから、改善も必要である。本科目は病原微生物とそれに対する宿主の感染防御機能まで広範囲であることから、より丁寧に授業する必要がある。

### 3) 改善方策

講義項目の組立てをよく吟味して、各コマで1つのまとまりを持つ内容としていたが、その際に前回分の復習も行うことが必要であると考え。各コマの独立性とその次のコマの連続性をつなぐ復習を取り入れることとする。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

教科書・教科書の内容を分かりやすくしたプリント・板書の3つで丁寧にわかりやすい講義を行うことを意識している。プリントには演習問題も記載して、学生が自身で講義内を理解したか否かの確認を行えるようにした。また、最新の微生物学・免疫学の講義内容に関連した事柄も記載して学生の向学心に伝えるようにしている。

### 2) 自己点検・評価

授業の理解が困難を伴う学生に対しても丁寧に講義を行ってきた。理解度の確認に関して、確認テストを実施することで授業の理解を確認してきた。そのことによって、理解度が低いと判断された項目については再度理解を深めるように授業を行った。

### 3) 改善方策

理解度が低いと考えられる項目については、プリント記載内容の改善及び演習問題の見直しを行っていく。また、次年度は視覚教材も積極的に取り入れて理解度を高めるようにする。また、講義開始時に前回の講義内容の中で特に重要な事項を復習するようにする。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

成績評価は授業概要の記載に従って、65点以上を合格として定期試験の成績(100%)によって評価した。定期試験は記述問題と多肢選択方式の問題の2つが含まれる。

### 2) 自己点検・評価

成績評価については、現状のままですべて大きな問題はないと考える。

### 3) 改善方策

成績評価では、特に改善すべき点は無いと考える。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科薬理学 I	第2学年
科目責任者(記載者)	鈴木 礼子	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯科薬理学を学修する上で土台となる薬理学総論、すなわち、薬理作用(薬力学と薬物動態学)の基本的理論の修得を目指した授業と試験を実施した。

### 2) 自己点検・評価

後期15回の講義で、薬理学総論、特に2学年のうちに、しっかり修得してほしい事項は、伝えることができた。「学生による授業評価」の結果からも、こちらが修得してほしいことは、大部分の学生にも伝わったと考えられる。しかしながら、同時に、「歯科薬理学」という科目そのものに全く興味・関心が持てなかった学生が数名いたことも窺えた。この層の学生へのアプローチには、改善の余地がある。

### 3) 改善方策

講義の体系は、現状を維持するが、授業実施の面で、より学生が歯科薬理学に親しみをもてるような、実例などを盛り込むことを、更に意識していく。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

指定教科書の内容を、より平易に説明し、わかりやすい図などを補足した「解説プリント」と、「問題演習プリント」の2種類を配布した。授業では、「解説プリント」でインプットすべき重要知識を明示した後、「問題演習プリント」の例題で知識のアウトプットの仕方を伝えた。更に、「問題演習プリント」の例題の後ろに、その項目のポイントをまとめ、穴埋め方式で復習できるようにした。

### 2) 自己点検・評価

「学生による授業評価」では、「わかりやすく、見やすい資料」、「わかりやすい授業」との評価を得た。また、講義の総まとめとして、過年度に実施した試験問題を用いた「まとめの問題演習」を行なったのが、好評であった。従って、講義資料や授業実施の面で、意欲のある学生にとって意義のあるものにできたと考えられる。一方、「問題演習プリント」を配布したことすら認識していなかった学生が2名ほどいたのは問題である。

### 3) 改善方策

今後も、改訂を重ねて、よりわかりやすい資料作成や、わかりやすい授業実施に努めていく。また、2学年では、まだ、完全に受け身の姿勢で授業に参加している学生もいないわけではないことを念頭に置き、学修の仕方を、折に触れて説明するようにする。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

後期15回の科目なので、後期定期試験100%で評価し、100点満点中65点以上で合格とした。

### 2) 自己点検・評価

授業中に「勉強の仕方」を明示し、「過去問の正答と誤答の理由を自分で説明できるようにすることが重要である」ことも繰り返し伝えた。その結果、約1/3の学生が本試験で90点以上の成績を修めたのは、注意喚起の効果が現れたと考えられる。しかしながら、再試験になってから頑張る学生が少なからずいたのは問題である。

### 3) 改善方策

早い時期から「勉強の仕方」を明示し、かつ、「過去問の正答を丸暗記しても、理解していなければ点数には結びつかない」ことも繰り返し伝えていく。また、毎回の授業に出席して、しっかり説明を聞き、疑問点はその日のうちに解決することが重要である旨も、繰り返し強調していく。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	公衆衛生学	第2学年
科目責任者(記載者)	小林美智代	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

一般目標:学修者が歯科医師として必要な公衆衛生学的な考え方を学び、社会や環境が求める必要性に対して的確に対応し解決できる能力を身に付ける。

到達目標: ① 健康の概念と予防の段階を説明できる。② 疫学の研究方法とその活用を説明できる。③ 感染症の成り立ちとその予防策を説明できる。④ 公害や地球環境破壊と健康との関わりを説明できる。⑤人口構造の変化と疾病構造との関連を説明できる。

### 2) 自己点検・評価

④のように覚える事柄がはっきりしているものは目標に達している。

それに対し、①のように概念的で複数の選択肢から一つに絞るのが難しいもの、②の疫学のように計算式を覚えなければならないもの、③のように、感染免疫や外科など複数の科目の知識が必要なもの、⑤のように歯科との関連が想像しにくいものは到達目標に達していない。

### 3) 改善方策

①に関しては、問題を解いて解答を理解していくことが重要であると考え。問題を解き、正答を理解する時間を作っていく。

②に関しては、基本的な問題はしっかり確実に解けるようにする。

③に関しては、学習すべき範囲を広げず公衆衛生学的に覚えることを明確にして学習を促していく。

⑤に関しても、学習すべき範囲を広げすぎないようにして、覚えてほしいところを明確にして学習を促していく。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

2021年度授業評価集計結果から、全体平均より点数が高かった事項は以下の5点である。①授業の準備がしっかりしていたか。②授業の工夫が感じられたか。

全体平均より低かった事項は以下の8点である。③自らシラバスを確認したか。④授業はシラバスに沿って進行したか。⑤予習を行ったか。⑥授業の目的の説明はあったか。⑦興味は高まったか。⑧必要性は理解できたか。⑨質問はできたか。10復習を行ったか

### 2) 自己点検・評価

①と②が平均より高かったことから、学生にとって講義内容は比較的満足度が高かったと考える。しかし、予習と復習が行われなかったこと、科目として興味や必要性が感じられなかったこと、質問ができなかったことは大きな問題点である。今後の課題として講義内容の向上はもちろんのこと「予習」「復習」「教員への質問」への心理的なハードルを下げる。「シラバス」と講義内容をリンクさせることが必要だと思われる。

### 3) 改善方策

講義資料にシラバスの内容を記載する。さらにインターネットを利用し、匿名で気軽に質問できる環境を作る、講義で行った問題を携帯電話等で手軽に行えるように工夫して、予習復習への心理的なハードルを下げる工夫を行う。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験(100%)で評価し、65点以上を合格とする。2021年度の公衆衛生学定期試験の全体の平均点は77点であった。上位25%の平均は96点、下位25%の平均は48点であった。本試験で60名中15名が65点以下で追試験となったが、ほぼ同じ難度の再試験において平均は66点であり上位50%の平均が87点、下位50%の平均が49点であった。

### 2) 自己点検・評価

本試験の上位25%の(15人)の平均が96点であったことからして、試験問題の内容は講義に沿ったもので、適切であったと思われる。

また、再試験においても上位50%(8人)の平均が87点であったことから、本試験で基準に達しなかった学修者も勉強時間を確保できれば十分に学習目標に達することが期待できることがわかった。

### 3) 改善方策

定期試験前に十分な時間を取れば、本試験で不合格となった16人のうち半数は合格点に達することが可能だと考えられる。

毎回の講義の知識の定着をはかるため、講義の冒頭での小試験等を検討していく。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科医療管理学	第3学年
科目責任者(記載者)	大橋明石	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

定期試験の結果を見る限り、シラバス記載の【一般目標】および【到達目標】を達成出来ていると思われる。

### 2) 自己点検・評価

現在の授業スタイルは、シラバス記載の【一般目標】および【到達目標】を達成する方法として、間違っていないと思われる。

### 3) 改善方策

学生から上がった要望・改善要求等が、真に必要なことなのか・真に正しいことなのかをしっかりと吟味した上で、しっかりと授業にフィードバックさせる。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

学生による授業評価・アンケート結果および定期試験の結果を見る限り、現在の教育方法は間違っていないと思われる。

### 2) 自己点検・評価

学生による授業評価・アンケート結果および定期試験の結果を見る限り、現在の教育方法は間違っていないと思われる。

### 3) 改善方策

学生から上がった要望・改善要求等が、真に必要なことなのか・真に正しいことなのかをしっかりと吟味した上で、しっかりと授業にフィードバックさせる。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験で100%評価しているが、試験の結果を見る限り、現状で問題ないと思われる。

### 2) 自己点検・評価

本試験の平均点も85%を超えており、現評価法で問題ないと思われる。

### 3) 改善方策

一人でも多くの学生が本試験で合格できるよう、1問でも多くの問題に正解できるよう、得点アップに繋がるよう、更に授業の質を高める。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科医療人間学Ⅲ	第3学年
科目責任者(記載者)	清野 晃孝	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

ホスピタリティーマインドに加えて患者中心の医療を全人的に捉えるために基本的なコミュニケーション能力を習得するための演習を実践している。

### 2) 自己点検・評価

医療事故を題材に小グループにより、KJ法および二次元展開法を作成し、発表することにより人間性を涵養する機会を設けている。後期のOSCE課題体験演習で、4年次の共用試験に備える心構えと概要を理解出来ていると思われる。

### 3) 改善方策

臨床での医療面接を想定し、コミュニケーション能力の向上に努めるよう、双方向の教育を実践する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

前期は、日本語の本多先生とボイスプロの吉田先生、鈴木先生により医療面接を想定し、言語・非言語のコミュニケーションを実践することとしている。また小グループによるKJ法・二次元展開法の作成さらに発表を行っている。

### 2) 自己点検・評価

1年生、2年生で行ってきた言語・非言語のコミュニケーション能力をアップデートすることに繋がっていると思われる。また小グループによるKJ法・二次元展開法の作成さらに発表により、能動的な学習を実践できたものとする。

### 3) 改善方策

多くの学生からは、授業中のパソコンの使用を希望しているようであり、要検討事項と考える

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

本多先生担当は学年平均87.3、ボイスプロ担当は81であり、高点数といえる。

### 2) 自己点検・評価

学年平均値84.2であり、教育効果はあったと考える。

### 3) 改善方策

言語・非言語のコミュニケーションと能動的学習を積極的に実施する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	社会歯科学	第 3学年
科目責任者(記載者)	南 健太郎	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯科医師として、必要な法的知識、社会保障制度、社会の変化やニーズに対応させ、CBT合格を目指した講義内容とした。

### 2) 自己点検・評価

CBT対策として非常に良いと学生から評価があった。現状の講義スタイルについかして問題演習も検討中である。

### 3) 改善方策

次年あCBT対策としてオリジナル問題の演習も追加する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

学生が歯科医師として稼働するために必要な法的知識と社会制度を、自宅でも復習できるように講義スライド資料を配布した。

### 2) 自己点検・評価

講義スライドだけでなく、CBT対策としての問題演習の追加を考えた。

### 3) 改善方策

次年度CBT対策問題を作成して実施する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験65%以上で合格とする。

### 2) 自己点検・評価

定期試験はマルチプルチョイス。この形式で問題ないとする。

### 3) 改善方策

この試験形式で次年度も継続する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔生理学Ⅱ	第3学年
科目責任者(記載者)	川合宏仁	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

2学年に引き続き、顎、顔面、口腔領域を含めた生命現象の基本的な機能について全般的に理解させることを目標とした。授業への参加意識の高い学生には興味を深める内容の授業が提供できた。学力の低い学生にとっては難解でもほとんどののがくせいがある程度内容を理解できていたように見える。

### 2) 自己点検・評価

排泄と構音。発声の項目ごとに教科書によって基本事項を説明し、全般的な内容説明には効果があった。

### 3) 改善方策

基本的な事項についてより深い内容理解につなげるようにする。講義中に関連する既習事項もより多く上げることで効率的に学習できるようにする。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

生理学的な機能について、基本的な事項を理解させるため、できるだけ教科書に沿って授業を進めた。理解を深めるために問題演習も意識的に増やした。多くの受講者で効率的に理解の助けとなったと思う。

### 2) 自己点検・評価

効率的に授業内容を理解させるために、補助教材としてプリントを作成し、より効果的な内容理解させた。一方で、成績不良者に危機意識を喚起できなかった。

### 3) 改善方策

コロナ禍で積極的に相補的な授業ができなかったが、演習問題を増やすなどして学生が授業中に自ら学び、知識を確認する機会を増やす。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

前期1回で及第点に達していることが合格基準である。及第点に達していない場合には再試験を1回行っている。

### 2) 自己点検・評価

半年間で1回の試験で、不合格者に再試験を課しているため、成績不良者への配慮としても十分と考える。

### 3) 改善方策

現行でのままでよいと考える。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔生化学Ⅱ	第3学年
科目責任者(記載者)	加藤靖正	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

細胞外基質分子、硬組織、唾液及び齶蝕について、構造と機能について学修する。また、染色体異常、遺伝形式と病態の基本的事項について学ぶ。

下記項目について説明できることを到達目標とする。

- ・細胞外基質分子の構造と機能
- ・硬組織の構造と機能
- ・血清カルシウムの生体恒常性
- ・唾液・プラーク・齶蝕の分子機構
- ・細胞内情報伝達機構
- ・DNAの損傷と修復機構
- ・遺伝病・遺伝子病、生活習慣病の成因

### 2) 自己点検・評価

53.5%の学生が予習しておらず、授業中に理解を深めることは困難であるにもかかわらず、23.2%の学生が復習していない結果となった。知的好奇心については、86%が肯定的に評価しており良好な結果となった。科目の平均は3.26(全体平均3.33)であった。

### 3) 改善方策

個別意見としてこれまでの内容との継続性について指摘した意見があり、講義ではその都度説明していると思うが伝えられていないのかもしれない。その事実を念頭に置き改善に努める。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

パワーポイント主体で練習問題を提示した教員3名(非常勤講師のzoom講義を含む)と板書主体の教員1名で分担した。

### 2) 自己点検・評価

パワーポイント主体の講義は概ね好評であった。2年生と異なり板書主体の講義についても板書そのものの解説がわかりやすいなど肯定的な個別意見がなされた。その一方で板書については次のような改善点を指摘する意見もみられた。板書量、配色、板書ではなくレジメに変更など。質問対応や説明などについては、好評であった。

### 3) 改善方策

資料提示に関しては、毎年バージョンアップする。板書については、内容の厳選、レイアウトの工夫に務める。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

五肢選択問題による本試験で65点以上を合格とした。

### 2) 自己点検・評価

正答率30%未満の問題については、正答した学生は採点対象とし、誤答した学生に対しては、総問題数に含まない措置を講じて採点をしている。

### 3) 改善方策

特に問題点は見いだせないので、今後も継続していく。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔生化学実習	第3学年
科目責任者(記載者)	加藤靖正	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

生体を構成する基本的な物質、医学的に重要な血液検査項目、さらに遺伝子の解析方法などについて理解を深める。次の項目についての修得を目標とする。  
測定機器の取り扱い方、測定法の原理と特異性の理解、生体構成物質の基本的な取り扱い方、測定した結果のまとめ方とその意味の考察など。

### 2) 自己点検・評価

教員の熱意・工夫に関しては、68.4%がポイント4をつけ、教員の授業準備に関しては、65.8%がポイント4をつけた。全く予習しなかったとした学生(ポイント1をつけた学生)は、23.7%であったがまったく復習しなかった学生は5.3%と少なかった。科目平均ポイントは、3.31(全体平均3.33)。

### 3) 改善方策

今後も継続していく。予習の必要性については、習慣づけられるように喚起していく。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

新型コロナウイルス感染防止拡大防止対策として実際の実習は行わずに実験手順の動画を見たのち、演習を行う形式で進めた。動画については、大変好評であった。また、3回の実習試験の前には、関連事項の講義を行い、試験直前には振り返り学習の時間を設けた。実習日ごとにレポート提出を課した。

### 2) 自己点検・評価

動画、実習の進め方など大変好評であった。将来のつながりを指摘する個別意見もあった。

### 3) 改善方策

今後も継続していく。将来のつながりについて強調する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

記述、多肢選択などによる出題形式の試験を3回実施し、その平均を70%、レポートを30%として65点以上を合格とした。

### 2) 自己点検・評価

65点に満たない学生に対しては、レポート提出をさせ、その成績をもって合格とした。

### 3) 改善方策

特に問題点は見いだせないので、今後も継続していく。

# 2021年度 授業の自己評価票

授業科目・対象学年	口腔感染免疫学Ⅱ	第3学年
科目責任者(記載者)	清浦有祐	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

到達目標は「1)微生物感染に対する免疫応答を説明する。2)免疫応答に関係する細胞性因子を説明する。3)免疫応答に関係する液性因子を説明する。4)齶蝕と歯周病の原因菌を説明する。5)齶蝕と歯周病が起こるメカニズムを説明する。」である。到達目標を実行するために、授業はわかりやすく丁寧に進行させて、到達目標の達成に努めた。

### 2) 自己点検・評価

2021年度は前期の中間で中間試験を行うことで、理解度の低いと判断される箇所を明らかにして、その部分を再度丁寧に授業を行った。講義に使用するプリントもよりわかりやすさを追及したものとした。そのようにすることで、授業後の学生自身による復習を助けることができたと考える。

### 3) 改善方策

講義の中心となる免疫学は一つの体系的な講義であるため、一度途中で理解が困難になるとそのまま理解が不十分となる。そのため、ヒトの免疫システム全体の中で各項目がどのようなつながりを持つかということを常に意識して授業を行っていく。また、板書においてもわかりやすく訴求力のある図を示して理解を深めるようにする。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

教科書・教科書の内容を分かりやすくしたプリント・板書の3つを基本に丁寧に分かりやすい授業を行っている。授業後は新型コロナウイルス感染防止のために、昨年度まで行っていた中央棟3階学生ホールでの質問対応の代わりにメール及び電話での質問対応を行った。

### 2) 自己点検・評価

講義の中心と②免疫学では1つのストーリーとしての免疫学を学ばせる点についてさらに授業をわかりやすくさせる必要がある。講義の各コマ間の連携を意識して、免疫学を1つの体系として学生が実感して理解できる講義としていく必要がある。

### 3) 改善方策

免疫学の講義では全体に流れを意識して各項目を教授していくようにした。各項目が免疫学の中でどのような位置を示すのかを明確にした。また、前回の講義の復習を必ず行って知識の定着に努めた。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

成績評価は授業概要の記載に従って、65点以上を合格として定期試験と中間試験の成績の平均点で評価した(100%)。試験は記述問題と多肢選択方式の問題の2つが含まれる。

### 2) 自己点検・評価

成績評価については、現状のままです。特に大きな問題はないと考える。

### 3) 改善方策

成績評価では、特に改善すべき点は無い。

# 2021年度 授業の自己評価票

授業科目・対象学年	口腔感染免疫学実習	第3学年
科目責任者(記載者)	清浦有祐	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

到達目標は「1)細菌と真菌の取扱いに関する手技を説明する。2)細菌と真菌の基本的な形態を説明する。3)薬剤の細菌への効果を知ること、化学療法の原理を説明する。4)齶蝕と歯周病の原因菌の性状を実際に調べ説明する。5)ヒトの生体防御のメカニズムを説明する。」である。実習開始前には当日の実習内容の理論的背景を丁寧にわかりやすく講義して実習の理解を高めた。

### 2) 自己点検・評価

2021年度最終成績評価で不合格者は0名であったことから、到達目標をほぼ達成することができたと考えられる。しかし、実習レポートに関してはさらに改善を必要とする学生が存在していた。この点については教授法の改善が必要である。特に考察部分で問題意識を持たせるようにしたい。

### 3) 改善方策

昨年度と同様に実習前の講義で実習内容の理論的背景を話し、なぜその実習を行うのか、その結果からどのようなことが考えられるのかを学生自身が考えられるように指導する点で改善を行った。これをさらに学生の理解度を確認しながら、より深い内容まで実習の意義を理解させるようにする。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

実習書・実習内容を分かりやすくしたプリント・板書・実習デモンストレーションの4つを基本にしたが、2021年度は新型コロナウイルス感染対応のため、唾液・歯垢の採取を行う実習は中止となり、教員側のデモンストレーションのみとなった。しかし、この部分については実習講義を詳しく行うことで補充した。

### 2) 自己点検・評価

教育方法に関しては、2021年度の成績結果から大きな問題はないと考える。しかし、実習レポートの考察部分で実習結果から考えられる点や実習の意義などの深い内容まで考える部分が十分に記載されていない点は改善する必要があると考える。

### 3) 改善方策

実習前の講義を単なる実習内容の説明ではなく、考察につながるような考え方のヒントなども教授していく形にする。それによって、実習が単に実習における操作を学ぶのではなく、実習結果からどのようなことがわかるのかを深く理解させるようにする。そのことが考察の充実につながると考える。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

成績評価は授業概要の記載に従って、筆記試験と実技試験の結果(40%)と提出されたレポートの採点結果(50%)、出席(10%)で評価した

### 2) 自己点検・評価

成績評価については、現状のままでも特に大きな問題はないと考える。

### 3) 改善方策

成績評価では、特に改善すべき点は無いと考える。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科薬理学Ⅱ	第3学年
科目責任者(記載者)	柴田達也	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

全身疾患の治療に用いられる薬物(末梢神経系・中枢神経系に作用する薬物、循環器系に作用する薬物、血液・造血器系に作用する薬物、抗腫瘍薬など)および歯科医療現場で使用する頻度が高い薬物(局所麻酔薬、鎮痛薬・抗炎症薬、抗菌薬、消毒薬など)の特徴を説明できることを到達目標にしている。シラバスに提示した項目はすべて講義した。

### 2) 自己点検・評価

全身疾患の治療に用いられる薬物と歯科医療現場で使用する頻度が高い薬物を広範に取り上げているので、CBTや歯科医師国家試験の出題範囲は網羅しているが、薬物の数が多いので消化不良になっている可能性がある。

### 3) 改善方策

取り上げている薬物を見直し、数の削減を検討する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

2021年度は30コマ中、柴田が22コマ担当し、長岡が8コマ担当した。両名ともにプリントを作成して、それを基にスライドを用いて講義を行った。

### 2) 自己点検・評価

2021年度の授業評価では柴田の講義は概ね好評であった。長岡担当分の講義について、プリントの余白が不足しており書き込みがしづらいこと、スライドにのみあってプリントには記載がないものがあることなどの指摘があった。

### 3) 改善方策

長岡には、枚数が増えてもよいので書き込みができる程度の余白のあるプリントを作成すること、スライドに出すものはできるだけプリントに載せることを依頼する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

中間試験の得点と定期試験の得点の平均点で65点以上を合格としている。中間試験、定期試験ともに本試験は試験問題を返却して解説している。

### 2) 自己点検・評価

中間試験の平均点は86.9点、定期試験の平均点は70.0点で、それらの平均点は78.6点であった。定期試験は他の科目と同じ時期に試験が行われるので、単科で行われる中間試験ほど成績がよくないのは、やむを得ない面もあるが、長岡出題分で、やや難しい問題がいくつかあった。

### 3) 改善方策

試験問題はすべて柴田が作成する方向で考える。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科薬理学実習	第3学年
科目責任者(記載者)	鈴木 礼子	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

動物愛護の3つのRに鑑みて、実際の患者データや、多数の実験動物の犠牲の元に蓄積された実験データをPC上で再現できるシミュレーション、及び、過去に骨粗鬆症モデル動物から採取した標本のデジタルデータを採用した実習を実施した。それによって、歯学生にとって重要な、薬物動態、薬物相互作用、循環器系に作用する薬物、硬組織の薬理について、客観的データと知識を統合し、論理的に考える姿勢を修得することを目指した。

### 2) 自己点検・評価

「学生による授業評価」の結果から、概ね、学生にとっても、歯科薬理学の座学で学んだことの理解を深める一助となったようである。従って、到達目標は概ね達成でき、実習の方向性として妥当であったと考えられる。

### 3) 改善方策

現状でも、歯科医師国家試験合格を目指す学生に対して有意義な実習となっていると考えられるので、実習項目自体は大きく変えずに、実習の導入ガイダンス(目的説明)において、学生の興味を引き出せるよう、実験の意義・目的をより明確に説明するようにする。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

項目ごとに、基本的には、(1)導入講義(実習に関わる基礎的な知識の確認)、(2)実習課題の実施(PCシミュレーションまたは標本データ解析)、(3)問題演習(実習に関連する歯科医師国家試験問題等)のセットで実施した。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、実習課題実施においては、各人にデータを掲載した紙資料を配布し、そのデータを元に解析させた。

### 2) 自己点検・評価

「学生による授業評価」では、概ね、「興味が高まった」・「理解が深まった」との評価であった。従って、たとえ机上の演習に近い実習形態であっても、目的や意義をしっかりと説明できれば、学生の学修意欲の向上や、理解を深めることに有用であることを示せたと考えている。ただし、学生の興味・関心を高め、有意義な実習であったと受け止めてもらえるような改善を重ねていく必要はある。

### 3) 改善方策

歯科医師国家試験の傾向や、世間の歯科医療に対するニーズの動向をふまえた上で、なぜ、この実習が必要なのか、また、この実習から修得して欲しいことは何なのかを、より明確に提示していく。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

実習内容に関する筆記試験(60%)と提出課題(40%)の合計で、100点満点中65点以上で合格とした。なお、提出課題は、不備があった場合は差し戻してやり直させ、それが期日までに提出された場合は、満点とした。

### 2) 自己点検・評価

提出課題が40%分あることにより、筆記試験の再試験を実施することなく、全員合格に至った。このことは、課題にきちんと取り組んでいるが、理解・アウトプットするのに少し時間がかかりがちな学生の、日頃の努力を評価できるという点では長所だと考えている。反面、既に提出課題点が蓄積した時期に筆記試験を行う都合上、最初から、試験勉強に身が入らないような学生も数名出てしまったのは、短所である。

### 3) 改善方策

実習なので、課題にきちんと取り組んでいるが、理解するのに少し時間がかかりがちな学生の、日頃の努力を評価できるという長所は、このまま生かしたい。一方、課題点があることを口実に、学修を怠けるような学生に対しては、毎回の実習や講義に真剣に取り組み続けた学生が、結局は、最低年限ストレートで歯科医師国家試験に合格するという厳然たる事実を伝えて、意識向上を指導していく。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔衛生学	第 3 学年
科目責任者(記載者)	廣瀬公治	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

公衆衛生学・口腔衛生学領域の要点を理解し、歯科医師国家試験に対処できる学力を修得することを到達目標としている。

### 2) 自己点検・評価

到達目標は明確であり評価する。

### 3) 改善方策

現状を維持する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

これまで講義は板書中心とした方法で実施していたが、医師国家試験予備校のスタイルを取り入れた過去問徹底研究型に講義方法を変更した。

### 2) 自己点検・評価

歯科医師国家試験のみならず、医師国家試験、管理栄養士国家試験などの問題を例示し、要点に絞った講義をしたことは評価できる。しかし、例示問題数が多くなり、学生が消化不良を起こしていたことは改善が必要である。

### 3) 改善方策

重要な問題に絞り、正解までの道のりを根拠をもって理解できる講義とする。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

卒業試験で評価している。

### 2) 自己点検・評価

卒業試験での平均点は70点前後で正答率・識別指数も良好である。

### 3) 改善方策

現状を維持する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔衛生学実習	第 3 学年
科目責任者(記載者)	廣瀬公治	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

集団における公衆衛生および口腔衛生の状況を正しく判断するための基本的技能を取得するため、各個で行なう実習はもとよりグループ単位で行なう実習も取り入れた実習を行い到達目標の完遂に勤めている。

### 2) 自己点検・評価

第3学年で修得すべき実習項目を網羅しているものであり評価できる。

### 3) 改善方策

現状を維持する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

本実習では、健康に影響を与える環境要因の測定と、地域口腔保健を推進するために必要な歯科疫学指標を得るための口腔内診査と統計、さらには個人の歯科疾患予防のための齶蝕活動性試験とシーラントを実技で修得する実習を行なう予定であった。

### 2) 自己点検・評価

新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、密集して行うことが多い本実習については、本年度、教員によるデモンストラーションで実技に代えた。実際に実習実技を実施していた昨年度に比べ、効果測定の点数が低下したことは改善が必要である。

### 3) 改善方策

新型コロナウイルス感染症の蔓延状況にもよるが、次年度もデモ中心となることを見据えて、展示方法の改善に努める。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

出席(10%)、レポート(20%)および効果測定(70%)の合計で65点以上を合格としている。

### 2) 自己点検・評価

知識・技能・態度をそれぞれ評価する指標を用いていることは評価する。

### 3) 改善方策

現状を維持する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	保存修復学 I	第3学年
科目責任者(記載者)	山田 嘉重	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

齲蝕、非齲蝕性硬組織疾患による実質欠損に対して適切に治療を行うための基礎知識を身に着けることを一般目標としている。保存修復学 I での到達目標としては、齲蝕、非齲蝕性の硬組織疾患の違いを認識し、それぞれの病因と病態を説明できるようにすること。さらにそれぞれの治療法を手順を追って説明できることを目標とし、その目標に沿った授業を行っている。

### 2) 自己点検・評価

保存修復学 I で習得しなければならない知識の習得については、う蝕の診断や治療法などシラバスにのった順番でしっかりと講義ができたことから、シラバスに記載されている最低限の到達目標は達成できていると思われる。

### 3) 改善方策

保存修復学 I の到達目標としているう蝕と直接修復の基礎的な理解を得ることが十分にできていない学生もいたことから、すべての学生が到達目標としている項目を習得できるように講義を工夫していく。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

板書、スライド、配布資料を用いて指定教科書の内容に沿って講義を行った。学生にはその日のうちに教科書・配布資料や各自の授業ノートにて復習するよう指導した。

### 2) 自己点検・評価

教科書に沿って授業を進めており、教科書による予習・復習には問題なかったものと思われる。また教科書の内容を理解し易くなるよう内容の説明や配布資料の作成を行っていることから、授業の復習をすることで授業内容を十分に理解することができたものと考えている。

### 3) 改善方策

保存修復学の講義内容は生体材料学、口腔衛生学などの分野と共通する項目があることから、それらの分野で教えている内容を考慮した講義を行うことで、知識力の向上が望めると思われることから、講義では他分野の内容を意識して講義を行っていく。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

成績は定期試験の成績65点以上で合格とし、不合格の学生には必要に応じて再試験を行い、同じく65点以上で合格とした。

### 2) 自己点検・評価

定期試験・再試験のみによる評価とすることで、保存修復学 I で習得する必要がある内容について学生が理解することができたかを客観的に知ることができたものと思われる。

### 3) 改善方策

試験問題の出題形式をマークシートを用いた多肢選択選択枝問題にしていることで、4年時のCBTは歯科医師国家試験に準じた問題で評価することができる反面、浅い知識でも正答を導き出せる可能性がある。そのため、記述と選択枝問題の併用した試験問題にすることも検討している。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	冠橋義歯補綴学 I	第3学年
科目責任者(記載者)	羽鳥 弘毅	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

「到達目標」を達成するために教科書、教科書をまとめた講義資料(スライド、学生配布用プリント)、講義ごとの確認テストなどを使用して講義を行った。この際「一般目標」の内容を反映させて講義を行った。本科目は冠橋義歯補綴学の必修～基礎内容の項目であることを学生にアナウンスし、授業内容が深く理解されるよう配慮している。

### 2) 自己点検・評価

「到達目標」はシラバス記載の通りに授業を行い、授業での「学習の目標」は教科書の内容を反映させた。その結果、「授業はシラバスに沿って進化したと思いますか。」の項目において、「そう思う(50%)」と「どちらかと言えばそう思う(50%)」の評価となり、「到達目標」は高評価と自己点検します。問題点としては、科目評価が全体平均を下回ったことです。

### 3) 改善方策

「到達目標」は高評価であると考えられるので、「シラバスの記載」や「教科書の学習の目標」に沿って丁寧に講義を行うことでさらなる高評価を得られるよう取り組みます。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

教科書、教科書をまとめた講義資料(スライド、学生配布用プリント)、講義ごとの確認テストなどを使用して講義を行った。必要に応じ、症例写真も取り扱うことで視覚的に理解が進むよう配慮している。

### 2) 自己点検・評価

「教員は授業の準備(時間配分、資料等)をしっかりとっていたと思いますか。」では「そう思う(63%)」であり、科目平均が全体平均を0.1ポイント上回っていたため学生からの評価は高かったと推察される。「教員の熱意や授業授業の工夫は感じられましたか。」では「そう思う(47.8%)」であり、科目平均が全体平均を0.15ポイント下回っていたため熱意と工夫を伝える努力が不足していたと推察される。

「授業資料」はしっかりとっていたために今後の資料作成は年度更新ごとに国家試験などの出題内容を追加することにより教育方法を改善していきたい。具体的には穴埋め式の講義資料、MCQでの演習問題を作成していきたい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

後期の定期試験において点数が65点以上を合格とする。点数が65点未満の場合には再試験を行う。点数が65点未満の再試験該当者は、再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。

### 2) 自己点検・評価

長所は定期試験での不合格者がいないことである。問題点は採点結果が低い学生が一定の割合で存在することである。”想起→解釈⇒問題解決”のどこかで情報を整理仕切れていない学生が存在することと判断します。授業の進め方なども含めて改善する必要があります。

### 3) 改善方策

試験問題の正答(率)や識別係数などを判断材料として、授業資料と試験問題のブラッシュアップを行う予定です。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	有床義歯補綴学 I	第 3 学年
科目責任者(記載者)	山森 徹雄	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

本科目は、全部床義歯の臨床的意義を理解し、製作、装着するための理論修得を一般目標としている。そのために無歯顎の特徴、診察や検査、全部床義歯の製作過程やそれに関する理論、さらにはメンテナンスや術後経過を説明することを到達目標としている。

### 2) 自己点検・評価

臨床実習前に修得すべき全部床義歯学に関連する知識を網羅しており、適切な到達目標であると考えている。

### 3) 改善方策

到達目標としては、現行からの修正は不要であると考えている。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

到達目標を実践するための内容について講義を行った。部分的に空欄とした講義プリントを作成して配布し、プロジェクターで提示したパワーポイントファイルおよび板書から学生自身に空欄を埋めながら解説した。また今年度は全部床義歯学を専門に自大学で講義・実習を担当している非常勤講師による講義を4時間設定したが、コロナ禍により実施できなかった。

### 2) 自己点検・評価

学生の講義に対する集中度は概して良好であったと思われる。詳しい説明や繰り返して説明すると共に、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。また昨年は聞き取りにくいとの意見があったため、話すスピードに留意したところ、そのような意見はなかった。

### 3) 改善方策

今年度は学生との双方向性に充てる時間を確保した。スライドからプリントに記入する際の時間不足の指摘があったため、次年度は考慮する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

毎回の講義での小試験で形成的評価を行い、理解不十分な箇所が明確になるよう配慮した。また中間試験と後期試験で客観試験、記述試験による総括的評価を行った。後期試験不合格者と欠席者24名に対して追再試験を実施したが、2名のみが合格した。特待生の継続条件未達成者を含め特別試験を実施したが、14名は合格に至らなかった。

### 2) 自己点検・評価

これまでと同様の難易度の問題により総括的評価を行ったが、後期試験後に53名中24名が再試験を受験した。再試験、特別試験を実施してもなかなか合格に至らないことから、学生間の格差が広がっていると考えられる。

### 3) 改善方策

本科目の講義内容が多岐にわたるため、毎回の講義後に十分な復習を実施しないと内容の理解が難しくなる可能性がある。これを回避するため、講義開始時に毎回の復習を必ず行うよう指導した上で、講義中にも繰り返し説明を行ったが、不合格の学生がいた。来年度は毎回の小試験の内容を有効に活用し、自己学習による知識の定着をさらに強く指導する予定である。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	有床義歯補綴学Ⅰ実習	第3学年
科目責任者(記載者)	山森 徹雄	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

本科目は、全部床義歯の臨床的意義を理解し、製作、装着するための理論修得を一般目標としている。そのために無歯顎の特徴、診察や検査、全部床義歯の製作過程やそれに関する理論、さらにはメンテナンスや術後経過を説明することを到達目標としている。

### 2) 自己点検・評価

臨床実習前に修得すべき全部床義歯学に関連する知識を網羅しており、適切な到達目標であると考えている。

### 3) 改善方策

到達目標としては、現行からの修正は不要であると考えている。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

到達目標を実践するための内容について60時間の実習を行った。少人数のグループに分かれ、チュータからの個別指導に従い、実習マニュアルに沿って全部床義歯製作の各過程を実践した。

### 2) 自己点検・評価

臨床実習前に必要な内容を組み込んでいるため、実習時間に余裕がない。学生の授業評価では、すべての項目で全体平均を上回る結果であるものの、時間が不足気味であることが指摘されている。またグループ間の違いに対する不満が提示されている。

### 3) 改善方策

コロナ禍にあって非常勤教員の参画が難しいため、学内スタッフの指導能力向上を目的としてデモ模型の製作に力を入れる。またインストラクターミーティングで学生への接し方、指導方法、到達目標などの統一を図る。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

実習中の口頭試問で形成的評価を行い、実習毎の小試験と実習終了時点の実技試験、製作物と出席状況により総括的評価を行った。

### 2) 自己点検・評価

ほとんどの学生は形成的評価に基づき指導に沿った自学自習を実践し、総括的評価で合格に至った。ただし、欠席の多い2名の学生は不合格と判定された。なおこの2名の学生は複数の他科目でも不合格の結果であった。

### 3) 改善方策

実習前半では講義に先行して実習する内容が含まれるため、事前の説明を詳しく行う。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔外科学 I	第 3 学年
科目責任者(記載者)	金 秀樹	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

顎・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るために、1) 手術総論、小手術の知識、2) 症性疾患、3) 腔粘膜疾患、4) 血液疾患、5) 損傷、6) 全身疾患と口腔病態(口腔・顔面に症状を現す全身疾患)の基礎的および臨床的な知識を習得させるために授業を行っている。

### 2) 自己点検・評価

到達目標はある程度達成できたと考える。今後も講義内容をより分かりやすく伝えるように邁進する。

### 3) 改善方策

今後もさらに重要項目と重要ポイントを強調しよりわかりやすく理解させる授業に心掛ける。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

教科書と教員の作成したプリントをもとに授業を行った。重要事項は板書し説明を加え理解しやすく工夫した。さらに投影視覚素材を使用しわかりやすい授業内容に心掛けた。さらに、プリントは学生に書いてもらえるように余白を多く設けて対応した。

### 2) 自己点検・評価

学生の授業評価から判断して、教育方法に大幅に変更すべき問題はなかったと考える。

### 3) 改善方策

重要項目と重要ポイントを強調し、基礎科目と関連させることで、わかりやすく理解させる授業に心掛ける。双方向性の講義を工夫して行っていきたい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

評価方法は出席・態度評価(5%)、定期試験(95%)とし65点以上を合格とした。定期試験欠席者に対して追試験を行い、必要に応じて再試験を実施した。試験は多肢選択および記述式試験で実施した。

### 2) 自己点検・評価

定期試験・追再試験を実施し、学生は授業内容を十分理解し到達目標に達していると考えますが、今後さらに講義方法のブラッシュアップが求められる。

### 3) 改善方策

今後も同様の評価方法で成績評価を行うが、授業期間中に理解度を確認するための小テストを実施し定期試験の平均点アップに勤める。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科放射線学 I	第3学年
科目責任者(記載者)	原田卓哉	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

到達目標の内容についてある程度達成されていると思われる。

### 2) 自己点検・評価

長所:説明がわかりやすい。  
問題点:板書の文字が小さい。

### 3) 改善方策

長所を伸長するための方策:わかりやすい説明をする。  
問題点を解決していくための方策:板書の文字を大きく書く。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

教科書の解説と要点の抽出および説明をしている。

### 2) 自己点検・評価

長所:説明がわかりやすい。  
問題点:板書の文字が小さい。

### 3) 改善方策

長所を伸長するための方策:わかりやすい説明をする。  
問題点を解決していくための方策:板書の文字を大きく書く。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

正解率は70%以上を維持している。評価方法は妥当と思われる。

### 2) 自己点検・評価

長所:説明がわかりやすい。  
問題点:板書の文字が小さい。

### 3) 改善方策

長所を伸長するための方策:わかりやすい説明をする。  
問題点を解決していくための方策:板書の文字を大きく書く。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	高齢者歯科学 I	第3学年
科目責任者(記載者)	鈴木 史彦	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

高齢者歯科学 I では多職種連携を踏まえた訪問歯科診療・在宅歯科医療を安全に実施するために、多職種協働のしくみや高齢者に必要な口腔健康管理に関する知識を習得することを目的としている。主な到達目標は、老化に伴う心身および口腔の加齢変化、高齢者に多くみられる全身疾患と口腔疾患、訪問歯科診療、介護保険、急性期・慢性期・終末期での歯科の役割について学習する。

### 2) 自己点検・評価

シラバスの内容に沿って授業を実施した。長所は授業の開始時に「今回の重要3項目」を提示することで、その回で学習すべき内容のコアとなる部部を明確にしたことである。問題点は、1時限のなかで内容が多い回のときに、後半で十分な説明ができないことがあった点である。

### 3) 改善方策

モデルコアカリキュラムと国家試験の出題基準が更新されたことを踏まえて、今まで実施してきた重要項目と、これから教育すべき内容について乖離が内容に確認しながら、わかりやすい授業を継続していきたい。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

前回の授業の復習をするために、最初にグーグルフォームを用いた確認テストをしている。結果がすぐにグラフで反映されるため、授業内容に対する学生の理解度の確認にもなる。授業は使用している教科書をもとに、内容をまとめた講義資料とスライドを用いて実施している。また、その回と関連する歯科医師国家試験の過去問題を練習問題として説き方を解説している。

### 2) 自己点検・評価

講義資料は単にパワーポイントのスライド一覧ではなく、ワードファイルにしたものを別途準備し、字が読める資料を心がけている。グーグルフォームでの確認テストにより、リアルタイムで作成される正答率グラフをもとに解説することで、双方向性も確保している。スライドには適宜動画を挿入することで、わかりやすいように工夫している。内容が多い場合に、授業の後半で説明が不足することが問題点である。

### 3) 改善方策

1回の講義で内容が多いものに関しては、内容を2回に分けて実施するような見直しが必要と考えている。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験と追・再試験により100点満点で評価している。80点は筆記問題で、授業で提示した重要3項目に関する問題を出题している。20点は選択肢問題で、授業で提示した歯科医師国家試験の過去問題を改変した問題を出题している。筆記試験と選択肢試験の合計が65点以上の者が合格となる。

### 2) 自己点検・評価

定期試験と追・再試験の終了後に正答を配布し、その場で学生からの疑義を受け付けている。また、定期試験と追・再試験は異なる範囲から出题することで、追試と再試の受験者に対する公正性を担保している。

### 3) 改善方策

授業開始時の確認テストについて、授業評価には明示していなかった。今後は、確認テストの分を加点として最終成績に組み込むことを検討している。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	災害歯科医学	第3学年
科目責任者(記載者)	板橋 仁	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

社会における歯科医師の役割を理解し、将来起こり得る大規模災害等に際して社会に貢献できる歯科医師となるために、到達目標 1) 大規模災害時における歯科医師の役割 2) 災害時の医療体制 3) 歯科的個人識別 4) 法歯学の基本 を定め、後期15コマの講義を行った。

### 2) 自己点検・評価

本科目が目標とする理念について、学生に伝わったものとする。

### 3) 改善方策

災害歯科の中で法歯学を教える難しさがあり、次年度から外部講師を招聘した。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

シラバスの内容に従い、スライドを中心とした講義を行った。関連部分について教科書あるいはレジメの内容を解説した。

### 2) 自己点検・評価

「東日本大震災当時の体験談を踏まえ、災害時に歯科医師として何が出来るのか、とても良く分かった」「演習問題がスライドで出題されて良かった」「前回までの復習の時間があり、内容をより理解することができた」等の意見があった。一方では「授業のレジメが配られない時がある」「レジメに書いていないことがある」等の意見があった。

### 3) 改善方策

大規模災害での身元確認の経験を基に、災害時に歯科医師が行うべきこと、災害時の歯科保健医療について、しっかりと伝えていく。講義のレジメはまとめて渡さず、講義ごとに配布する形をとる。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験(100%)により評価し、65点以上で合格とする。

### 2) 自己点検・評価

「新設された科目でもあり、テストの形式や難易度について不安がある。事前に説明を頂きたい」との意見があった。

### 3) 改善方策

定期試験の形式などについて、事前に説明をする。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	総合臨床医学	第 3 学年
科目責任者(記載者)	馬場 優	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

臨床歯学の土台となる外科学・内科学・耳鼻咽喉科学の内容を概観し、病の病態、診断、治療に関する知識を習得する。具体的には、医の倫理について説明できる。インフォームド・コンセントについて説明できる。医療安全の意義について説明できる。主要な症候と対処法について列挙できる。疾患の診断と治療について説明できるを到達目標にし、3年生全員が到達目標に達した。(全員が定期試験にて65点以上を取得した。)

### 2) 自己点検・評価

3年生全員が到達目標に達したということは、私が、そのように導いたということですので、自己点検としては「良」である。

### 3) 改善方策

特になし

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

国家試験の出題基準にのっとり、教育を行っている。

### 2) 自己点検・評価

国家試験の出題基準にのっとり、教育を行い、さらに最近の国家試験を参考に、定期試験を作成し、その結果受験生全員が65点以上取得したので、「良」である。

### 3) 改善方策

学生の意見を参考にさらなる教育方法の改善を図っていく予定である。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験で評価する。評価基準:65点以上を合格とする。追・再試験は各々1回のみとする。追・再試験において65点以上を合格とする。なお追々試験および再々試験は行わない。

### 2) 自己点検・評価

問題点は特になし。

### 3) 改善方策

特になし。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔内科学	第3学年
科目責任者(記載者)	高田 訓	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

昨年と同様、従来よりシラバスに記載された到達目標および「臨床との関連性を理解するための広い概念を知ること」を目標に加え授業を実施した。  
コロナ禍で非常勤講師の講義ができなかった。

### 2) 自己点検・評価

口腔内科学の教科書に沿って、具体的な到達目標に即した授業を行うことができた。

### 3) 改善方策

口腔内科学の教科書を熟知させ、臨床に直結させる必要があるが、改善対策は数年間の学力をみて判断する。  
コロナ収束を期待し、非常勤講師と授業内容を確認する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

前期・後期とも教科書を用いて、スライドとプリント媒体で講義展開し、写真媒体と活字で臨症的な概念を講義した。

### 2) 自己点検・評価

国家試験出題基準に沿った教科書により、有意義な授業を進めることができた。  
重要点を提示することで、学習しやすくなり成績の上昇がみられた。

### 3) 改善方策

昨年から通じて、ほぼ、予定通りなので、現状このまま進める予定。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

前期・後期ともに授業内容の確認を主体とし、定期試験で行った。  
但し、後期では前期の知識を再確認する内容の試験、さらに3D総括試験も踏まえて評価した。  
さらに記述の評価頻度を若干上げた。

### 2) 自己点検・評価

総括的かつ重要項目については十分に正しい評価ができた。

### 3) 改善方策

教科書を用い、試験後にフィードバックしやすくする。  
昨年からの改善を継続し、このまま進める予定。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	保存修復学Ⅱ	第4学年
科目責任者(記載者)	山田 嘉重	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

齶蝕、非齶蝕性硬組織疾患による実質欠損に対して適切に治療を行うための基礎知識を身に着けることを一般目標とした。到達目標としては、保存修復学Ⅰで学習した内容の再履修およびあらたな項目としての間接修復法の種類、適応症、適応窩洞、使用器具、修復材の種類を的確に選別し得ることとし、その目標に沿うよう授業を行った。

### 2) 自己点検・評価

保存修復学実習と並行しての講義を行ったことで保存修復で行う処置に対する基本的な知識を持たせることができたと思われる。しかし実習と講義の内容を関連付けて勉強することができていないと推測される学生もいたことから、授業と講義の内容の関連付けをより学生に理解させる必要がある。

### 3) 改善方策

授業と実習を同日に続けて行えることから、授業では実習でどのように体験できるのかをしっかりと説明する。また実習時においても講義で習った内容に触れ、講義と実習が関連付けて学べるように常に気を付けて学生に教えていく。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

講義は主にスライド、配布資料を用いて指定教科書に沿って行った。必要に応じて黒板への板書も併用した。

### 2) 自己点検・評価

教科書に沿って授業を進めたことから、教科書に記載されている内容は後日自分で復習する際に理解し易くなったものと思われる。しかし講義中に配布した資料を中心に復習を行っている学生も少なくなく、復習時に教科書を併用して勉強することを徹底できなかった。

### 3) 改善方策

学生には講義プリントのみに頼らず、教科書を併用使用しやすいように配布資料を工夫していく。またCBTに対応できるように最重要項目は繰り返し教育していく。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

成績は定期試験の成績65点以上で合格とし、不合格の学生には必要に応じて再試験を行い、同じく65点以上で合格とした。

### 2) 自己点検・評価

レポート評価などは行わずに定期試験・再試験のみで評価したことから、保存修復学Ⅱで習得する必要がある知識の有無を成績にできたものと考えており、学生の可否をただしく評価できたものと思われる。

### 3) 改善方策

定期試験のみでの試験範囲のため、学生に問いたい項目がすべて試験に反映できなかったことが反省点である。そのため学生の理解度を考慮して中間試験を行うことも検討していく。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	保存修復学実習	第4学年
科目責任者(記載者)	山田 嘉重	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

齶蝕、非齶蝕性硬組織疾患による実質欠損に対して適切に治療を行うための技能と態度を身に着けることを目標として、人工歯を用いた実習を行っている。

### 2) 自己点検・評価

4倍大石膏模型による各窩洞形態の確認、人工歯を用いたコンポジットレジン修復、メタルインレー修復、レジンインレー修復を授業の流れに沿って行っており、学生の知識の定着が得られやすい実習日程になっていると評価している。

### 3) 改善方策

授業で得た知識を学生が理解して実習をおこなっているのかを、各実習インストラクターがしっかりと確認して実習をおこなうよう促す必要があるため、学生だけでなくインストラクターも実習前に十分準備を行う。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

実習開始前に実習書の流れに沿ってデモを行い、実習の進行手順と注意点をあらかじめしっかり説明し実習を開始するようにしている。また疑問点や問題点が生じた場合はすぐに担当教員に質問するように逐一学生に指示をしている。

### 2) 自己点検・評価

実習を通して授業で説明した内容が理解しやすくなったと同時に、歯科医師としての仕事内容を自覚させることができていると考えている。

### 3) 改善方策

学生はそれぞれの実習日の課題を早く履修することに意識が向き、各項目をフィードバックを怠る学生が見られた。今後は実習中に学生各自にフィードバックさせるような指導法を検討していく。また講義中に、その日の実習で行うことについての注意事項や覚えておかなければならない事項を説明していくよう心がける。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

成績は、実習態度(20%)、実習中に行った窩洞形成や修復物の評価(50%)と最終日に行う実技試験による評価(30%)を総合して最終評価を行い65%以上の学生を合格とした。

### 2) 自己点検・評価

それぞれの実習時間で行った実習課題を各班の担当インストラクターに要所で確認をしてもらい、問題点や改善点を指摘してもらうようにしていることから、本実習を通して講義では理解しづらい項目も具体的に理解できるようになったと評価している。

### 3) 改善方策

実習で得られた知識がどのように講義での知識の向上に寄与したかを評価できるような評価基準も今後検討していきたい。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯内療法学	第 4 学年
科目責任者(記載者)	木村裕一	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯内療法学の科目における一般目標は、歯の硬組織・歯髄および根尖歯周組織などの疾病に対する予防と診断・治療として予防を行うために基本的な知識、技能および態度を習得することである。また到達目標を大きく10項目に分けて示した。授業では全てを網羅したが、試験結果では84名中9名(10.7%)が不合格となったことから判断すると概ね大多数の学生において到達目標は達成できたと考えられる。

### 2) 自己点検・評価

試験結果では、9名が不合格であった。今後は学生のさらなる学力向上を図るためには到達目標をさらに綿密に立案することが必要である。また、現在示している到達目標は歯内療法学のすべての範囲を網羅していると考えられるが、学生にとってかなり漠然としていてわかりにくいことが推測されるため、より具体的に示す必要がある。各授業ごとでは要点を提示していたが、良く伝わっていなかったことが考えられる。

### 3) 改善方策

到達目標の全体の数が増えるが、シラバスの紙面が許す限り、より具体的でさらに細かな内容にして提示すべきであるとされる。CBTと国試の出題が広範囲に渡っているため、全てを網羅するためには数が増えるが、到達目標をより具体的に理解できるように示さなければならない。また試験直前だけではなく、講義終了のたびごとに復習して知識を積み重ねていく必要がある。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

教科書を中心にして、特に重要であるところを板書して説明している。また、教科書に掲載してある写真を利用して症例を紹介している。図は黒板にできるだけ多く書いて説明し、そしてPCを用いて治療器具や症例を示している。また、写真を示すだけでは実感が湧きにくいので、外来から借りられる器具はできるだけ実物を示すようにしている。そして授業の最後にその授業と関連のある国試問題を提示している。

### 2) 自己点検・評価

授業がわかりにくいとのアンケート結果から、授業中に板書して説明をさらに詳しく行う必要がある。長所として、写真を示すだけでは実感が湧きにくいので、外来から借りられる器具はできるだけ実物を示すようにしていることが挙げられる。また、まとめたプリントを配布したが、あまり効果がなかったようである。

### 3) 改善方策

教科書を中心に進めていくが、授業の資料としてさらに多くの症例をPCを用いて視覚的に提示していく。そしてできるだけ黒板に書いて説明するようにする。さらに双方向性の授業を行うように心がける。写真を示すだけでは実感が湧きにくいので、外来から借りられる器具はできるだけ実物を示すようにする。器具を使用している臨床の場面はビデオ等を利用して説明し、理解が深まるように工夫する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

前期においては前期の講義が終了した後に、後期においては後期の講義が終了した後にそれぞれ講義内容の理解度について筆記試験を行い、筆記試験のみで評価し、前期と後期の平均が65点以上を合格としている。現状では、形成的評価は行わず、総括的評価のみで行っている。

### 2) 自己点検・評価

現在、行っている試験では65点を合格点としているが、国試が年々難しくなっている現状を考えると合格点をもう少し上げるべきであると考え。ただなかなか65点まで達していない学生が多いのが現状である。筆記試験が苦手という学生がいるので、多肢選択式の問題を評価に入れるのか検討しなければならない。

### 3) 改善方策

現在の筆記試験による総括的評価法はそのまま継続する。今後多肢選択式の問題を組み入れるのか、中間試験を実施するのかどうか、また評価法も多面的にして総合的な評価をした方が良いので、形成的評価の導入もしなければならないが、いつどの時間を利用して実施するのかについては問題が残されている。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯内療法学実習	第 4 学年
科目責任者(記載者)	木村裕一	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

臨床実習において根管治療を行うために根管形成および根管充填の術式と技術の基本的な知識、技能および態度を習得することを一般目標にして、また到達目標を細かく具体的に10項目に分けて示している。最終的評価では、全員が合格点に達していたことから判断すると一応、到達目標は達成できたと考えられる。

### 2) 自己点検・評価

最終評価では、全員が合格したことで最低限の目標には到達していたと考えられる。学生アンケート結果からは到達目標に関しては何も意見がなかったことから理解されて受け入れられているものと考えられた。しかし、今後、学生のさらなる学力向上を図るためには到達目標をさらに見直すことも必要である。

### 3) 改善方策

到達目標をさらに細かく具体的に示して理解しやすいようにして、レベルの高いものまで含むようさらに綿密に改善していかなければならない。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

各課題の手順は実習書のなかにある写真(図)で示し、必要と思われる箇所については実際にデモを行っている。実習では一人のインストラクターが学生12~18名ぐらいを担当し、各学生の根管治療における到達度をステップごとにチェックをしている。

### 2) 自己点検・評価

学生12~18名ぐらいの少人数を一人のインストラクターが担当したが、インストラクターの数が少ないとのアンケート結果から、インストラクターの数を増やすことも検討していかなければならない。コロナ禍の影響により、非常勤講師の来学ができなかったことも影響したと考えられる。エックス線撮影装置が3台しかなく、学生が並ぶことが多かったため、増設が望まれる。

### 3) 改善方策

実習書は毎年、改正をしているが、今後、さらに修正、改訂を加えて学生にわかりやすいように書き直しをしなければならない。教員のさらなる確保ができれば各インストラクターが担当する学生数を減らすことができる。また、手技をわかりやすくするため、モニター等を活用してビデオや実演を示し、よりわかりやすくなるように工夫する必要がある。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

ステップごとの検印の時に、技術的に一定レベルに達していない場合にはその都度、指摘してフィードバックし、そして修正させて合格基準に到達するまでやり直しをさせている。また、それぞれの課題が終了するごとに途中経過の状態をチェックするために製作物を提出させて採点し、技能評価(70%)、実習試験(20%)、小テスト(10%)により評価し、65点以上の者を合格として評価を行った。

### 2) 自己点検・評価

途中経過、または最後の製作物のチェックは一人の採点者が行うので評価基準が一定であるが、ステップごとのチェックは各インストラクターによって行われているのでインストラクターによって技能に差があるため、評価基準にばらつきが生じやすい。学生の理解度がどの程度なのか判断しにくい、全員が合格点に達していたので、目標は一応達成されたと考えられる。

### 3) 改善方策

各ステップごとのチェックに関しては、時間が許す限りインストラクター間の打ち合わせを事前に十分に行う必要がある。また、評価に関してはできるだけ総合的に評価することが望ましいので、技能評価の他に小テスト点も加味して行うようにしていたが、今後は範囲となる項目を絞ることを検討する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯周病学	第4学年
科目責任者(記載者)	高橋慶壮	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯周病の診断, 治療および予防を行うための知識を伝授し, 歯周組織の常態, 疾患, 診断および治療方法を理解し, CBT・歯科医師国家試験に合格するための知識を身に付けさせることを目標としている。45回の講義でおおむね達成できていると考える。

### 2) 自己点検・評価

CBTおよび歯科医師国家試験の結果を勘案すると, 教育効果が出ているように解釈している。4年生には特待, 通常, 編入生と多様な学生が混在しており, 学生間の授業態度や歯周病学に関する知識量の差が大きく, 試験の結果も標準偏差はやや大きい。講義スピードについてこれない学生が若干いると思われる。

### 3) 改善方策

より良い結果を出せるように, 授業内容を厳選する。学生間の学力差を勘案しつつ, 学生が自主的に学ぶ習慣を養うように指導する。具体的に, 事前に授業資料提示システムにデータを挙げて, 講義前に予習することを支援している。講義中は, 講義に集中するように指導をしている。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

教科書(臨床歯周病学 第3版 医歯薬出版およびザ・ペリオドントロジー 第4班)、プリントおよびスライドを用いた講義を行なっている。CBTや国家試験の臨床問題を解くには, 臨床推論の能力が不可欠で, 今後も出題が増えると予測されるので, 知識の定着を確認すること, 具体的には, 知識のアウトプットの練習として, 友人や家族に学習内容を説明してみることを推奨している。

### 2) 自己点検・評価

定期試験および追再試験はマークシート形成にしている。この方法でも学力をかなり正確に把握できていると判断しているため, 今後もマークシート方式を継続する。

### 3) 改善方策

マークシート形式の試験対策が必要だが, 基本的には知識の定着度を把握する必要があるため, レポートと双方向的な講義を行っていく。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

CBTや国家試験の模擬試験の結果をみる限り, 6年次の学力は全国平均レベルに到達している。今年の6年生の成績からも本学の学生に対して教育効果は上がっていると解釈しているが, 全国平均点より10点以上低い結果の問題領域については, 説明を追加する工夫をしている。

### 2) 自己点検・評価

マークシート形式を数年行っている。問題作成の時間がかかるが, 総じて出題者側からすれば実施しやすいと感じた。正答率が低い問題を精査し, 次年度の教育に活かしたい。

### 3) 改善方策

試験がマークシートの場合, キーワードの丸暗記をして内容を理解していない学生がいるため, 普段からの生活で, アウトプットの練習を推奨する。また, 読書を増やすとか, 新聞を読んだり, 文章作成する習慣をつけるように指導する。また, 専門の学問に対する興味を掻き立てるような工夫も必要と思う。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯周病学実習	第4学年
科目責任者(記載者)	高橋慶壮	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

座学の授業内容を踏まえ、基本的な歯周治療の技能を習得することを目標とする。すなわち、歯周病の診査・診断、一口腔単位の治療計画の立案、歯周基本治療、修正治療および各種歯周外科手術に必要な術式を修得し、メンテナンスに移行できるようにする。換言すれば、「術」の暗黙知を形式知へ変換し、学生が理解して実践できるように指導することを目指している。

### 2) 自己点検・評価

CBTおよび歯科医師国家試験の結果からは、教育効果がある程度出ていると考えている。

### 3) 改善方策

今年度は最初の器具チェックを厳密に行い、実習器具の準備を徹底させ、器具の名称や使用方法の理解を促した。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

実習に先立ち、日本歯周病学会の作成した基礎実習動画を視聴するように指導している。そのうえで、実習書とモニターおよびライターのデモを通じて実習方法を指導している。コロナ禍、県外の非常勤講師が来学出来ないため、指導者数が少なかった。

### 2) 自己点検・評価

歯周治療、とりわけ歯周外科治療の煩雑な治療ステップを使用する器具説明を含めて、ステップ・バイ・ステップで行う。デモを行い、学生の理解を深めさせる。留年生や編入生は実習の経験があるため、内容の理解は不十分でも、とりあえず課題をこなすが、術の根拠を深く理解できていないため、指導の工夫が必要である。

### 3) 改善方策

実習の進行の遅い学生には、各ステップのポイントを繰り返し説明し、部分的に手伝いながら指導をより細やかに行う。留年者および編入学の学生は早く課題を終わらせようとするあまり、雑になる傾向があるので、丁寧に行うよう指導する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

試験形式は筆記試験であるが、成績はおおむね良好である。実習態度や服装も成績に反映させている。CBTとOSCEの結果からしても、技能および態度はおおむね定着していると思う。

### 2) 自己点検・評価

他科の実習と異なり、制作物等の評価対象が乏しいため、雑に実習を行っている学生がいた。指導しても無視するふてばい学生もいた。昨今の風潮に流され、学生に迎合しすぎであろう。

### 3) 改善方策

妙案はないが、繰り返しの説明と指導を行う。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	冠橋義歯補綴学Ⅱ	第4学年
科目責任者(記載者)	羽鳥 弘毅	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

「到達目標」を達成するために教科書、教科書をまとめた講義資料(スライド、学生配布用プリント)、講義ごとの確認テストなどを使用して講義を行った。この際「一般目標」の内容を反映させて講義を行った。本科目は冠橋義歯補綴学の各論内容の項目であることを学生にアナウンスし、授業内容が深く理解できるよう配慮している。

### 2) 自己点検・評価

「到達目標」はシラバス記載の通りに授業を行い、授業での「学習の目標」は教科書の内容を反映させた。その結果、「授業はシラバスに沿って進捗したと思いますか。」の項目において、「そう思う(65.1%)」と「どちらかと言えばそう思う(33.7%)」の評価となり、「到達目標」は高評価と自己点検します。問題点としては、「シラバスやカリキュラムの確認」が全体平均を下回ったことです。

### 3) 改善方策

「到達目標」は高評価であると考えられるので、「シラバスの記載とシラバス熟読のアナウンス」や「教科書の学習の目標」に沿って丁寧に講義を行うことでさらなる高評価を得られるよう取り組みます。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

教科書、教科書をまとめた講義資料(スライド、学生配布用プリント)、講義ごとの確認テストなどを使用して講義を行った。必要に応じ、症例写真も取り組むことで視覚的に理解が進むよう配慮している。

### 2) 自己点検・評価

「教員は授業の準備(時間配分、資料等)をしっかりとっていたと思いますか。」では「そう思う(73.3%)」であり科目平均が全体平均を0.12ポイント、また「教員の熱意や授業の工夫は感じられましたか。」では「そう思う(68.6%)」であり科目平均が全体平均を0.08ポイント上回っていたため学生からの評価は高かったと推察される。問題点は、教員の熱意や授業の工夫が少し不足していたことである。

### 3) 改善方策

「授業資料」はしっかりとっていたために今後の資料作成は年度更新ごとに国家試験などの出題内容を追加することにより教育方法を改善していきたい。CBTに出題される臨床推論問題なども指導していきたい。他には穴埋め式の講義資料、MCQでの演習問題を作成していきたい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

前期の定期試験において点数が65点以上を合格とする。点数が65点未満の場合には再試験を行う。点数が65点未満の再試験該当者は、再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。

### 2) 自己点検・評価

長所は定期試験での不合格者がいないことである。問題点は採点結果が低い学生が一定の割合で存在することである。”想起→解釈→問題解決”のどこかで情報を整理仕切れていない学生が存在することと判断します。この結果がCBTでの失点につながってしまうと考えられます。授業の進め方なども含めて改善する必要があります。

### 3) 改善方策

試験問題の正答(率)や識別係数などを判断材料として、授業資料と試験問題のブラッシュアップを行う予定です。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	冠橋義歯補綴学実習	第4学年
科目責任者(記載者)	羽鳥 弘毅	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

「到達目標」を達成するために学生を4つの班に分け、各班には2名のインストラクターを配置して指導を行っている。ステップごとに各班でのデモンストレーションを行い、実習内容の説明を行っている。また講義時間中にもスライドを用いて、歯冠形態の復習を行っている。本科目は冠橋義歯補綴学の各論内容の項目であることを学生にアナウンスし、授業内容と実習が深く理解できるよう配慮している。

### 2) 自己点検・評価

「到達目標」はシラバス記載の通りに授業を行い、授業での「学習の目標」は教科書の内容を反映させた。その結果、「授業はシラバスに沿って進捗したと思いますか。」の項目において、「そう思う(77.9%)」と「どちらかと言えばそう思う(22.1%)」の評価となり、「到達目標」は高評価と自己点検します。問題点としては、実習であることから学生が「予習と復習」を行いにくいことです。

### 3) 改善方策

「到達目標」は高評価であると考えられる。当分野としての方策は、「実習内容の質」の向上に取り組みたい。具体的には「インストラクターの個々の能力」が向上することを期待し、学生からさらなる高評価を得られるよう取り組みたい。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

当分野で製作したオリジナル実習書を使用し教育している、実習に先立ち実習内容の小テストを行っている。小テストは解答後に回収し、回収後には試験の解説を行っている。伝統的に実習内容が非常に豊富であり、他大学に比べて丁寧な実習指導を行っていることは本学が他大学に誇れる教育方法の一つと思います。

### 2) 自己点検・評価

10の評価項目すべてにおいて全体平均を上回った(0.1~0.85ポイント)。また「教員質問はできましたか。」では科目平均が全体平均を0.71ポイント上回っていたため学生と教員の信頼関係は厚かったと推察される。これは当分野のインストラクターの教育にかける情熱の賜物であり長所と考えます。問題点は、技工の指導に終始し、臨床術式との関連が少し不足した点である。

### 3) 改善方策

実習概要としては学生から高評価を得ているため実習教育方法は現状維持でよろしいかと考えます。学生から改善してほしい点として、「教科書と実習書との相違」と「インストラクターの指導内容の均質化」を指摘されたので改善していきたい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

前期の実習期間での実習製作物評価(25%)、小テスト結果(25%)、実習実技試験(25%)及び実習筆記試験(25%)を総合して評価する。

### 2) 自己点検・評価

長所は本実習での不合格者がいない点である。  
問題点は採点結果が低い(=ほとんどが実技点での失点)学生が一定の割合で存在することである。

### 3) 改善方策

実習実技試験での不合格者に対しては、個別に再教育を行い再試験に臨ませることで合格点に達するよう配慮している。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	有床義歯補綴学Ⅱ	第4学年
科目責任者(記載者)	山森 徹雄	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

本科目は、部分床義歯の臨床的意義を理解し、製作、装着するための理論修得を一般目標としている。そのために、部分床義歯の構成要素、設計、製作過程に関する理論、さらにはメンテナンスや術後経過を説明することを到達目標としている。

### 2) 自己点検・評価

臨床実習前に修得すべき部分床義歯学に関連する知識を網羅しており、適切な到達目標であると考えている。

### 3) 改善方策

到達目標としては、現行からの修正は不要であると考えている。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

到達目標を実践するための内容について45時間の講義を行った。部分的に空欄とした講義プリントを作成して配布し、プロジェクターで提示したパワーポイントファイルから学生自身に空欄を埋めさせながら解説した。必要に応じて板書による説明を追加して学生の理解を図った。他大学の非常勤教員による講義を4時間予定したが、コロナ禍対応のためリモート講義とした。

### 2) 自己点検・評価

学生の講義に対する集中度は概して良好であったと思われる。学生の理解度を確認しながら講義を進めている。

### 3) 改善方策

当科目は講義全体を通して部分床義歯の臨床的、基礎的項目を網羅するため、欠席や集中不足などにより理解できない部分があると、わかりにくくなってしまふ。前回の講義を振り返りながら次の内容を説明することで対応したい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

毎回の講義での小試験で形成的評価を行い、理解不十分な箇所が明確になるよう配慮した。また中間試験と後期試験で客観試験、記述試験による総括的評価を行った。後期試験不合格者27名と欠席者3名に対して追再試験を実施したが、14名は不合格であった。特待生の継続条件未達成者を含め特別試験を実施したが、9名は合格に至らなかった。

### 2) 自己点検・評価

これまでと同様の難易度の問題により総括的評価を行ったが、後期試験後に90名中30名が再試験対象となった。再試験、特別試験を実施してもなかなか合格に至らないことから、学生間の格差が広がっていると考えられる。

### 3) 改善方策

本科目の講義内容が多岐にわたるため、毎回の講義後に十分な復習を実施しないと内容の理解が難しくなる可能性がある。これを回避するため、講義開始時に毎回の復習を必ず行うよう指導した上で、講義中にも繰り返し説明を行ったが、不合格の学生がいた。来年度は毎回の小試験の内容を有効に活用し、自己学習による知識の定着をさらに強く指導する予定である。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	有床義歯補綴学Ⅱ実習	第4学年
科目責任者(記載者)	山森 徹雄	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

本科目は、部分床義歯を製作、装着するための理論の理解を深め、その技術を習得することを一般目標としている。そのために部分床義歯の製作に要する各過程を実践することを到達目標としている。

### 2) 自己点検・評価

臨床実習前に修得すべき部分床義歯学に関連する知識を網羅しており、適切な到達目標であると考えている。

### 3) 改善方策

到達目標としては、現行からの修正は不要であると考えている。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

到達目標を実践するための内容について60時間の実習を行った。少人数のグループに分かれ、チュータからの個別指導に従い、実習マニュアルに沿って部分床義歯製作の各過程を実践した。

### 2) 自己点検・評価

臨床実習前に必要な内容を組み込んでいるため、実習時間に余裕がない。学生の授業評価では、すべての項目で全体平均を上回る結果であるものの、時間が不足気味であることが指摘されている。またグループ間の違いに対する不満が提示されている。

### 3) 改善方策

コロナ禍にあって非常勤教員の参画が難しいため、学内スタッフの指導能力向上を目的としてデモ模型の製作に力を入れる。またインストラクターミーティングで学生への接し方、指導方法、到達目標などの統一を図る。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

実習中の口頭試問で形成的評価を行い、実習毎の小試験と実習終了時点の実技試験、製作物と出席状況により総括的評価を行った。

### 2) 自己点検・評価

ほとんどの学生は形成的評価に基づき指導に沿った自学自習を実践し、総括的評価で合格に至った。ただし、欠席の多い2名の学生は不合格と判定された。なおこの2名の学生は複数の他科目でも不合格の結果であった。

### 3) 改善方策

実習前半では講義に先行して実習する内容が含まれるため、事前の説明を詳しく行う。

## 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔外科学Ⅱ	第4学年
科目責任者(記載者)	川原一郎	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

顎・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るために、①手術総論、小手術の知識 ②嚢胞および嚢胞性疾患 ③唾液腺疾患 ④腫瘍および類似疾患 ⑤唾液腺腫瘍 の基礎知識および臨床的な知識を習得させるために授業をおこなっている。

#### 2) 自己点検・評価

到達目標は達成できたと考える。講義内容をより分かり易く伝えるように邁進する。

#### 3) 改善方策

重要項目と重要ポイントを強調しよりわかりやすく理解させる授業に心掛ける。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

教科書と教員の作成したプリントをもとに授業をおこなった。重要事項は板書し説明を加え理解しやすく工夫した。さらに投影視覚素材を使用しわかりやすい授業内容に心掛けた。さらに、プリントは学生に書いてもらえるように余白を多く設けて対応した。

#### 2) 自己点検・評価

学生の授業評価から判断して、教育方法に大幅に変更すべき問題はなかったと考える。

#### 3) 改善方策

重要項目と重要ポイントを強調し、基礎科目と関連させることで、わかりやすく理解させる授業に心掛ける。コロナ禍で双方向性の講義ができなかったが、コロナ終息後は再開させたい。また、学生教員の自宅待機に対応できるようにオンライン講義の準備も進めていきたい。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

評価方法は出席・態度評価(5%)、定期試験(95%)とし65点以上を合格とした。定期試験欠席者に対して追試験をおこない、必要に応じて再試験をおこなった。試験は多肢選択および記述式試験でおこなった。

#### 2) 自己点検・評価

定期試験・追再試験を実施し、6名を除きその他合格とした。学生は授業内容を理解し到達目標に達していると考えますが、十分に理解させられたかは疑問が残るところであり、さらなる講義方法のブラッシュアップが求められる。

#### 3) 改善方策

今後とも同様の評価方法で成績評価を行うが、授業期間中に理解度を確認するための小テストを実施し定期試験の平均点アップに勤める。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔外科学Ⅲ	第4学年
科目責任者(記載者)	高田 訓	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

後期のみでの授業なので、徹底した各論の詳細講義とし、臨床実習直結型の目標となっている。  
コロナ禍で非常勤講師の講義ができなかった。

### 2) 自己点検・評価

到達目標の設定は具体的で理解し易く、目標に沿った授業日程を組むことができている。  
非常勤講師の講義ができず、不満であった。

### 3) 改善方策

コロナ収束を期待し、非常勤講師と授業内容を確認する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

教科書を用いた基本的内容を講義し、臨床に直結させられる写真媒体を多く取り入れた講義を行っている。

### 2) 自己点検・評価

高いモチベーションを確保するためにフィールドワークを取り入れよと考えたが、現状は不可能であった。  
非常勤講師の貴重な資料、写真、症例を提示する機会を多く取り入れ、時間をかけて説明する必要がある。

### 3) 改善方策

成績不良者には、国家試験出題基準に沿った教科書の内容を十分理解できているか、それが卒業試験と国家試験に直結することを理解しているか、自学自習や予習、復習などの方法を教える必要がある。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

授業内容の確認を主体としたMCQと筆記の試験を行うとともに、記述の頻度を高くした。

### 2) 自己点検・評価

総括的かつ重要項目については十分に正しい評価ができた。  
昨年と同様、臨床実習に近い学年であるにもかかわらず、臨床実地に必要な知識を評価できたか否かは不明である。

### 3) 改善方策

試験の成績評価に下駄を履かせることや、追加試験、不要な適宜試験などを行い、無理矢理進級させる試験は絶対に行わない。

# 2021度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科矯正学	第4学年
科目責任者(記載者)	福井和徳	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

矯正歯科治療に係わる総論、診断学、治療学について理解するため、10項目の到達目標を掲げて、通年にわたり教授した。前期は成長発育、正常咬合と不正咬合の基礎を重点に講義した。後期は治療ステップをメインに 総合診断、治療計画立案までの一連の流れからスタートし、抜歯の必要性を説明した。その後、動的治療内容に関する固定の概念、装置の特徴、治療による偶発症、保定と共に再発防止策の講義を実施した。

### 2) 自己点検・評価

診断学、特にセファロ分析に関する課題を宿題でまとめさせ、授業中にフィードバックしたが、回収し個人の到達度をチェックしていないとの評価が目立った。

### 3) 改善方策

セファロの宿題についてはフィードバック後に回収し、個人の評価をしっかりと行う。セファロに関しては4年で講義・演習・実習で基礎を固める方策を継続していく。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

授業形式は教科書を中心に板書・スライドにて講義を行った。授業毎に 講義の最後に関連している範囲の国家試験の平易な問題をピックアップし、確認試験を行った。CBT, 国家試験に頻出されるツイードの計算問題やセファロの計測については復習形式で宿題を課した。

### 2) 自己点検・評価

授業担当者毎のスライド形式が統一されていない。宿題についてはフィードバックに留まらず個人の評価も行なってほしいとの評価があった。CBT, 国家試験に頻出されるツイードの計算問題やセファロの計測については復習形式で宿題とする事で理科力が向上できるため継続する。課題が多いとの評価が見られた。

### 3) 改善方策

授業担当者間でスライドの形式を近接させる。課題はフィードバック終了後に回収し、評価を行う。課題の内容を縮小させる。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

前期・後期の定期試験で評価した。セファロに関しては確認試験としてセファロトレース分析試験を12月に実施した。

### 2) 自己点検・評価

セファロの後期中間試験実施時期を12月よりも前に実施して欲しいとの要望があった。

### 3) 改善方策

セファロの後期中間試験については実施時期修正は困難なため、出題範囲を縮小する方向で検討する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科矯正学実習	第4学年
科目責任者(記載者)	福井和徳	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

2021年度 歯科矯正学に関する基本的な技能を身に付けさせる。特に歯が移動するための原理を理解するために、舌側孤線装置およびマルチブラケット装置の2種類で歯の移動シュミレートを行わせ、学習する。

### 2) 自己点検・評価

2021年度 全員が歯の移動シュミレートを実施し、タイポドント模型上で矯正力が発現するメカニズムや歯の移動様式を理解できることが達成された。しかし、臨床実習中の5年生を最後方席で実習させた際、私語が目立った。また口頭試問時にはインストラクターにより難易度に差があった。

### 3) 改善方策

模型実習会議で口頭試問内容を統一させる。実習の進捗状況を毎回の模型実習会議で報告することで全班の進行に遅滞が生じなかったため、今後も帰属したい。臨床実習の学生には私語を慎むよう指導し、可能であれば別の場所で行うよう指導教員の確保を検討する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

実習前に示説を行い、基本手技後に2種類の装置製作に入る。各班毎にインストラクターをおき、ステップ毎に確認を得ながら進行する。レポート、口頭試問をインストラクターが行う。

### 2) 自己点検・評価

インストラクターの実習開始時の説明時間や、説明内容に差があった。ストレッチャー毎の指導内容は各実習前の会議で統一を図った。

### 3) 改善方策

模型実習会議にて実習時の説明内容、開始時の説明時間などを統一しておく。ストレッチャー毎の指導内容は学生の進行状況を把握し、各実習前の会議で統一を図り、一定の指導を行うようにする。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

実習態度、小試験、総合試験(筆記・実技)、口頭試問により評価する。

### 2) 自己点検・評価

口頭試問に難易度の差があるなどの評価があった。コロナ感染症対策のため数名で総合試験に参加できず、再試験で対応した。実習最後の総合試験での出題内容は国試出題基準に従い調整を行なっている。

### 3) 改善方策

口頭試問の内容を統一させることで標準化を図り、評価を一定にさせる。国試で装置の製作過程が頻出されているため総合試験でも作業ステップの問題を取り入れる。

## 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科放射線学Ⅱ	第4学年
科目責任者(記載者)	原田卓哉	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

到達目標の内容についてある程度達成されていると思われる。

#### 2) 自己点検・評価

長所:説明がわかりやすい。

問題点:解説の時間が少ないときがある。

#### 3) 改善方策

長所を伸長するための方策:わかりやすい説明をする。

問題点を解決していくための方策:解説の時間を多くする。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

教科書の解説と要点の抽出および説明をしている。

#### 2) 自己点検・評価

長所:説明がわかりやすい。

問題点:解説の時間が少ないときがある。

#### 3) 改善方策

長所を伸長するための方策:わかりやすい説明をする。

問題点を解決していくための方策:解説の時間を多くする。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

正解率は70%以上を維持している。評価方法は妥当と思われる。

#### 2) 自己点検・評価

長所:説明がわかりやすい。

問題点:解説の時間が少ないときがある。

#### 3) 改善方策

長所を伸長するための方策:わかりやすい説明をする。

問題点を解決していくための方策:解説の時間を多くする。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科麻酔学	第4学年
科目責任者(記載者)	山崎 信也	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

広く基礎医学と臨床医学を理解することで、的確に患者の全身状態を評価し、その上で安全な患者の生体管理を実践するために必須である歯科麻酔学の知識を修得する。以上が到達目標である。講義はこの目標に沿って行われた。

### 2) 自己点検・評価

試験や実習の成績や、学生からの評価から、上記目標は十分に達成できたと考える。スライドで講義をしてプリントで渡してほしいという要望があった。

### 3) 改善方策

現在の目標は達成できているが、歯科麻酔学の国家試験問題は、徐々に問題数も増加し、範囲も広がってきている。今後も継続的に、高い目標を設定し、それに教育が追従できるように、教育体制を充実させていきたい。スライドで講義をしてプリントで渡してほしいという要望については、後で見れば良く、寝る学生を増やすので、変える必要はない。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

完成資料を配ると学生は講義を聴かなくなる傾向がある。また、スライドをこちらのペースで進めると、学生は講義に追従できなくなり、暗くて寝る者が多くなる。そのため、配るプリントはあえて完成度の低くし、プリントには板書を記入するスペースを設けた。講義のメインは板書とした。

### 2) 自己点検・評価

学生からの評価は、「分かりやすい」、などの回答が得られた。各点数も平均以上を上回っていた。配布したプリントのスペースを上手く使って、綺麗にノートを取ってくれる学生が多く、その点でも効果があったと考える。また、それらが歯科麻酔学の定期試験やCBTに反映されたと考える。

### 3) 改善方策

現在の講義体系を大きく変えるつもりはない。現在の講義がより学生にわかりやすい、親しみやすい、自然と覚えやすい内容になるように、要所所で工夫を加えたい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

本年度も、○×式の客観試験(マークシート使用)に加え、5枝択一の問題および筆記試験とした。前期も後期も中間試験を設けたため追再試験を含めて8回の試験で最終成績が判定され、正確な成績評価ができたと思われる。

### 2) 自己点検・評価

87名が定期試験を受験し、最終評価の平均点は81.25点で、最終評価で不合格となったのは2名であり、この2名は、他の科目も不合格点が多かったため、適切な評価であったと思われる。授業内容をわかりやすく、充実させたための結果だと考え、成果がみられたと考える。

### 3) 改善方策

従来まで行ってきた客観試験のみでは十分な評価ができなかった部分があるため、筆記試験を導入して理解を深めることができたと思われる。時間的にも余裕がみられたので、本年度も記述問題も追加し、従来通り中間試験も加えて、学習効果を高めたい。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	小児歯科学	第4学年
科目責任者(記載者)	島村和宏	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

小児の口腔の健康維持、歯列・咬合の育成をはかるために、成長発育(心身の発育・発達)について学び、小児の口腔発育・発達および種々の口腔疾患を理解して、その診断と治療法についての知識を習得する。

### 2) 自己点検・評価

初回講義に今後の目標設定としてCBT・OSCE・臨床実習試験・国家試験までのポイントと自主努力の重要性、ルール順守を指導した。公平公正に心掛けて指導し、アンケートでも評価する意見が得られた。到達目標の一つ一つを基礎・総論、臨床、各論項目までシラバスに則り行った。学生評価は平均を上回った。試験は前後期で行い、平均点は昨年度より若干上昇したが、一部留年者や編入学生の理解度向上には至らなかった。

### 3) 改善方策

学生からは概ね良好な意見を聞いたが、講義内容については継続して他大学の状況を情報収集する。他大の教員と共同で作成した教科書を用い、事前資料の見直しを図るとともに、一貫して円滑・効果的に授業が進められるよう、担当者間の意識共有のため協議する。あらためて奥羽大学での自主的準備の必要性を伝達する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

重要ポイントは講義開始時に指摘し、教科書の記載場所を確認しながら講義した。CBTのためにも写真を活用し、重要項目を記したプリントを配布した。特に重要な点はあらためて板書し図を描きながら学生自身にも確認させて授業を進めた。必要な写真はカラーで資料配布した。また視覚素材として症例スライド、マネキン、顎模型等を提示し、実際に触れさせて説明を加えた。実習時間の試問小テストも継続した。

### 2) 自己点検・評価

学生評価は平均よりも高かった。当日の授業項目・内容を板書し当日の授業目標を明確にした。教科書図表などから国家試験問題が出題されているため、視覚資料の提示・確認を勧め、理解を深めさせた。実習時間のレポート作成・試問も行い講義と連動させていた。厳しいとの意見もあったが概ね理解を得られた。

### 3) 改善方策

適宜、理解不足な事柄を聴取し、担当者間の意志疎通と事前準備と重要事項(ポイント)の指摘をさらに充実させ、よりわかりやすい講義を目標に配慮する。視覚資料等の点検充実を計る。実習時間の指導との関連強化。板書の量を減らし、講義に集中させつつ学生への質問を行う。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

前後期の定期試験により評価した。前後期それぞれで成績が十分でなかった者については、再試験を行った。その結果をシラバスに記載の評価基準に則って判定した。

### 2) 自己点検・評価

前後期定期試験の結果、合格点未満の学生に再試験を実施した。前・後期定期試験の内容は全講義項目の内容を網羅した出題となっており、学生の理解・習得度の評価には適切であった。試験前には重要項目を伝達しなおしているが、本試で合格基準に満たなかった者もあり、さらに理解度を高めさせたい。平均点や最高点は昨年度並みであった。

### 3) 改善方策

前期の基礎的項目が苦手なものが多かった。興味をひきやすい臨床的内容を関連づけて講義しているが、重要項目の理解を目標に、画像を増やし講義内容の充実を計るとともに、後期にも引き続き前期の内容を復習させつつ、実習も連動して知識定着を図る。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	小児歯科学実習	第4学年
科目責任者(記載者)	島村和宏	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

小児の口腔疾患の診断、処置ならびに口腔健康維持管理を遂行するために、小児のう蝕治療・咬合誘導処置・予防的処置の各項目の理論(知識)と技能、態度を習得する。実習では成長発育過程にある小児の歯科診療(治療)の特徴をよく理解することも重要となる。なおこれらは「モデル・コア・カリキュラム」に沿った内容を基本として実習を進める。

### 2) 自己点検・評価

「モデル・コア・カリキュラム」に準拠し、共用試験OSCEも見据えて実習計画を立てて実践した。「臨床総合演習」で行う課題とも併せて重要課題を網羅した。口頭説明以外にデモや視覚素材も利用したが見ていない者がいたようで残念である。実習と演習が補完的役割も果たし復習に繋がる実習計画とした。時間配分と教員数や教員間の差についての意見があった。

### 3) 改善方策

時間配分の再調整を行うと共に事前の準備を見直し、実習時間の中で円滑・効果的に進められるような実習を目指す。実習と演習の内容を再検討し、臨床総合演習に組み込んだ課題の指導内容を再確認した。講義と連動したレポート提出、試問を継続する。小テスト実施の効果があるようなので継続する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

実習内容に沿った教室独自のサブテキスト2021小児歯科学実習を作成し全員に配布した。また全実習項目で実習開始時に視覚素材<ビデオ>による説明・解説を行い、その後、各グループごとにデモンストレーションを行っている。講義と連動したレポート提出、試問を行った。

### 2) 自己点検・評価

各グループ担当教員が学生の質問・疑問点に積極的に対応している。実習開始時に当日の実習内容に関する小テストを実施。各ステップごとに処置・製作物の段階的評価を行い学生にフィードバックしている。きめ細かく、余裕を持った実習内容は一部学生特に留年者や編入者に空き時間を生んだ。教員間の統一性は図っているが再考する必要がある。態度の良くない学生への対応が、科目間で異なっている可能性がある。

### 3) 改善方策

基本的実習形態・方法・内容は前年度を踏襲するが、時間配分の見直しや、指導教員の一層の指導力向上を図り、非常勤講師の協力により対応力を強化して、実習指導内容の標準化・統一化に努める。一定の検印待ち時間は必要なため、指示した学習項目の予習復習を徹底させる。科目間での指導基準を打ち合わせる。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

各実習項目ごとに実習内容および製作物の評価、ならびに実習試験(筆記試験・課題試験)を実施し、これらを総合して実習の評価を行った。

### 2) 自己点検・評価

実習各項目の評価はシラバスに則り、学生の知識・技能・態度を総合的、客観的に評価している。不合格者がいたが今後もより上達できるように指導していきたい。適宜試験や追加口頭試問も実施し、知識の定着に努めたが、成績の低い学生には多少の重荷となったのはやむを得ないとする。

### 3) 改善方策

従来通り、実習内容に即した各実習項目・課題・実習試験を総合して評価する。臨床的手技に精通した非常勤講師の協力のもと、医局員と共に指導体制を強化する。学生には負担もあるが、口頭試問やレポートは継続する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	高齢者歯科学Ⅱ	第4学年
科目責任者(記載者)	鈴木 史彦	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

高齢者歯科学Ⅱでは摂食嚥下リハビリテーションに関する知識を習得することを目的としている。主な到達目標は、摂食嚥下に関する解剖と生理、摂食嚥下のモデル、原因疾患と合併症、摂食嚥下障害の評価とリハビリテーションの方法、嚥下補助床、栄養管理について学習する。

### 2) 自己点検・評価

シラバスの内容に沿って授業を実施した。長所は授業の開始時に「今回の重要3項目」を提示することで、その回で学習すべき内容のコアとなる部部を明確にしたことである。問題点は、1時限のなかで内容が多い回のあるときに、後半で十分な説明ができないことがあった点である。

### 3) 改善方策

1回の講義で内容が多いものに関しては、内容を2回に分けて実施するような見直しが必要と考えている。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

前回の授業の復習をするために、最初にグーグルフォームを用いた確認テストをしている。結果がすぐにグラフで反映されるため、授業内容に対する学生の理解度の確認にもなる。授業は使用している教科書をもとに、内容をまとめた講義資料とスライドを用いて実施している。また、その回と関連する歯科医師国家試験の過去問題を練習問題として説き方を解説している。

### 2) 自己点検・評価

講義資料は単にパワーポイントのスライド一覧ではなく、ワードファイルにしたものを別途準備し、字が読める資料を心がけている。グーグルフォームでの確認テストにより、リアルタイムで作成される正答率グラフをもとに解説することで、双方向性も確保している。スライドには適宜動画を挿入することで、わかりやすいように工夫している。内容が多い場合に、授業の後半で説明が不足することが問題点である。

### 3) 改善方策

1回の講義で内容が多いものに関しては、内容を2回に分けて実施するような見直しが必要と考えている。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験と追・再試験により100点満点で評価している。80点は筆記問題で、授業で提示した重要3項目に関する問題を出題している。20点は選択肢問題で、授業で提示した歯科医師国家試験の過去問題を改変した問題を出題している。筆記試験と選択肢試験の合計が65点以上の者が合格となる。

### 2) 自己点検・評価

定期試験と追・再試験の終了後に正答を配布し、その場で学生からの疑義を受け付けている。また、定期試験と追・再試験は異なる範囲から出題することで、追試と再試の受験者に対する公正性を担保している。

### 3) 改善方策

授業開始時の確認テストについて、授業評価には明示していなかった。今後は、確認テストの分を加点として最終成績に組み込むことを検討している。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	障害者歯科学	第4学年
科目責任者(記載者)	佐々木重夫	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

第4学年であるため障害者の基礎的な内容を理解してもらう事に重点を置いた。

### 2) 自己点検・評価

教科書を購入してもらっていたが、内容が口腔衛生学、小児歯科学、口腔外科学、歯科麻酔学と重複部分が多いため、よりわかりやすく重点をまとめた内容のプリントを配付した結果、評判は上々であったと思われた。

### 3) 改善方策

学習者がより理解しやすく、さらに重要部分を明瞭にするプリントの改善が必要と思われた。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

身体や顔貌に特徴のある症候群の写真は幼少期に本病院で診察した患者の写真であったため、授業スライドでは提示したが、配付プリントは制限した形で作成した。また、授業においてより障害者に興味を持ってもらうために診療等で得た経験も授業に含めた。

### 2) 自己点検・評価

理解しやすい授業を心掛けたが、授業理解の確認のためにも受講者からの聴取も必要であったと思われた。

### 3) 改善方策

第4学年はCBT受験もあるため、配布プリントの写真を増やすよう改善する必要があると思われた。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

定期試験は授業内容からの出題とし、歯科医師国家試験同様のマークシートを採用した選択式問題50問とした。

### 2) 自己点検・評価

定期試験における問題において正答のばらつきはある程度認められたが、全体的に良好な結果が得られた。及第点(65点以上)に到達しなかった受験者は1名であり、正答数が1題足りなかった(32題正答)結果によるものであった。

### 3) 改善方策

再試験対象者の1名に対しては再試験前に特別授業を行い、多くの受験者が間違った問題について解説し、定期試験問題の40%(20問)程度の問題を再作成して受験した結果、全員が65点以上を解答し、合格となった。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	臨床総合演習	第4学年
科目責任者(記載者)	清野 晃孝	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

OSCE全29課題の内、本臨床総合演習では、26課題をそれぞれの専門分野が8人ないし9人班に濃密に2コマを使用して到達目標に全面的に則した教授を実施している。

### 2) 自己点検・評価

OSCE全29課題の内、本臨床総合演習では、26課題を実施しているが、それぞれの課題には8つ前後の到達目標が設定されており、学生に現実的に理解しやすく対応していると判断する。問題点としては、学生数が90名で前年度(89名)と同じく多く、すでに履修経験がある留年者やOSCE受験経験のある編入生のモチベーションを維持する事は苦慮するものであった。

### 3) 改善方策

各分野のインストラクターが指導内容を標準化し、毎回、真摯に対応すること。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

最初の時間帯に5F実習室に学生全員を集める全体会は最小限の回数にとどめ、全体の周知を行い、その後各セッションに移動し8～9名の学生に当該課題に精通したインストラクターが詳細に分かりやすく、情熱をもって指導している。なお、学生には1課題ワンチャンスとして、その場で確実に習得することを周知している。

### 2) 自己点検・評価

2コマの限られた時間において、当該課題に精通したインストラクターが小人数の学生に教授することで、学習効果は向上していると考ええる。

### 3) 改善方策

臨床総合演習は、他の模型実習とはことなり、全ての臨床講座が同一時間帯に参加することで一体感をインストラクターおよび学生に持続させることが教育効果を高く維持するための方略と考えます。なお、次年度は公的化OSCEトライアルを控えており、10課題を中心に実施することになるが、CBT対策として知識の獲得のために出題外の科目も実施する予定である。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

演習の最終2日間で8課題の実技試験を実施した。8課題の平均値を算出し、総括的評価の合格基準は70%以上としています。

### 2) 自己点検・評価

総合点数の学年の平均値は82.1点であり、最高点は95点、最低点は70点であった。この数値は例年ほぼ同じであり、6課題で評価される医療系大学間共用試験実施機構が行うOSCEにおいても受験生全体の平均値は89点前後であり、本臨床総合演習の成績とリンクしていることが伺える。

### 3) 改善方策

成績評価に関しては、例年ほぼ同じ高点数を維持しているため、継続したいと考えますが、特に前半での実施課題を形成的評価として1学生2課題を実施し直後にフィードバックを1分間行った。これにより気づきを促すこととなる。なお、1課題2コマであり、集中力を高めより実践を積み重ねて修得させることとします。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔インプラント学	第4学年
科目責任者(記載者)	山森 徹雄	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

本科目は、口腔インプラントによる欠損補綴治療のための理論を修得することを一般目標としている。そのために診察や検査、治療計画立案から一連の治療の他、関係する基礎的を学ぶ。

### 2) 自己点検・評価

臨床実習前に修得すべき全部床義歯学に関連する知識を網羅しており、適切な到達目標であると考えている。

### 3) 改善方策

到達目標としては、現行からの修正は不要であると考えている。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

到達目標を実践するための内容について15時間の講義を行った。講義プリントを作成して配布し、プロジェクターで提示したパワーポイントファイルおよび板書を用いて解説した。また今年度は非常勤教員による講義はリモート講義とした。

### 2) 自己点検・評価

学生の講義に対する集中度は概して良好であったと思われる。詳しい説明や繰り返して説明すると共に、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。また講義内容をメモする時間を取って欲しいとの要望があった。

### 3) 改善方策

今年度は学生との双方向性に充てる時間を確保した。スライドからプリントに記入する際の時間不足の指摘があったため、次年度は考慮する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

シラバスに沿って、定期試験で総括評価を実施した。不合格者には再試験を行い、最終評価として全員が合格に至った。

### 2) 自己点検・評価

多くの学生は高得点を獲得していたが、一部の学生に成績不振を認めた。

### 3) 改善方策

一部の学生に成績不振を認めたため、講義内容の復習を指導する必要がある。

## 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔インプラント学実習	第4学年
科目責任者(記載者)	山森 徹雄	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

本科目は、口腔インプラントによる欠損補綴治療のための手技と理論を修得することを一般目標としている。そのために診察や検査、治療計画立案から一連の治療を学ぶ。

#### 2) 自己点検・評価

臨床実習前に修得すべき全部床義歯学に関連する知識を網羅しており、適切な到達目標であると考えている。

#### 3) 改善方策

到達目標としては、現行からの修正は不要であると考えている。ただしシラバス記載に分かりにくい点があるため、改善が必要である。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

グループごとにインストラクターを配置し、画像診断と治療計画立案、模型上での外科治療、補綴治療の実施を行った。

#### 2) 自己点検・評価

学生の講義に対する集中度は概して良好であったと思われる。また実習の進め方や内容についても概ね肯定的な意見であった。ただし、実習時間中の待ち時間が長いとの意見があった。

#### 3) 改善方策

実習手順を見直し、待ち時間が生じにくいように配慮する。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

シラバスに沿って、実習筆記試験と提出物により評価し、全員が合格と判定された。

#### 2) 自己点検・評価

多くの学生は高得点を獲得していたが、一部の学生に成績不振を認めた。

#### 3) 改善方策

一部の学生に成績不振を認めたため、実習内容の復習を指導する必要がある。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔組織学	第6学年
科目責任者(記載者)	安部 仁晴	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯科医師国家試験合格を最終目標に、細胞と組織、人体諸器官、さらに歯と歯周組織をはじめ口腔諸器官の正常構造と微細構造を機能と結びつけ、それらの発生過程、加齢変化を理解出来るように、講義した。また、単に口腔組織学の基本的な知識の習得のみならず他の基礎系科目や臨床系科目と結びつけることが出来るような思考を修得できるように心がけた。

### 2) 自己点検・評価

集計項目のすべてで平均を上回っており、到達目標と講義内容は、次年度も概ね変更する点はないと考える。また『他の科目との関連性がわかりやすい』との意見があり、到達目標に合致した講義内容であることが評価できる。

### 3) 改善方策

集計項目のすべてで平均を上回っており、到達目標と講義内容は、次年度も概ね変更する点はないと考える。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

重要事項をまとめた配布資料(講義プリント)を作成し、スライドを主とした教育方法とした。予習と復習のために授業資料提示システムを使い、配布資料は事前にアップロードした。また、教育内容では、形態学を理解しやすくするために、写真や模式図を数多く取り入れて講義するよう心がけた。

### 2) 自己点検・評価

集計項目のすべてで平均を上回っており、『わかりやすい』や『理解できた』との意見が多かったことから、教育方法は、次年度も概ね変更する点はないと考える。しかし、予習した学生の割合が少ない傾向にあり、質問のしやすさについてもやや低い傾向にあったことは今後修正したい。また『講義スピードが早い』との意見もあったことも注視したい。

### 3) 改善方策

予習する手段として、講義資料を授業資料提示システムに事前にアップロードしていたが、学生に周知されていない可能性があるため、講義の早い段階でアナウンスを数回行いたい。また、講義スピードに関しては、講義内容を考えた上で対処する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

3回の卒業試験で評価した。

### 2) 自己点検・評価

卒業試験に出題した問題の正答率は、平均で81.0%と概ね評価できる。しかし、正答率が60%台の問題や識別指数の低い問題も数問みられたことは、対応すべきと考える。

### 3) 改善方策

正答率が60%台の問題や識別指数の低い問題も数問みられたため、講義内容をもう一度、精査したい。

## 2021年度 授業の自己評価票

授業科目・対象学年	口腔感染免疫学	第6学年
科目責任者(記載者)	清浦有祐	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

到達目標は「1)講義は全て出席し、講義内容を全て理解する。2)講義以外の実力試験FBや強化講義を利用し、理解度を深める。3)実力試験、外部模試を全て受験し、確実な知識を得る。4)実力試験では正答率85%を獲得する。5)外部模擬試験では全国順位上位50%以内を維持する。6)卒業試験では正解率70%以上を獲得する。以上の目標を実現するために学生の向学心と理解度を高める授業を行っている、

#### 2) 自己点検・評価

2021年度の実力試験・外部模試・国家試験の結果からは、改善すべき大きな課題は無いと考える。

#### 3) 改善方策

到達目標について、実力試験・外部模試・国家試験の結果からは改善の必要は認められない。しかし、新型コロナウイルス感染症のようにあらたな感染症や微生物の出現に対応するために、改善する必要がある際は行っていく。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

口腔感染免疫学の全体をわかりやすくかつ全体像が理解できるようにしたプリントと板書を中心とし、学生の理解を深める講義を行った。授業後は新型コロナウイルス感染防止のために、対面での質問対応の代わりにZoom、あるいはメールや電話での質問対応を行った。

#### 2) 自己点検・評価

各論が中心となる微生物学と1つの流れの中で理解する必要がある免疫学の2つを同時に理解させる必要がある。そのため、免疫学では、講義の各コマが連携することを意識して授業を行った。そのことによって、学生の感染免疫学に対する理解度は高まったと考えられる。

#### 3) 改善方策

授業方法や授業の内容について、実力試験・外部模試・国家試験の結果からは大幅な改善が必要な事柄を認めることはできない。しかし、授業アンケートの結果を参考により優れた授業となるように改善を行っていく。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

成績評価は授業概要の記載に従って、3回の卒業試験の平均点で判定した。

#### 2) 自己点検・評価

成績評価については、現状のままで特に大きな問題はないと考える。

#### 3) 改善方策

成績評価では、特に改善すべき点は無い。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科薬理学	第6学年
科目責任者(記載者)	鈴木 礼子	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

平成31年版歯科医師国家試験出題基準に準拠の上、歯科薬理学に関して、歯科医師国家試験に合格するために学修すべき内容を講義し、試験に出題した。但し、全14回という授業回数に鑑みて、歯科薬理学と他科目で重なる事項のうち、他科目が主体となって講義する事項(消毒薬・局所麻酔薬等)については、まとめの回で触れるのみとした。逆に、歯科薬理学が主体となって講義すべき事項については、重点的に講義した。

### 2) 自己点検・評価

115回歯科医師国家試験に出題された歯科薬理学の問題の内容については、全て、授業で講義していた。また、「学生による授業評価」でも、高評価を得ており、改善すべき点としての要望はなかった。従って、概ね、科目担当としては、到達目標の達成に貢献できたと考えている。

### 3) 改善方策

今まで通り、科目内で、歯科医師国家試験における出題傾向を押さえた上での講義内容のブラッシュアップを図り、学生にとって有意義な講義・資料・試験となるよう、努めていく。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

2名の教員で歯科薬理学の講義・試験作問を担当した。スタイルは多少異なるが、両名とも、歯科医師国家試験の出題基準・出題傾向を分析した上で、ポイントをまとめた資料および問題演習プリントを配布し、解説講義と問題演習を実施した。実力試験や卒業試験の出題に関しては、両名で、必ずブラッシュアップを実施した。

### 2) 自己点検・評価

「学生による授業評価」では、両名とも、「わかりやすい」との評価を得ていた。従って、教育方法の基本方針は、妥当であったと考えられた。

### 3) 改善方策

「学生による授業評価」を尊重し、今後も、「わかりやすい資料」・「わかりやすい講義」・「実践に即した問題演習」となるよう、しっかり準備と実施を行なっていく。また、大前提として、科目内で、しっかりと、歯科医師国家試験の出題基準・出題傾向を分析した上で、教育を行なっていく。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

3回実施した卒業試験に、必修問題と一般問題、合わせて、各回8題ずつ出題した。

### 2) 自己点検・評価

卒業試験に出題した問題の傾向や難易度は、概ね、115回歯科医師国家試験の歯科薬理学の問題と乖離していなかったと考えられる。しかしながら、卒業試験に「必修問題」として出題した問題の中に、正答率が著しく低いものがあった。本問題で問うた知識は、直近の授業でも再確認しており、問題としても不適切ではないが、授業での注意喚起の仕方に工夫が必要であったと考えている。

### 3) 改善方策

授業や、実力試験の段階から、学生が曖昧に修得しがちな事項について、明確に修得できるような講義と問題演習を実施する。それにより、国家試験の過去問とは、聞き方や聞く方向が変わったり、タキソノミーが上がったりした問題にも対応できる実力を養成する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔生理学	第6学年
科目責任者(記載者)	川合宏仁	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

基本的な事項を全般的に理解させることで、国家試験に対応できる学力を身に付けさせる。授業への参加意識の高い学生には興味を深める内容の授業が提供できた。また、学力の低い学生にとっては難解でもほとんどの学生がある程度内容を理解できていたようにみえる。

### 2) 自己点検・評価

基本事項を説明し、演習問題に取り組みさせることで効果的であった。学力の低い学生には効果が上がらなかったかもしれない。卒業試験問題が出題予想に基づいた内容に偏りがもしれない。

### 3) 改善方策

基本的な事項について、より深い内容理解につなげるように時間をつかう。また、講義中に関連する既習事項もより多く上げることで効率的に学習できるようにする。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

国家試験の過去の問題から演習を中心に授業を進めた。多くの受講者で効率的に理解の助けとなったが、意欲の低い学生には効果がなかった。(講義と演習が時間的に3:1程度である。)

### 2) 自己点検・評価

効率的に授業内容を理解させるために、演習問題のプリントに加え、教科書からプリントを作成したことで、基本事項の確認もさせることできた。意欲の低い学生には効果が低かった。講義についてこれない学生もいるかもしれない。

### 3) 改善方策

問題の解き方に加え、その解き方に必要な基本事項や関連事項をさらに丁寧に説明していく。また、演習の比重を増やす。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

6回の実力試験、3回の卒業試験による評価

### 2) 自己点検・評価

苦手意識を持つ学生が多いが、再試験等の対応があるので実力試験は問題ないと考える。直近の授業内容から出題される実力試験については、理解度をはかる良い機会であると考えます。

### 3) 改善方策

基本的な事項を理解して、その知識を使いこなせることを評価する問題を作成する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔生化学	第6学年
科目責任者(記載者)	加藤靖正	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

生化学の知識を歯科医師国家試験に出題基準に基づいて、前半をトピックス毎に解説し、後半を既出の国家試験問題を題材として知識の整理に充てた。トピックスとしては、細胞外マトリックス、石灰化とCaのホメオスタシス、遺伝情報、細胞の増殖、細胞死、唾液、ペリクルとプラーク、関連疾患とした。

### 2) 自己点検・評価

24.0%の学生が予習しておらず、授業中に理解を深めることは困難であるにもかかわらず、16.0%の学生が復習していない結果となった。知的好奇心については、64.0%が肯定的に評価していたが、全体平均を下回っている結果となった。科目の平均は3.02(全体平均3.33)であった。ただし、回答率が59.5%だったことについては留意したい。

### 3) 改善方策

学修意欲向上に努める。知的好奇心を改善することは、科目の理解につながるので話題提供なども厳選し提供する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

解説プリントと演習プリントを配布し、解説した。

### 2) 自己点検・評価

国家試験範囲外の内容が多いとの指摘や、他の領域との関連性について話していることが、学生にとっては教員の自慢話として解釈されたことは改善が必要である。

### 3) 改善方策

演習形式の方を好む意見があった一方、ストーリーでの解説もわかりやすかったとの意見がなされた。講義形式と続く演習形式の違いについては、周知する。また、質問の意図がわからず何が分からないのかが分からないと答えたことはあるが、決して小ばかにした訳ではない。受け手の心証の問題なので、一層注意する。資料提示に関しては、毎年バージョンアップする。話す内容についても厳選する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

口腔生化学単独での評価はせずに臨床総合講義としての評価となる。多肢選択式で実施される3回の卒業試験の平均が70.00%以上で合格とした。

### 2) 自己点検・評価

評価は国家試験に準じており、適切に運営された。

### 3) 改善方策

近年の国家試験結果の動向に対応した基準の策定を検討する。臨床総合講義の単位認定試験と卒業試験との関係性については、さらなる検討が必要である。

## 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	保存修復学	第6学年
科目責任者(記載者)	山田 嘉重	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

科目の到達目標は歯科医師国家試験の保存修復学の問題に対する十分な解答能力を身につけさせることである。現在はその目標に向かって毎年授業法を改善している。

#### 2) 自己点検・評価

歯科医師国家試験および外部模試における保存修復学の正答率は以前と比べて正答率は上がってきている学生が増えていると思われる。

#### 3) 改善方策

成績が伸びない学生がまだいるので、得点率が伸びない項目を検討して講義をおこなっていく。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

山田嘉重、菊井徹哉の2名の授業講義者により講義を行っている。授業の方法は主にスライドを用いて、教科書の重要項目および過去の歯科医師国家試験問題や過去数年の外部模試の問題の解説を混ぜながら行っている。

#### 2) 自己点検・評価

前年度の歯科医師国家試験の過去問題や外部模試問題を追加することで、常に新しい問題の出題傾向とその問題の解答法を講義できた。そのためこれまでの出題傾向で重要であると思われる問題の解答能力を身につけさせることはある程度できたものと思われる。

#### 3) 改善方策

歯科医師国家試験、外部模試、卒業試験を通して学生の得点率が上がらない項目を再検討していく。それらの項目を関連教科の問題と照らし合わせながら、学生の知識の定着しやすい講義を心がけて授業内容を改善していく。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

卒業試験の全教科の総合成績で判定している。

#### 2) 自己点検・評価

#### 3) 改善方策

# 2021・2022年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯内療法学	第6学年
科目責任者(記載者)	木村 裕一	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

全体の到達目標として1)講義は全て出席し、講義内容を全て理解する、2)講義以外の実力試験FBや強化講義を利用し、理解度を深める、3)実力試験、確認試験、外部模擬試験を全て受験し、確実な知識を得る、4)実力試験では正解率85%以上を獲得する、5)外部模擬試験では全国順位上位50%以内を維持する、7)卒業試験では正解率70%以上を獲得するとなっている。歯内療法学という科目の到達目標は立てていない。

### 2) 自己点検・評価

全体の到達目標に関しては、全ての講義に出席していない学生がいるので、到達できていない状況である。実力試験での正解率が85%以上に関しては、何回か複数回試験を行うことで達成している。外部模試での上位50%以内を維持するに関しては最後の方では維持できていないのが現状である。卒業試験で正解率70%以上に関しては留年者がいることから達成はできていない。

### 3) 改善方策

出席に関しては自己の体調管理をしっかりと行うことで達成してもらおう。外部模試での上位50%以内を維持するには、相対的に成績が低下している傾向にあるので、最後まで気を緩めずに他の大学を気にしながら頑張ってもらおう。卒業試験で正解率70%以上に関しては各自が勉強して達成してもらおうしかない。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

スライドを利用して3時間の講義を14回行っている。まず、各講義の最初の1時間を使用して、本日の講義内容の概要を説明して、国試での出題箇所などを説明して、その後の2時間を使用して確認のため、問題を解きながら解説を加えている。

### 2) 自己点検・評価

卒業試験の成績が正解率70%以上に達していない学生がいることから講義内容が十分に伝わっていないことが考えられる。卒業試験に関しては講義中に関連する事項として説明しているのも関わらず、試験では成績が悪い学生がいる。

### 3) 改善方策

スライドだけではどうしても単調になりやすいため、できる限りビデオを利用している。内職をしている学生には注意する。歯内療法学の講義は午後からなので、居眠りをしている学生はできるだけ起こす。何か学生の注意を引く、興味を持たせるような講義をする必要がある。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

成績の評価としては卒業試験の成績で評価せざるを得ない状況である。3回の平均で50点ぐらいしかない状況である。

### 2) 自己点検・評価

選択肢が「1つ選べ」より「2つ選べ」となる方が確率的にも難しくなり正解率が低くなる傾向があるが、その傾向が強い。これは問題の内容が正確に理解できていないことが考えられ、内容を理解しないで勘で選んでいることを伺わせている。今後はできるだけ内容を理解させる必要がある。

### 3) 改善方策

6年生から始めるのは時間が足りない可能性があるが、内容を理解しながら覚えさせる必要がある。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯周病学	第6学年
科目責任者(記載者)	高橋慶壮	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯周病の診断, 治療および予防を行うための知識を伝授し, 歯周組織の常態, 疾患, 診断および治療方法を理解し, 歯科医師国家試験に合格するための知識を身に付けさせることを目標としている。42回の講義でおおむね達成できていると考える。

### 2) 自己点検・評価

歯科医師国家試験の結果を勘案すると, 教育効果が出ているように解釈している。ただ, 学生間の授業態度や歯周病学に関する知識量の差が大きく, 授業に集中していない学生が散見されるが, 成績は総じて良くないようである。自己流のやり方に固執するよりも講義に参加して学習する方が成績向上に繋がると思うが, 考え方が変わらない学生は一定数いると思う。

### 3) 改善方策

学生間の学力差を勘案しつつ, 学生が自主的に学ぶ習慣を養うように指導する。具体的に, 事前に授業資料提示システムにデータを挙げて, 講義前に予習することを支援している。講義中は, 講義に集中するように指導をしている。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

教科書(臨床歯周病学 第3版 医歯薬出版およびザ・ペリオドントロジー 第3版)、プリントおよびスライドを用いた講義を行なっている。国家試験の臨床問題を解くには, 臨床推論の能力が不可欠で, 今後も出題が増えると予測されるので, 知識の定着を確認すること, 具体的には, 知識のアウトプットの練習を推奨している。

### 2) 自己点検・評価

定期試験および追再試験はマークシート形成にしている。この方法でも学力をかなり正確に把握できていると判断しているため, 今後もマークシート方式を継続する。

### 3) 改善方策

マークシート形式の試験対策が必要だが, 基本的には知識の定着度を把握する必要があるため, 質問に来る学生対応とZoomによるFeedbackを行っていく。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

国家試験の模擬試験の結果をみる限り, 卒業生の学力は全国平均レベルにおおむね到達している。今年の6年生の成績からも本学の学生に対して教育効果は上がっていると解釈しているが, 全国平均点より10点以上低い結果の問題領域については, 説明を追加する工夫をしている。

### 2) 自己点検・評価

マークシート形式を行っている。正答率が低い問題を精査し, 次年度の教育に活かしたい。

### 3) 改善方策

試験がマークシートの場合, キーワードの丸暗記をして内容を理解していない学生がいるため, 普段からの生活で, アウトプットの練習を推奨する。また, 専門の学問に対する興味を掻き立てるような工夫も必要と思う。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	冠橋義歯補綴学	第6学年
科目責任者(記載者)	羽鳥 弘毅	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

「到達目標」を達成するために国家試験問題を講義内容ごとに編集し、講義に先立ち試験を実施した。その後教科書をまとめた講義資料を用いて国家試験問題を解説した。この際「一般目標」での「国家試験合格」と「到達目標」での「卒業試験合格」を意識して講義を行った。本科目は国家試験において必修・一般・各論・臨実問題で出題されることを学生にアナウンスし、授業を深く理解できるよう配慮した。

### 2) 自己点検・評価

「到達目標」はシラバス記載の通りに授業を行い、授業での「学習の目標」は教科書の内容を反映させた。その結果、「授業はシラバスに沿って進捗したと思いますか。」の項目において、「そう思う(68.3%)」と「どちらかと言えばそう思う(25.4%)」の評価となり、「到達目標」は高評価と自己点検します。問題点としては、「卒業試験不合格者」が存在してしまうことです。

### 3) 改善方策

「到達目標」は高評価であると考えられるので、「シラバスの記載とシラバス熟読のアナウンス」や「教科書の学習の目標」に沿って丁寧に講義を行うことでさらなる高評価を得られるよう取り組みます。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

授業では最初に国家試験で出題された過去問題を15分間で解答し、その後は国家試験問題と教科書をまとめた講義資料を使用して講義を行った。必要に応じ、症例写真も取り組むことで視覚的に理解が進むよう配慮している。また外部模擬試験での出題内容も解説している。

### 2) 自己点検・評価

「教員は授業の準備(時間配分、資料等)をしっかりとっていたと思いますか。」では「そう思う(73%)」であり科目平均が全体平均を0.19ポイント、また「教員の熱意や授業授業の工夫は感じられましたか。」では「そう思う(71.4%)」であり科目平均が全体平均を0.19ポイント上回っていたため学生からの評価は高かったと推察される。問題点は、知的好奇心の刺激や興味の向上に貢献できなかったことである。

### 3) 改善方策

「授業方法・授業資料」はしっかりとっていたために今後の資料作成は年度更新ごとに国家試験や外部模擬試験などの出題内容を追加することにより教育内容が深まるよう改善していきたい。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

3回の卒業試験で平均70.00%以上を合格とする。

### 2) 自己点検・評価

長所は本科目の正答率は高く学生は授業内容をしっかりと理解し、問題解決にたどりつけことである。問題点は採点結果が低い学生が一定の割合で存在することである。「想起→解釈→問題解決」のどこかで情報を整理仕切れていない学生が存在することと判断します。この結果が卒業試験での失点につながってしまうと考えられます。授業の進め方なども含めて改善する必要があります。

### 3) 改善方策

試験問題の正答(率)や識別係数などを判断材料として、授業資料と試験問題のブラッシュアップを行う予定です。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	有床義歯補綴学	第6学年
科目責任者(記載者)	山森 徹雄	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

本科目は、全部床義歯、部分床義歯による補綴歯科治療の理論をまとめ、臨床における応用を理解することを一般目標としている。そのために、有床義歯補綴学Ⅰ、同実習、有床義歯補綴学Ⅱ、同実習および臨床実習に置いて履修した内容を確認すること、およびPOS講義によって臨床での応用を理解することを到達目標としている。

### 2) 自己点検・評価

臨床実習後にまとめるべき知識を網羅しており、適切な到達目標であると考えている。

### 3) 改善方策

到達目標としては、現行からの修正は不要であると考えている。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

到達目標を実践するための内容について56時間の講義を行った。講義プリントを作成して配布し、プロジェクターでパワーポイントファイルを提示しながら説明を加えた。必要に応じて板書による説明を追加して学生の理解を図った。他大学の非常勤教員による講義を6時間予定したが、コロナ禍対応のためリモート講義を4時間のみ実施した。

### 2) 自己点検・評価

学生の講義に対する集中度は概して良好であったと思われる。学生の理解度を確認しながら講義を進めている。

### 3) 改善方策

講義担当者の声が聞き取りにくいとの意見があったため、話すスピードや声の大きさを検討する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

計6回の確認試験で、講義内容の理解度を評価した(形成的評価)。また卒業試験に指定された数、種類の問題を提出し総括的評価を実施した。

### 2) 自己点検・評価

確認試験では、各回とも正答率の低い問題が数問みられた。また卒業試験における平均正答率は70%を下回っていた。

### 3) 改善方策

確認試験で正答率が低かった問題の領域については、フィードバックで解説したが、次年度の講義における説明を検討する必要がある。また卒業試験における平均正答率はほぼ例年度と同等であった。歯科医師国家試験では部分床義歯は全国平均に対する本学平均に近似(-4%)したが、全部床義歯は約2%低値であった。

## 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔インプラント学	第6学年
科目責任者(記載者)	山森 徹雄	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

本科目は、第4学年における口腔インプラント学、同実習および臨床実習で修得した口腔インプラント治療の理論と実践についてその内容をまとめ、整理することを一般目標としており、そのために必要な事項を到達目標としている。

#### 2) 自己点検・評価

臨床実習後にまとめるべき知識を網羅しており、適切な到達目標であると考えている。

#### 3) 改善方策

到達目標としては、現行からの修正は不要であると考えている。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

到達目標を実践するための内容について14時間の講義を行った。講義プリントを作成して配布し、プロジェクターでパワーポイントファイルを提示しながら説明を加えた。必要に応じて板書による説明を追加して学生の理解を図った。他大学の非常勤教員による講義は、コロナ禍対応のためリモート講義とした。

#### 2) 自己点検・評価

学生の講義に対する集中度は概して良好であったと思われる。学生の理解度を確認しながら講義を進めている。

#### 3) 改善方策

質問対応への学生からの要望があったため検討する。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

計6回の確認試験で、講義内容の理解度を評価した(形成的評価)。また卒業試験に指定された数、種類の問題を提出し総括的評価を実施した。

#### 2) 自己点検・評価

確認試験では、各回とも正答率の低い問題が数問みられたため、フィードバックで説明した。

#### 3) 改善方策

確認試験で正答率が低かった問題の領域については、次年度の講義における説明を検討する必要がある。また卒業試験における平均正答率はほぼ例年度と同等であった。歯科医師国家試験での正答率は、全国平均に比較して-6.3%であった。

## 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科矯正学	第6学年
科目責任者(記載者)	福井和徳	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯科医師国家試験の出題傾向および出題基準を基に授業を構成し、歯科医師国家試験の合格に必要な歯科矯正学の内容を総復習して確実な知識を得る。

#### 2) 自己点検・評価

授業内容は歯科矯正学の出題基準に従い、基本的事項から応用まで復習できるよう各回教授している。評価には4年と同じ授業との声があった。

#### 3) 改善方策

4年授業内容から繰り返し出てくる用語の説明がうるさく聞こえる学生もいることから 伝達の仕方を問題を解くキーワードとして伝達できるよう変更したい。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

学生はシラバスに記載されている当日の授業内容を事前確認し、授業内容と実力試験、卒業試験がリンクできるよう配布資料で双方向性を取りながら教授する。

#### 2) 自己点検・評価

臨床実習から遠ざかっている学生のために器材の閲覧や、臨床の手順を動画などで説明し理解力を高めている。

#### 3) 改善方策

授業提示症例については国家試験にリンクする特徴的な症例を提示し、視覚的な特徴を把握できるよう授業を組んでいる。今後も提示資料を増加させるよう整備を行なっていく。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

卒業試験で評価する。

#### 2) 自己点検・評価

卒業試験問題と115回国家試験で出題された問題との一致度を検証している。卒業試験に出題した問題、授業で教授した内容は国家試験とリンクしている。

#### 3) 改善方策

今後、卒業試験問題をさらに歯科医師国家試験とリンクできる問題作成を行う。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	小児歯科学	第6学年
科目責任者(記載者)	島村和宏	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯科医師国家試験に合格することを目標に、小児の口腔の健康維持、歯列・咬合の育成に関わる、成長発育（心身の発育・発達）および種々の口腔疾患を理解して、その診断と治療法についての知識を習得する。

### 2) 自己点検・評価

歯科医師国家試験での大学成績は振るわなかったが、小児歯科学の項目については一定の成績であった。模擬試験では全国的にも成長発育に絡む基礎項目の得点が低い傾向にあった。あらためて自習時間の拡充が必要と考える。講義については、基本事項の復習を中心に必修での取りこぼしを防ぐよう説明してきたが、「聞いたことがある」と考えて講義中に理解することを放棄しているような学生がいたことは残念である。

### 3) 改善方策

学生からは概ね良好な意見を聞き、卒業生からも内容の問題点はなかったと評されたが、継続して他大学の状況を情報収集する。教科書は他大学でも使用しており、複数教科書の内容を資料に組み込んでいるが、あらためて資料の見直しを図る。関連他科と共通する項目は特に重複してもよいので復習させる。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

歯科医師国家試験問題を用いて練習問題として解かせ、その後に復習講義と正答を導くための項目や正解の説明を行っている。重要ポイントは複数回指摘し、臨床実地問題のためにも写真を活用して重要項目を記したプリントを配布した。特に重要な点はあらためて板書し図を描きながら学生自身にも確認させて授業を進めた。できるだけカラー画像を用いた。

### 2) 自己点検・評価

講義に対して内容の理解はされていると感じるが、試験の時まで定着できていない学生がおり、成績の振るわない者は特に基本的事項の知識が不足していることから、模擬試験での基礎項目得点が伸び悩んだ。教科書図表などから国家試験問題が出題されているため、視覚資料の提示・確認を勧め、理解を深めさせた。

### 3) 改善方策

適宜、理解不足な事柄を聴取し、図表を用いて重要事項（ポイント）の指摘をさらに充実させる。難しい問題よりも基本必修問題の正答率を上げられるよう、復習を徹底させる。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

卒業試験の正答率は比較的高く、国家試験問題の水準に近いと考える。採点基準は試験委員会の判断で行われている。

### 2) 自己点検・評価

卒業試験の正答率平均は合格基準より上で比較的成績は良かったが、大学の国家試験結果は残念だった。小児歯科の正答率は比較的高い問題が多かったものの、何度も説明した問題で間違える者への手当てが必要である。

### 3) 改善方策

さらに1問でも必修や一般問題での取りこぼしを防げるよう、あらためて基礎的知識の積み上げのため、国家試験問題や模擬試験も参考にしつつ、問題を作成し解説と共に精度を上げられるよう努める。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科放射線学	第6学年
科目責任者(記載者)	原田卓哉	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

正解率は70%以上を維持している。

### 2) 自己点検・評価

長所: 模試の復習をしている点。  
問題点: 基礎の重要なところを教えてほしい。

### 3) 改善方策

長所を伸ばすための方策: 模試の解説をする。  
問題点を解決していくための方策: 基礎の重要なところを教える。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

模試の復習をしている。

### 2) 自己点検・評価

長所: 模試の復習をしている点。  
問題点: 基礎の重要なところを教えてほしい。

### 3) 改善方策

長所を伸ばすための方策: 模試の解説をする。  
問題点を解決していくための方策: 基礎の重要なところを教える。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

正解率は70%以上を維持している。

### 2) 自己点検・評価

長所: 模試の復習をしている点。  
問題点: 基礎の重要なところを教えてほしい。

### 3) 改善方策

長所を伸ばすための方策: 模試の解説をする。  
問題点を解決していくための方策: 基礎の重要なところを教える。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	総合臨床医学	第6 学年
科目責任者(記載者)	馬場 優	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

臨床歯学の土台となる外科学・内科学・耳鼻咽喉科学の内容を概観し、病の病態、診断、治療に関する知識を習得する。具体的には、医の倫理について説明できる。インフォームド・コンセントについて説明できる。医療安全の意義について説明できる。主要な症候と対処法について列挙できる。疾患の診断と治療について説明できるを到達目標にし、6年生全員が到達目標に達した。

### 2) 自己点検・評価

6年生全員が到達目標に達したということは、私が、そのように導いたということですので、自己点検としては「良」である。

### 3) 改善方策

特になし

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

国家試験の出題基準にのっとり、教育を行っている。

### 2) 自己点検・評価

国家試験の出題基準にのっとり、教育を行い、さらに最近の国家試験を参考に、定期試験を作成し、その結果6年生全員が到達目標に達したので、「良」である。

### 3) 改善方策

学生の意見を参考にさらなる教育方法の改善を図っていく予定である。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

卒業試験で評価する。

### 2) 自己点検・評価

問題点は特になし。

### 3) 改善方策

特になし。

## 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科麻酔学	第6学年
科目責任者(記載者)	山崎信也	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯科医師国家試験に合格するために、という一般目標に沿ってカリキュラムが組まれた。

#### 2) 自己点検・評価

歯科麻酔学では、歯科医師国家試験における全国平均より、本学卒業者の全国平均が、例年上回っている。

#### 3) 改善方策

現在のカリキュラムは良い部分も多く、安定してきているので、このカリキュラムを更に改良し安定させ、改良すべき点は改良し、充実させていきたい。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

実力試験で成績不良の学生は土曜日の確認試験を義務づけ、7限目はzoomでフィードバック講義を行った。

#### 2) 自己点検・評価

上記の方策は有効であったと思われ、継続する。

#### 3) 改善方策

コロナ関係での欠席は公欠扱いににされるということから、全体として、曖昧な欠席が多くなった可能性がある。来年度は、体調不良時に関する何らかの取り決めが必要と思われる。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

3回の卒業試験の平均が70点以上を合格とした。

#### 2) 自己点検・評価

学生に疑義を提出させている。歯科麻酔学の不適當問題の疑義については、年々、減少している。

#### 3) 改善方策

今後も、卒業試験の問題の質は担保したい。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	高齢者歯科学	第6学年
科目責任者(記載者)	鈴木 史彦	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

高齢者歯科学は臨床総合講義の一環として、国家試験出題基準に関わる内容について学習する。年間42コマ実施する。

### 2) 自己点検・評価

シラバスの内容に沿って授業を実施した。長所は授業の開始時に「今回の重要3項目」を提示することで、その回で学習すべき内容のコアとなる部部を明確にしたことである。問題点は、1時限のなかで内容が多い回のあるときに、後半で十分な説明ができないことがあった点である。

### 3) 改善方策

1回の講義で内容が多いものに関しては、内容を2回に分けて実施するような見直しが必要と考えている。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

前回の授業の復習をするために、最初にGoogleフォームを用いた確認テストをしている。結果がすぐにグラフで反映されるため、授業内容に対する学生の理解度の確認にもなる。授業は使用している教科書をもとに、内容をまとめた講義資料とスライドを用いて実施している。また、その回と関連する歯科医師国家試験、医師国家試験、歯科衛生士国家試験の過去問題を練習問題として説き方を解説している。

### 2) 自己点検・評価

講義資料は単にパワーポイントのスライド一覧ではなく、ワードファイルにしたものを別途準備し、字が読める資料を心がけている。Googleフォームでの確認テストにより、リアルタイムで作成される正答率グラフをもとに解説することで、双方向性も確保している。スライドには適宜動画を挿入することで、わかりやすいように工夫している。内容が多い場合に、授業の後半で説明が不足することが問題点である。

### 3) 改善方策

3時限続きの講義であるため、不足した場合は次の時間の開始時につなげるようにしているが、1回の講義で内容が多いものに関しては、内容を2回に分けて実施するような見直しが必要と考えている。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

卒業試験3回において、卒業試験委員会から割り当てられたオリジナル問題を作問している。そのため、単科での成績評価は実施していない。

### 2) 自己点検・評価

各回の卒業試験後に、学生からの疑義を受け付けている。また、正答率や識別指数を参考にすることで、作成した問題が適切であったのかの見直しをしている。

### 3) 改善方策

正答率や識別指数の低い問題については、ブラッシュアップしていくことで良問が作成できるように改善していく予定である。

## 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	障害者歯科学	第6学年
科目責任者(記載者)	佐々木重夫	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

第4学年時より到達目標は多くする必要があるが、授業範囲が広いいため、第4学年時の確認から始め、歯科医師国家試験に沿う内容を意識した。

#### 2) 自己点検・評価

広い授業範囲ではあるが、内容を絞ることを念頭に置いた。

#### 3) 改善方策

第6学年は勉強量も膨大となるため、より重要な項目に焦点を当てるようにする。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

歯科医師国家試験問題を配付プリントに盛り込み、理解が深められるようにした。

#### 2) 自己点検・評価

プリントに演習問題があつて良かったとの意見もあつたが、卒業試験を見据えた、臨床問題の練習問題があると良いとの意見もあり改善が望まれた。

#### 3) 改善方策

障害者の授業や問題作成において、臨床の場における視覚素材の収集が必須であると思われた。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

第1～3回の卒業試験は必修6題、総論6題、各論6題、臨床実地問題6題の合計24題であり、問題によっては極端に正答率が低い状態にあつた。

#### 2) 自己点検・評価

第1回と第2回の卒業試験問題における受験者の疑義によって採点を変更することがあつた。疑義に対する回答を講義室に掲示した。

#### 3) 改善方策

受験者からの疑義の申し立ては使用教科書や配付プリント以外からのなされるので、広い視野を持った作問を検討する必要があると思われた。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	公衆衛生学・口腔衛生学	第 6 学年
科目責任者(記載者)	廣瀬公治	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

公衆衛生学・口腔衛生学領域の要点を理解し、歯科医師国家試験に対処できる学力を修得することを到達目標としている。

### 2) 自己点検・評価

到達目標は明確であり評価する。

### 3) 改善方策

現状を維持する。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

これまで講義は板書中心とした方法で実施していたが、医師国家試験予備校のスタイルを取り入れた過去問徹底研究型に講義方法を変更した。

### 2) 自己点検・評価

歯科医師国家試験のみならず、医師国家試験、管理栄養士国家試験などの問題を例示し、要点に絞った講義をしたことは評価できる。しかし、例示問題数が多くなり、学生が消化不良を起こしていたことは改善が必要である。

### 3) 改善方策

重要な問題に絞り、正解までの道のりを根拠をもって理解できる講義とする。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

卒業試験で評価している。

### 2) 自己点検・評価

卒業試験での平均点は70点前後で正答率・識別指数も良好である。

### 3) 改善方策

現状を維持する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	社会歯科学	第 6学年
科目責任者(記載者)	南 健太郎	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯科医師として、必要な法的知識、社会保障制度、社会の変化やニーズに対応させ、かつ、国家試験合格を目標としたオリジナル問題を作成して解かせる講義スタイルとした。

### 2) 自己点検・評価

社会歯科学の国家試験の結果から、この講義スタイルを継続することが最善である。

### 3) 改善方策

次年度もこの方法で行う。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

学生が歯科医師として稼働するために必要な法的知識と社会制度を学習するため、オリジナル問題と解説を配布した。

### 2) 自己点検・評価

オリジナル問題と目標点の設定は、学生からも学習しやすいと評価があった。

### 3) 改善方策

次年度もこの講義スタイルを継続する予定である。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

合計3回の卒業試験で判定。

### 2) 自己点検・評価

各卒業試験で、正答率が80%前後で推移している。試験問題の難易度は妥当と考える。

### 3) 改善方策

このまま継続する。

## 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔外科学	第6学年
科目責任者(記載者)	高田 訓	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

前年度は臨床総合講義として目標を立てたので、科目の到達目標はない。

#### 2) 自己点検・評価

十分講義できた。

#### 3) 改善方策

各分野を得意とする講師の講義ローテーションを工夫し、学生自身のモチベーションを下げない。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

紙媒体を配布し、スライドによる対面講義を主体とした。

#### 2) 自己点検・評価

学生の集中力を欠かさないう講義を進行できた。

#### 3) 改善方策

このまま継続する。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

実力試験と卒業試験の結果がリンクし、右肩上がりの学生は、卒業と国家試験の合格が期待できる。

#### 2) 自己点検・評価

卒業試験と国家試験をリンクできた。

#### 3) 改善方策

このまま継続する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	口腔内科学	第6学年
科目責任者(記載者)	高田 訓	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

前年度は臨床総合講義として目標を立てたので、科目の到達目標はない。

### 2) 自己点検・評価

十分講義できた。

### 3) 改善方策

学生自身のモチベーションを下げない。  
非常勤講師の講義を再開させたい。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

紙媒体を配布し、スライドによる対面講義を主体とした。

### 2) 自己点検・評価

学生の集中力を欠かさないよう講義を進行できた。

### 3) 改善方策

このまま継続する。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

実力試験と卒業試験の結果がリンクし、右肩上がりの学生は、卒業と国家試験の合格が期待できる。

### 2) 自己点検・評価

卒業試験と国家試験をリンクできた。

### 3) 改善方策

このまま継続する。

## 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	災害歯科医学	第6学年
科目責任者(記載者)	板橋 仁	

調査実施年月:2023年3月

### I 到達目標

#### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

歯科医師国家試験に合格するため、国家試験出題基準に関わる全ての内容を理解し、卒業する。

#### 2) 自己点検・評価

第115回国家試験において、全国的に正解率が低い問題(法医学)があり、本学ではそれより更に低かった。法医学を自分が教えることには、やはり限界を感じる。

#### 3) 改善方策

歯科法歯学の範囲についてカバーするため、次年度から外部講師を招聘した。

### II 教育方法

#### 1) 教育方法の現状説明

カリキュラムに沿った内容に関連する国家試験問題について解説し、理解を深める

#### 2) 自己点検・評価

「授業のレジュメが配られない時がある」等の意見があった。

#### 3) 改善方策

レジュメを前半・後半で分けて配布したが、もう少し細かく分けて配布する形をとる。

### III 成績評価

#### 1) 成績評価の現状説明

卒業試験で評価する。3回の卒業試験にそれぞれ2問ずつ出題。

#### 2) 自己点検・評価

各回とも、問題により正解率が大きく異なっていた。

#### 3) 改善方策

正解率にあまり極端な差が出ない様、問題の内容および難易度の吟味を徹底する。

# 2021年度 授業の自己評価報告書

授業科目・対象学年	歯科医療管理学	第6学年
科目責任者(記載者)	大橋明石	

調査実施年月:2023年3月

## I 到達目標

### 1) 科目の到達目標に対する現状説明

予備校模擬試験、卒業試験、国家試験の結果を見る限り、シラバス記載の【一般目標】および【到達目標】を達成出来ていると思われる。

現在の授業スタイルは、シラバス記載の【一般目標】および【到達目標】を達成する方法として、間違っていないと思われる。

### 3) 改善方策

学生から上がった要望・改善要求等が、真に必要なことなのか・真に正しいことなのかをしっかりと吟味した上で、しっかりと授業にフィードバックさせる。

## II 教育方法

### 1) 教育方法の現状説明

学生による授業評価・アンケート結果および予備校模擬試験、卒業試験、国家試験の結果を見る限り、現在の教育方法は間違っていないと思われる。

### 2) 自己点検・評価

学生による授業評価・アンケート結果および予備校模擬試験、卒業試験、国家試験の結果を見る限り、現在の教育方法は間違っていないと思われる。

### 3) 改善方策

学生から上がった要望・改善要求等が、真に必要なことなのか・真に正しいことなのかをしっかりと吟味した上で、しっかりと授業にフィードバックさせる。

## III 成績評価

### 1) 成績評価の現状説明

予備校模擬試験、卒業試験、国家試験の結果を見る限り、現状で問題ないと思われる。

### 2) 自己点検・評価

予備校模擬試験、卒業試験、国家試験の結果を見る限り、現状で問題ないと思われる。

### 3) 改善方策

一人でも多くの学生が国家試験に合格できるよう、1問でも多くの問題に正解できるよう、得点アップに繋がるよう、更に授業の質を高める。